平成28（2016）年鳥取県中部地震による
石造文化財の被害調査

2019

鳥取大学 地域学部 考古学研究室・保存科学研究室

序

2016 年 10 月 21 日に発生した鳥取県中部地震によって，倉吉市をはじめ周辺地域では，そこでの生活や文化，歴史を物語る重要な証人である文化財も大きな被害を受けた。文化財の中でも，国や県の指定文化財や登録文化財などについては，早急な被害確認がおこなわれ，今後の対応が検討されたほか，新聞報道などに取り上げられ，一般市民にも広く知られるところとなった。

それらに対し，未指定文化財については，数が多く，様々な場所に存在することから，悉皆的に被害を確認することが困難なため，全容を把握することができない状況であった。

そのような状況に鑑み，鳥取大学考古学研究室と保存科学研究室では地域調査の一環として，鳥取県中部の文化財，主に未指定の石造文化財について，地震被害状況を確認するとともに，経年的な劣化状況の把握および保存方法の検討をおこなうための調査を実施した。本調査成果が少しでも被災した文化財の保全の役に立つならば，幸いである。

本調査を進めるにあたっては，鳥取県環境学術研究等振興事業費等の助成を受けた。また，永昌寺をはじめとする文化財所有者，地域住民のみなさんのご協力をいただくとともに，関係機関に様々なご援助をいただいた。篤く感謝申し上げる。

編者一同

例　言

1.本書は,「平成 28 (2016) 年鳥取県中部地震」による石造文化財の被害の有無，程度等について，2016 年 10 月～2018 年 11 月の期間に現地調査をおこなった結果の報告書である。本書は高田健一，李 素妍，中原 計が分担執筆し，高田が編集を担当した。また，掲載した狛犬の劣化診断シートは，青木美穂，大石絃樹，岡田憲明，神庭幹久，杉本泰志，高木郁弥，高橋臣伍，田中 翔，長野正悟，古林 智，道脇加奈，渡辺朱美が作成したほか，添付 DVD に納めた図面類は，株式会社アイテック（鳥取県米子市尾高 1278-3）に委託して作成したものである。

2.調査の実施，および本書の作成にあたっては，平成 29 年度，30 年度の鳥取県環境学術振興事業補助金（地域振興部門）による助成を受けた。また，学内経費として平成 29 年度鳥取大学地域支援事業の地域課題研究Ｂ（実践型）の助成をも受けた。

	鳥取県環境学術振興事業補助金	鳥取大学地域支援事業
2017 年度	780,000 円	309,000 円
2018 年度	1,015,000 円	0 円

3.本研究に関する調査の参加者は，次のとおりである。

2016 年度地域環境学科４年生：石河香央里，川住李紗，同３年生：足立鷹紀，奥 智樹，神川将吾，川口峻平，田代昴平，野田章博，槙岡麻友，松本愛佳，山本大貴，2017 年度地域環境学科４年生：片山裕介，富川太郎，同３年生：生田笑佳，河野真由子，高力日奈子，小嶋太一，藤本剛矢，水石洋美，村本景奈，同２年生：青木美穂，大石絃樹，岡田憲明，神庭幹尚，杉本泰志，高木郁弥，高橋臣伍，田中 翔，長野正悟，長谷勇佑，古林 智，道脇加奈，渡辺朱美，教員：李 素妍，高田健一，中原 計

4.本研究を進めるにあたっては，以下の機関，個人のご支援，ご協力をいただいた（50 音順，敬称略）。篤く感謝申し上げる。

大林厳道，菊地芳朗，北 浩明，君嶋俊行，杉井 健，中森 祥，下江健太，根鈴智津子，根鈴輝雄，箕田拓郎，山口雄治，倉吉市教育委員会文化財課，鳥取県教育委員会文化財課，鳥取県埋蔵文化財センター

目　次

序
例言

第１章　調査に至る経緯と調査・研究の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1　地震発生直後の関わり（高田）
　2　2017 年度の調査活動（高田）
　3　2018 年度の調査活動（高田）

第２章　平成 28 年鳥取県中部地震と文化財被害の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　1　指定文化財の被害（李）
　　1）国指定文化財
　　2）国登録文化財
　　3）県指定文化財
　　4）市町村指定文化財
　2　未指定文化財の被害（中原）
　　1）倉吉博物館所蔵考古資料
　　2）小田軍人墓地
　　3）打吹山城跡所在石仏群
　　4）鳥取県中部の神社石造物

第３章　石造文化財の被災状況調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　1　調査の対象と方法（高田）
　　1）調査対象の選定について
　　2）SfM/MVS による３次元画像合成
　　3）３次元レーザー測量
　2　石造狛犬（中原）
　　1）湯梨浜町
　　2）倉吉市
　　3）三朝町
　　4）北栄町
　　5）琴浦町
　3　横穴式石室（高田）
　　1）家ノ後口１号墳
　　2）大宮古墳
　　3）三明寺古墳
　　4）福庭古墳
　　5）本泉２号墳
　　6）向山６号墳

7）SfM/MVS についての課題
4 県指定保護文化財・永昌寺十三重石塔の調査と修復過程（高田）
5 永昌寺十三重石塔の指定対象と構成要素について（高田）

第４章　保存に向けた提言・・31
1 永昌寺十三重石塔初重軸部の強度測定（李）
1）研究方法
2）研究結果と考察
2 石造文化財における地衣類対策と強化処理（李）
1）研究対象および方法
2）研究結果および考察
3 モニタリングと日常管理（李）

狛犬の劣化診断シート・・・42

図版

第１章　調査に至る経緯と調査・研究の経過

１　地震発生直後の関わり

平成 28 年鳥取県中部地震（以下，中部地震）は，2016（平成 28）年 10 月 21 日の午後２時７分に発生した。震源は鳥取県中部の三朝町今泉（北緯 35.4°，東経 133.9°）の地下 11km の位置で，震度６強，マグニチュード６.６を記録した。気象庁によると，中部地震の発震機構は西北西・東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で，地震発生日から翌日にかけての震央は，三朝町今泉周辺から倉吉市厳城にかけて約 15km に渡って分布している（気象庁 2016，大阪管区気象台 2016 など）。本震ののち，余震が長期間継続し，2017（平成 29）年 10 月末までに記録された震度１以上の余震は，471 件を数えた。なお，中部地震による被害の全体像やその復旧の経緯の概要については，『鳥取県中部地震震災記録誌』に詳しい（倉吉市総務部防災安全課 2018）。

文化財にどのような被害があったかの詳細は次章以降に譲り，ここでは，本研究を始めるきっかけとなった緊急の被災文化財調査について触れておこう。

金曜日の地震発生から土・日を経て週明けになると，地震による被害が深刻であることが具体的に明らかになってきた。幸い人的被害は重軽傷者 25 名に止まったものの，建物への被害は大きく，全壊，半壊，一部損壊合わせて 20,144 件に上り，避難生活を余儀なくされた方々は延べ 8,673 人に達した。倉吉打吹玉川重要伝統的建造物群保存地区内の家屋などの被害も多数に上ることが予想されたが，倉吉市教育委員会文化財課の職員は，自ら被災しながらも避難所対応等に追われ，文化財の被害調査にまで手が回らない状況であった。そこで，鳥取県教育委員会文化財課，鳥取県埋蔵文化財センターの職員が，被災地域の指定文化財などの被害状況を確認するために現地入りするとの情報を得たため，鳥取大学地域学部に所属する関係教員で協議し，学生とともにその支援活動に参加することとした。

調査は 10 月 31 日から開始し，考古学研究室，保存科学研究室の教員，所属学生を中心に，主として倉吉市内の指定文化財の所在地を訪れ，地震による被害の確認をおこなっていった。鳥取大学の担当は，県指定および市指定の文化財であったが，現地調査の結果，石造文化財を中心に復旧困難なほどに倒壊したものがある状況を目の当たりにした。また，移動の最中に墓地，社寺などの墓碑・石碑の類が一様に倒れ，あるいは折損する姿を垣間見た。

指定文化財の現地確認が一段落したのち，倉吉博物館の考古資料の展示品，収蔵品もまた落下，破損し，混乱が生じていたため，資料の接合，再分類などを 11 月４日～28 日までに，週１，２回のペースでおこなった。

その後，未指定文化財も含めて，当面の現地確認ができなかった文化財について，基礎的な分布調査が必要との思いを強くした。例えば，国指定，県指定史跡の横穴式石室については，その被害状況を確認したものの，市指定史跡の大宮古墳，家ノ後口古墳については，石室開口部の門扉が固定されて直ちに内部確認ができない状態となっており，詳細に確認できていなかった。未指定ながら当地域の研究史上重視されているいくつかの横穴式石室についても，現地確認が必要と思われた。

また，神社等の石塔類や歴史的な墓碑類にも相当な被害が予想されたが，それらの実態が全く把握されないまま片付けられたり，廃棄されたりする可能性も考慮できた。狛犬については，鳥取県立博物館によって県内全域の網羅的なデータベース化が試みられており，その他の石造文化財については，各市町村単位で把握されているが，それらが中部地震によってどのような被害を受けたか，あるいは受けなかったかの調査を始める必要があると考えられた。

12 月以降，数回にわたって，倉吉市内を中心に予備的な分布調査をおこなったところ，打吹山周辺の神社で多数の石造物の被災が認められ，狛犬，燈籠，玉垣，石垣が倒壊，破損している事例が多く見られた。また，破損に至らなくとも，台座から大きく動いてバランスを崩した石造物や墓碑も多く，二次的な被害を防止するために移設や補強が必要なものもあると思われた。これらの中には行政組織や管理者が適切に対応して処理されたものも多いと思われるが，広域にわたって統一的な視点で，指定の有無を問わずに文化財の被害の全容を把握する作業が必要と思われた。そのため，次年度以降，体制を整えて悉皆的な分布調査をおこなうこととした。

なお，2017 年 3 月 6 日，7 日にかけて，日本考古学協会の菊地芳朗氏，杉井健氏の来訪を受けた。県域全体の被災状況について，鳥取県教育委員会文化財課の中森祥氏から解説を受けたのち，倉吉博物館，古墳などを中心に文化財の被災状況を現地確認していただいた。また，2016 年度の活動状況は 2017 年 4 月 15 日，16 日に開催された考古学研究会第 63 回研究集会においてポスター発表した（下江他 2017）。

2 2017 年度の調査活動

2017 年度から，より広範囲の分布調査を計画した。計画の策定に当たっては，鳥取県教育委員会文化財課の助言を受け，鳥取県環境学術振興事業補助金に申請した。幸いにもその助成を受けることができ，また，鳥取大学地域貢献支援事業による支援も受けることができたため，調査に必要な予算を確保できた。

鳥取大学地域学部では，２年次生の必修科目として，地域調査実習という科目を用意しており，この時間枠を利用して調査活動をおこなった。例年，考古学分野と保存科学分野は別々の実習プログラムを用意してきたが，2017，2018 年度は合同で実施することとし，教員３名，学生 13 名を３班にわけ，地域を分担しながら現地調査を繰り返した（図１，図２）。

主として火曜の午後を地域調査実習に当てることができたが，大学から調査対象地への移動だけでも片道１時間以上が見込まれることから，調査対象を広げすぎると期間内に現地調査が終わらない可能性も考えられたため，調査対象とする石造文化財を狛犬と横穴式石室に絞ることにした。また，調査範囲は鳥取県中部全域とし，倉吉市，三朝町，湯梨浜町，北栄町，琴浦町とした。

調査対象を狛犬とした理由は，鳥取県立博物館の狛犬データベース [1)]や地図上から神社の所在地を参照してリストアップが比較的容易であり，広域の被害の把握に向いていると判断したからである。横穴式石室は，被災の有無が確認できていない重要遺跡の確認を目指すこととした。

図１　調査風景（湯梨浜町松崎神社）

図２　調査風景（湯梨浜町松尾神社）

また，調査メンバー全員が情報を共有しながら，データの更新を随時可能にするため，狛犬の位置をグーグル・マップ上にプロットし，グーグル・ドライブ上で写真や分布図などのデータを管理しながら進めた。文化財調査の経験がない学生を中心とした調査となるため，調査記録はなるべく単純化し，専門的な技術を用いなくても良い方法を選択した。詳しくは後述するが，被災程度の判断を３段階程度に単純化して評価する劣化診断シートを準備し，現地で観察結果を容易に記入できるようにした。また，デジタルカメラを使用して３次元画像を生成する手法（SfM/MVS）を積極的に取り入れた。これは，文化財の被災調査を簡便かつ迅速におこなう方法の試行とも位置づけている。

2017 年４月 11 日から，原則として毎週火曜日に分布調査をおこない，合計 18 日の現地調査をおこなった。また，夏季休業期間中の 2017 年８月 21 日～9 月３日にかけて，横穴式石室墳の確認調査や写真撮影，墳丘測量図作成を実施するとともに，倉吉市岩倉に所在する県指定保護文化財・永昌寺十三重石塔の保存修理作業に立会い，石材の強度調査などを実施した（図３，図４）。

倉吉市厳城に所在する向山６号墳は，中部地震によって最も深刻な被害を受けた横穴式石室で，羨道部の積み石が崩落したり，玄門部の石材が移動し，楣石の元々破断していた部分が拡大するなどして不安定な状態になっていた。石室内に長時間とどまって調査活動をおこなうことは安全面から懸念があった。また，石室上面の墳丘は，震災以前から削平を受けて凹んでいたのだが，震災によって亀裂が生じたことから，石室内に雨水が多量に侵入することも懸念された。墳丘上には応急的にシートで雨水の侵入が抑えられているものの，墳丘の侵食によって石材の二次的な移動も懸念されたため，震災の影響による石室の経年変化を見る必要があった。そこで，向山６号墳の石室については，３次元レーザー計測を２カ年にわたっておこない，石室構築材や石材の隙間から侵入する土砂の経年変化を検討することとした。３次元レーザー計測については，株式会社アイテックに委託しておこなった。第１回目の計測は 2017 年９月８日，第２回目の計測は 2018 年 11 月 12 日に実施した（図５）。

なお，2017 年度の調査成果については，2017 年７月１日，２日に開催された文化財保存修復学会第 39 回大会において（李他 2017），2018 年４月 21 日，22 日に開催された考古学研究会第 64 回研究集会においてポスター発表するとともに（中原他 2018），2018 年３月 24 日に鳥取大学サイエンス・アカデミーにて報告した（高田 2018）。

３ 2018 年度の調査活動

石造文化財の現地調査の多くは 2017 年度中に終了したが，2018 年度には補足的な調査や写真の再撮影などを 11 月頃まで断続的におこなった。向山６号墳の石室については，被災後の経年変化を見る

図３　永昌寺十三重石塔の保存修復作業

図４　家ノ後口１号墳の測量調査

図５　向山６号墳の３次元レーザー測量調査

ために，何度か目視観察をおこなった。およそ１年後に 2 回目の３次元レーザー計測をおこなうこととしていたが，2018 年は平成 30 年７月豪雨をはじめ降雨が多く，台風も例年より多く到来したため，墳丘の流失や石室内への悪影響が懸念された。そこで，台風や降雨が収束する時期を待って，11 月 12 日に再計測をおこなった。

地域調査実習としての成果は，2018 年 6 月 16 日に地域調査実習発表会（於・とりぎん文化会館）で報告し，その概要を要旨集に掲載した（青木他 2018）。本書は，地域調査実習の成果を骨格としつつ，要旨集には掲載しきれなかった調査資料を精査して再編集し，大幅な補足を加えたものである。

註

１）鳥取県立博物館の狛犬データベース　http://digital-museum.pref.tottori.jp/contents/komainu/index.html（2019 年 1 月 10 日閲覧）

参考文献

青木美穂・大石絃樹・岡田憲明・神庭幹尚・杉本泰志・高木郁弥・高橋臣伍・田中 翔・長野正悟・古林 智・道脇加奈・渡辺朱美 2018「鳥取県中部における石造文化財の地震被害調査」『地域調査実習（地域環境）報告書』第 18 巻（2018 年度），鳥取大学地域学部地域環境学科，pp.43-54

大阪管区気象台 2016『平成 28 年 10 月 21 日 14 時 07 分頃の鳥取県中部の地震について』（平成 28 年 10 月 22 日支援資料，http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1049509/4kaigi-kisyoudai.pdf：2019 年 1 月 10 日閲覧）

気象庁 2016『平成 28 年 10 月 21 日 14 時 07 分頃の鳥取県中部の地震について』（平成 28 年 10 月 21 日報道発表資料，https://www.jma.go.jp/jma/press/1610/21a/kaisetsu201610211540.pdf：2019 年 1 月 10 日閲覧）

倉吉市総務部防災安全課 2018『鳥取県中部地震震災記録誌』倉吉市（なお，電子書籍版は以下の URL から入手可能。http://www1.city.kurayoshi.lg.jp/bosai/kirokushi/index.html：2019 年 1 月 10 日閲覧）

下江健太・高田健一・中原 計・李 素妍・北 浩明 2017「鳥取県中部地震による文化財の被害状況とその対応について（ポスター発表）」（考古学研究会第 63 回総会・研究集会『災害と考古学』，岡山，2017 年 4 月 15 日・16 日）

李 素妍・高田健一・中原 計 2017「鳥取県中部地震による未指定石造文化財の被害調査（ポスター発表）」（文化財保存修復学会第 39 回大会，石川，2017 年 7 月 1 日・2 日）

中原 計・高田健一・李 素妍 2018「鳥取県中部地震による石造文化財への被害状況確認調査（ポスター発表）」（考古学研究会第 64 回総会・研究集会『権力とは何か−祭祀・儀礼と戦争から考える』，岡山，2017 年 4 月 15 日・16 日）

高田健一 2018「鳥取県中部地震による石造文化財の被災状況調査」（鳥取大学サイエンス・アカデミー第 447 回，鳥取，2018 年 3 月 24 日）

第２章　平成 28 年鳥取県中部地震と文化財被害の概要

１ 指定文化財の被害

鳥取県中部地震による指定文化財の被害状況を表１に示す。

１）国指定文化財

史跡７件，名勝１件，重要文化財８件，天然記念物１件，そのほかに，国選定「打吹玉川伝統的建造物群保存地区」では 207 棟が被害を受けた。鳥取市の史跡１件に地震被害があり，被害文化財は「鳥取藩主池田家墓所」であった。この燈籠一基笠部のずれが発生して墓石１基倒壊，墓石１基（藩主墓ではないところ）が損傷した。倉吉市の史跡３件に地震被害があり，被害文化財は「伯耆国分寺跡」，「伯耆国府跡の法華寺畑遺跡」および「大原廃寺塔跡」であった。「伯耆国分寺跡」では塔基壇縁石のずれ等があり，「伯耆国府跡の法華寺畑遺跡」では復元門の柱ずれが発生し，「大原廃寺塔跡」では塔心礎のずれが確認された。米子市の重要文化財１件に地震被害があった。被害文化財は「後藤家住宅」であり，土壁のヒビ等が発生した。倉吉市の重要文化財１件，天然記念物１件，史跡１件に地震被害があった。被害文化財は，重要文化財の「子持壺形須恵器と脚付子持壺形須恵器」，天然記念物の「波波伎神社社叢」，史跡の「三明寺古墳」であった。倉吉博物館に所蔵されている「子持壺形須恵器と脚付子持壺形須恵器」の 9 点が破損した。「波波伎神社社叢」では樹木枝折れの被害があり，「三明寺古墳」では壁石材の剥離等が発生した。

三朝町の重要文化財１件に地震被害があった。被害文化財は三徳山の「三仏寺文殊堂」であり，重要文化財の文殊堂を支える柱２本が岩から浮いている。外観上は異常なさそうであるが，建物の中には入れない状態である。文殊堂が乗る岩に幅 10cm のクラック４本を確認し，長さは不明である。行者道の鎖坂下の大岩にクラックが入ったので一般参拝客の立ち入りを制限した（2016 年 12 月 16 日～2017 年４月 18 日）。湯梨浜町の重要文化財２件，名勝１件，史跡１件に地震被害があった。被害文化財は，重要文化財の「尾﨑家住宅」，名勝の「尾崎氏庭園」，重要文化財の「長瀬高浜遺跡出土埴輪」，史跡の「北山古墳」であった。「尾﨑家住宅」と「尾崎氏庭園」では蔵等で壁が落下した箇所が多数であり，庭石や燈籠転倒が数件であった。「長瀬高浜遺跡出土埴輪」では，展示館や収蔵庫の埴輪 10 体が転倒などにより破損した。「北山古墳」では後円部墳頂部にひび割れが発生した。

大山町の重要文化財３件，史跡１件に地震被害があった。被害文化財は，重要文化財の「銅造観世音菩薩立像」，「大神山神社奥宮」と「末社下山神社」，「木造阿弥陀如来及び両脇侍像」および史跡の「大山寺旧境内」であった。「銅造観世音菩薩立像」であり大山寺宝物館霊宝閣に所蔵・保管展示している仏像のうち 1 体が転倒した際に頸部破損が発生した。「大神山神社奥宮」と「末社下山神社」では基礎部分にずれが発生した。「木造阿弥陀如来及び両脇侍像」では台座ずれが発生した。「大山寺旧境内」の石垣及び燈籠等，数カ所で崩落等の被害があった。

２）国登録文化財

登録文化財 11 件, 登録文化財および県指定名勝１件, 登録有形民俗文化財１件に地震被害があった。

倉吉市の登録文化財６件，登録文化財および県指定名勝１件，登録有形民俗文化財１件に地震被害があった。被害文化財は，登録文化財の「倉吉市役所本庁舎」，「飛龍閣」，「大社湯」，「山陰民具店舗兼主屋」，「旧倉吉町水源地ポンプ室他１棟」および「矢城家住宅主屋」であった。また，登録文化財および県指定名勝の「小川氏庭園」，登録有形民俗文化財の「鳥取の二十世紀梨栽培用具」であった。

「倉吉市役所本庁舎」が損壊して入口階段の被害やガラス破損があった。「飛龍閣」では瓦落下や壁崩

表１ 鳥取県中部地震による指定文化財の被害状況

市町村	被害物件	被害状況
鳥取市	国史跡「鳥取藩主池田家墓所」	燈籠一基笠部ずれ、墓石１基倒壊、墓石１基損傷（藩主墓ではないところ）
倉吉市	国選定「打吹玉川伝統的 建造物群保存地区」	２０７棟の被害
	国史跡「伯耆国分寺跡」	塔基壇縁石のずれ等
	国史跡「伯耆国府跡の法華寺畑遺跡」	復元門の柱ずれ等
	国史跡「大原廃寺塔跡」	塔心礎のずれ
	国指定重要文化財「子持壺形須恵器、脚付子持壺形須恵器」	９点破損（倉吉博物館所蔵）
	国指定天然記念物「波波伎神社社叢」	樹木枝折れ被害
	国指定史跡「三明寺古墳」	壁石材剥離等
	国登録文化財「倉吉市役所本庁舎」	損壊、入口階段被害、ガラス等破損
	国登録文化財「飛龍閣」	瓦落下、壁崩落
	国登録文化財「大社湯」	浴場タイル落下ほか被害
	国登録文化財「山陰民具店舗兼主屋」	瓦ズレ
	国登録文化財「旧倉吉町水源地ポンプ室他１棟」	量水室外壁コンクリート剥離
	国登録文化財「矢城家住宅主屋」	瓦ズレ等
	国登録有形民俗文化財「鳥取の二十世紀梨栽培用具」	防虫剤を入れるためのカメの取っ手の破損
	県指定保護文化財「不入岡の石仏」	１体被害
	県指定保護文化財「桑田家住宅」	煙突崩壊
	県指定保護文化財　「高田家住宅」	被害
	県指定保護文化財　「永昌寺十三重塔」	損壊
	県指定保護文化財　「埴輪鹿」	右後脚破損
	県指定保護文化財　「装飾櫛文銅鐸」	１号鐸破損
	県指定保護文化財「阿弥大寺弥生墳丘墓群出土遺物一括」	土器９個破損
	県指定保護文化財「不入岡遺跡古墳時代竪穴住居出土遺物一括」	土器２個破損
	県指定保護文化「長谷寺本堂及び仁王門」	本堂外壁板壁破損
	県指定保護文化財「木造狛犬」	転倒により吽形の右足破損
	国登録文化財および県指定名勝　「小川氏庭園」	燈籠転倒被害
	県指定史跡　「大日寺古墓群」	石塔が複数倒壊
米子市	国指定重要文化財「後藤家住宅」	土壁のヒビ等
三朝町	国指定重要文化財「三仏寺文殊堂」	三徳山の国指定重要文化財文殊堂を支える柱２本が岩から浮いている。外観上は異常なさそうだが、建物の中には入れない状態。文殊堂が乗る岩に幅10cmのクラック４本を確認、長さは不明。現在、一般参拝客の立ち入りを制限（行者道の鎖坂下の大岩にクラック入り）
	国登録文化財「旅館大橋」	情報なし
	国登録文化財「南苑寺」	瓦数枚落下、本堂柱２本浮き、基礎亀裂等
湯梨浜町	国指定重要文化財「尾崎家住宅」 国指定名勝「尾崎氏庭園」	蔵等の壁等落下箇所多数、庭石・燈籠転倒数件あり
	国指定重要文化財「長瀬高浜遺跡出土埴輪」	展示館・収蔵庫の埴輪10体が転倒などにより破損
	国指定史跡「北山古墳」	後円部墳頂部にひび割れ
	国登録文化財「安楽寺」	経蔵壁落下、燈籠１基倒壊、石垣崩落
	県指定保護文化財「橋津藩倉」	壁に一部ひび割れ
琴浦町	国登録文化財「転法輪寺本堂」	礎石から柱ズレなど
大山町	国指定重要文化財「銅造観世音菩薩立像」	大山寺宝物館霊宝閣に所蔵・保管展示している仏像のうち１体が転倒した際に頭部を破損
	国指定重要文化財「大神山神社奥宮」、「末社下山神社」	基礎部分にずれ
	国指定重要文化財「木造阿弥陀如来及び両脇侍像」	台座ずれ
	国指定史跡「大山寺旧境内」	数カ所で崩落等の被害
江府町	国登録文化財「旧江尾発電所本館」	建物の内壁落下

落が確認された。「大社湯」では浴場タイル落下等の被害があった。「山陰民具店舗兼主屋」では瓦ズレがあり，「旧倉吉町水源地ポンプ室他１棟」では量水室外壁のコンクリートが剥離した。「矢城家住宅主屋」では瓦ズレ等が確認された。「鳥取の二十世紀梨栽培用具」は防虫剤を入れるためのカメの取っ手が破損した。「小川氏庭園」では燈籠の転倒被害があった。

三朝町の登録文化財２件に地震被害があり，被害文化財は「旅館大橋」，「南苑寺」であった。「旅館大橋」では地震被害が報告された。「南苑寺」では瓦数枚落下，本堂柱２本浮きおよび基礎の亀裂等が発生した。湯梨浜町の登録文化財１件に地震被害があり，被害文化財は「安楽寺」であった。「安楽寺」では経蔵壁落下，燈籠１基倒壊および石垣崩落が確認された。琴浦町の登録文化財１件に地震被害があった。被害文化財は「転法輪寺本堂」であり，その礎石から柱ズレ等が発生した。江府町の登録文化財１件に地震被害があった。被害文化財は「旧江尾発電所本館」であり，その建物の内壁が落下した。

３）県指定文化財

史跡１件，保護文化財 12 件に地震被害があった。

倉吉市の保護文化財 11 件，史跡 1 件に地震被害があった。被害文化財は，保護文化財の「不入岡の石仏」,「桑田家住宅」,「高田家住宅」，「永昌寺十三重塔」，「埴輪鹿」,「袈裟襷文銅鐸」,「阿弥大寺弥生墳丘墓群出土遺物一括」,「不入岡遺跡古墳時代竪穴住居出土遺物一括」,「長谷寺本堂及び仁王門」,「木造狛犬」および史跡の「大日寺古墓群」であった。

図６　倉吉荒尾家墓所の被災状況

「不入岡の石仏」の 1 体に被害があり,「桑田家住宅」の煙突が崩壊した。「高田家住宅」では被害が報告されて，「永昌寺十三重塔」が損壊した。「埴輪鹿」の右後脚が破損し，「袈裟襷文銅鐸」の 1 号鐸が破損した。「阿弥大寺弥生墳丘墓群出土遺物一括」の土器 9 個が破損した。「不入岡遺跡古墳時代竪穴住居出土遺物一括」の土器 2 個が破損し,「長谷寺本堂及び仁王門」の本堂外壁板壁が破損した。「木造狛犬」が転倒により吽形の右足が破損した。「大日寺古墓群」では複数の石塔が倒壊した。湯梨浜町の保護文化財 1 件に被害があった。被害文化財は「橋津藩倉」であり，その壁に一部ひび割れが発生した。

４）市町村指定文化財

把握できたものとしては，倉吉市指定有形文化財が 3 件ある。永昌寺石造宝塔では号，3 号の笠石が転落し，1 号の本体が動いた。旧牧田家住宅（主屋・付属屋）では，主屋の壁がはがれたり，亀裂が入るなどの比嘉があった。また，倉吉荒尾家墓所附位牌群の内，打吹山中に位置する墓所は墓石 10 基のうち 4 基の墓碑が倒れ，墓石の基礎石がずれたり，燈籠が倒壊するなどの大きな被害を受けた（図６）。

２ 未指定文化財の被害

未指定文化財にはさまざまなものが含まれるが，ここでは，鳥取県中部地震発生後の 12 月 6 日に，におこなった調査の際に現地で状況を確認できたもの，また，後述する狛犬の地震被害および劣化状況調査の際に確認できた神社石造物の被害について概要を記す。

１）倉吉博物館所蔵考古資料

倉吉博物館では，展示および収蔵されていた考古資料が転倒，棚からの落下によって，破損した。展示されていた資料については，固定されていたものもあり，被害を免れたものもあったが，転倒により

図７　倉吉博物館収蔵資料破損状況

図８　小田軍人墓地の被災状況

一部破損したものが多くみられた。収蔵棚に保管されていた土器については，複数個体が同じ場所落下したため，同一個体の識別が困難になったものや接合関係が不明になったものなどがあり，大きな被害を受けた（図 7)。

２）小田軍人墓地

小田軍人墓地は，倉吉市の北東部の上北条地区小田にある伯耆しあわせの郷の敷地横に所在している。日露戦争および満州事変～太平洋戦争での戦没者の墓地である。地震の被害としては，墓石が根元から倒壊しているものや，折れているもの，台座ごと回転しているものなど大きな被害が確認された。また，墓石以外にも墓地の由来等を刻んだ石碑のずれや，その他石碑の倒壊などさまざまな被害が確認できた（図 8)。

３）打吹山城跡所在石仏群

打吹山の西方尾根にある，打吹山城の越中丸と呼ばれる曲輪跡には，西国霊場三十三ヵ所と四国霊場八十八ヵ所の石仏群が置かれていた。地震被害としては，台座からの落下やずれが多くの石仏で確認された（図 9)。

４）鳥取県中部の神社石造物

テレビニュースでも被害が報道された倉吉八幡神社など倉吉市内 6 ヵ所の神社について被害状況の確認をおこなった。倉吉八幡神社では，神社周りの玉垣，鳥居，燈籠の倒壊，狛犬の転落，破損など多大な被害が確認できた（図 10)。波波伎神社では，本殿周りの玉垣の破損，燈籠の破損，狛犬の破損などが確認できた。上小鴨神社では，本殿周りの玉垣の一部倒壊，燈籠の倒壊，狛犬の破損転落などを確認した。広瀬神社では，燈籠の倒壊やずれが確認できた。倭文神社では，本殿周りの玉垣の倒壊，燈籠の倒壊，狛犬の破損，転落などが確認できた（図 11)。

その後，後述する狛犬についての調査をおこなう際に，それ以外の神社石造物の地震被害についても

図９　打吹山城越中丸石仏群の被災状況

図 10　神社石造物の被災状況（倉吉八幡神社）

図 11　神社石造物の被災状況（志津倭文神社）

記録をおこなった。調査範囲は，倉吉市のほか湯梨浜町，北栄町，三朝町，琴浦町である。被害の状況を地図上に示したものが図 12 である。◇が，建物や石造物などに破損や倒壊の被害が確認できた神社，△は，ゆがみやずれが確認できたところ，●は調査時点において被害が確認できなかったところである。

まず，地域別にみると，倉吉市域では，建物や石造物などに破損や倒壊の被害が確認できた神社は，59 社中 31 社であった。被害は倉吉市全域に及ぶが，特に，震源に近い東部で大きな被害を受けている。湯梨浜町では，破損・倒壊の被害が確認できた神社は 18 社中 6 社であった。被害を受けた神社は主に東郷池の西側に所在している。三朝町では，30 社中 11 社で破損・倒壊の被害が確認できた。特に震源となった北西部では被害の大きな神社がみられた。北栄町では，18 社中 10 社で，破損・倒壊の被害が確認できた。被害の確認できた神社は町の全域にわたってみられるが，震源に近い東側に比較的多くみられる。琴浦町では，倒壊・破損の被害があった神社は 30 社中 5 社であり，海沿いと内陸部に点的に分布している。琴浦町は震源から比較的離れていることもあり，被害があった神社自体は多くないが，本殿周りの玉垣が倒壊するなど比較的大きな被害のあった神社も確認できた。

被害状況からみると，震源に近い倉吉市，三朝町，北栄町で被害が多く，地震の原因となった断層に沿った南北方向に被害が広がっていることが分かる。震源に最も近く，被害の大きかった神社として，三朝町今泉神社がある。今泉神社は，三朝町の北東部，天神川西岸の丘陵地の山裾付近に立地し，震源からの距離は 2km 程度である。この神社については，2017 年 5 月 23 日に被害調査をおこなった後，同 9 月に境内の建造物配置図を作成するための調査をおこなった。被害状況としては，石段のゆがみ，石垣の崩落，燈籠の倒壊，狛犬の転落・破損，本殿周りの玉垣倒壊，瓦の落下など多岐にわたっていた（図 13）。

ただし，震源からかなり離れた神社でも被害がみられることから，鳥取県中部全域で被災していることも重要である。特に，湯梨浜町，北栄町，倉吉市，三朝町の天神川沿い南北 16km，倉吉市の打吹山周辺を中心に三朝町神倉の神倉神

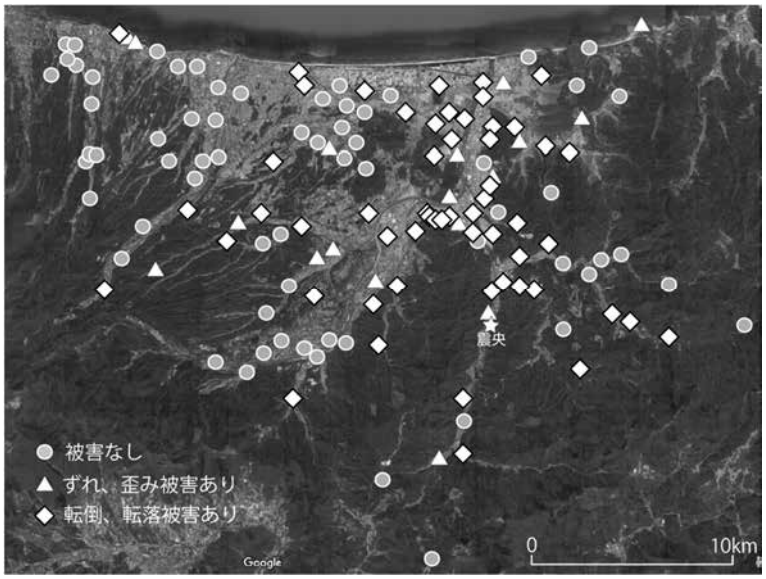


図 12　神社石造物の被害分布

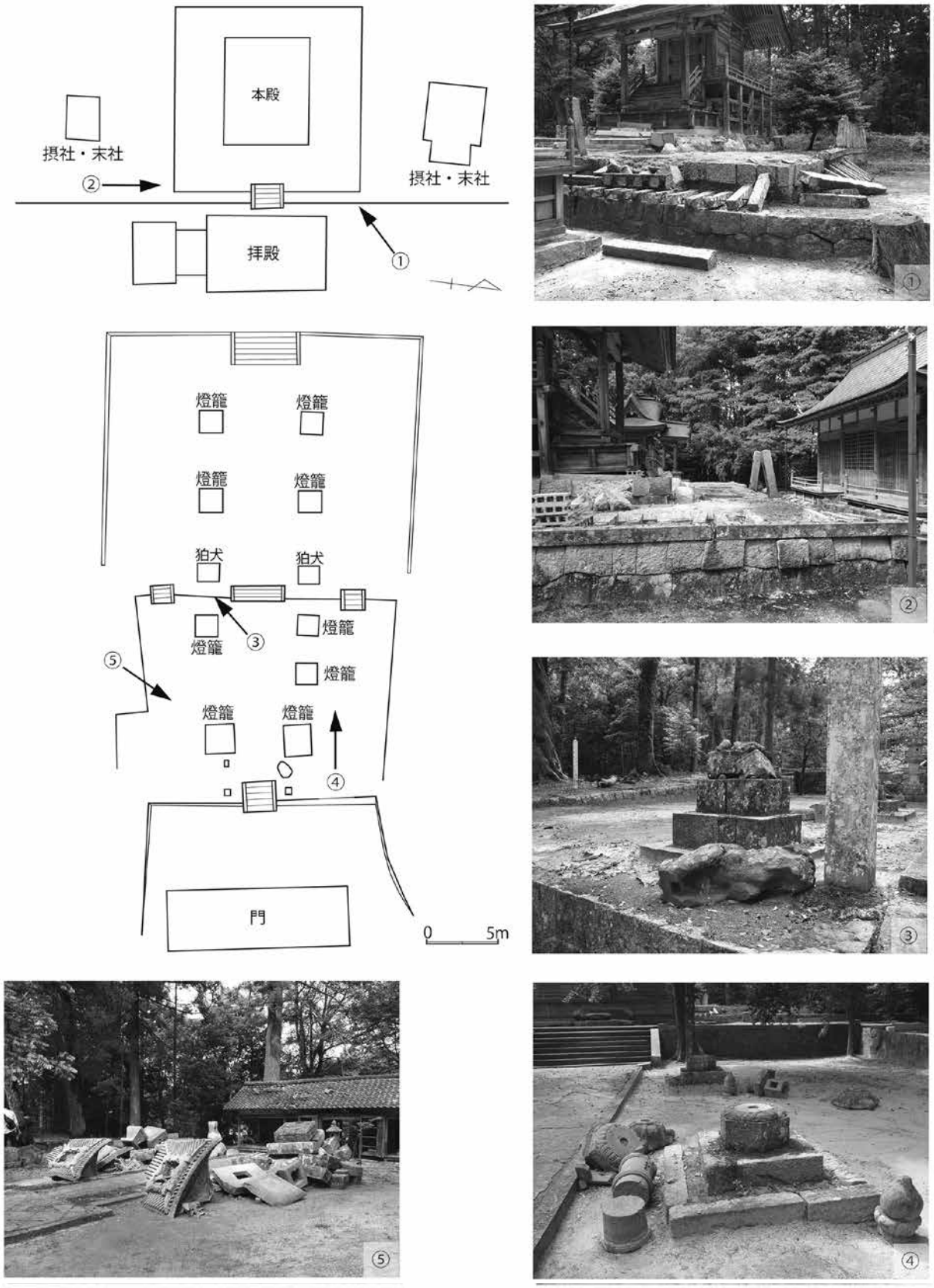


図 13　今泉神社の被災状況

社から琴浦町大字宮場の春日神社にいたる東西約 24km の被害の広がり方や海沿いにおける湯梨浜町南谷の北野神社から琴浦町赤碕の天乃神奈斐神社までの東西約 20km にわたる被害の広がり方（図 14）は，鳥取県中部における地震の揺れの伝わり方との関連が考えられ，今後この地域での地震への対応を考える上でも重要なデータであるといえる。

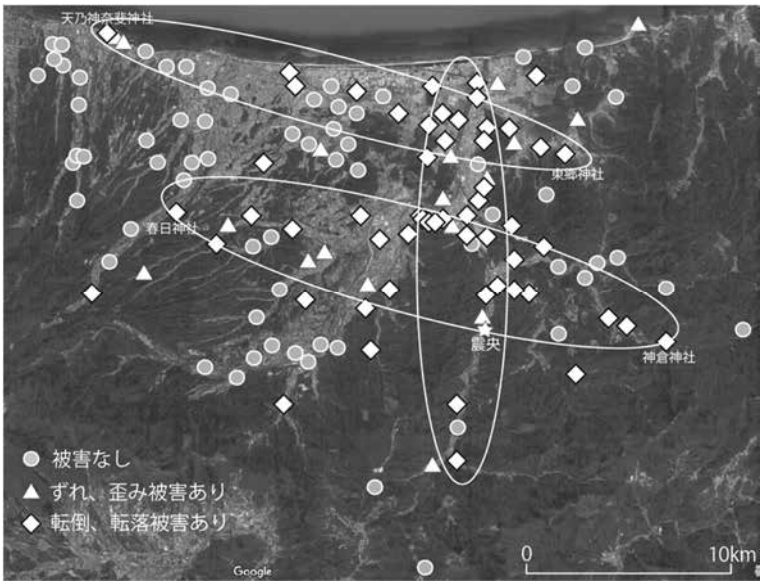


図 14　神社石造物の被害分布

また，被害が大きかった地点は，気象庁が公開している 2015 年 10 月以降の地震活動の状況において，地震活動が複数回にわたって確認されていた場所におおむね該当する（地震調査研究推進本部・地震調査委員会 2016）。このことから，比較的軽度の地震が続くような地域においては，あらかじめその後の地震への対策を講じるとともに，付近でより大きな地震が起こった際には，震源となった断層に沿った地域とともに，これらの地域から被害確認調査をおこなっていくことが肝要である。

参考文献

地震調査研究推進本部・地震調査委員会 2016「2016 年 10 月 21 日鳥取県中部の地震の評価」
（https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2016/20161021_tottori.pdf：2019 年 1 月 10 日閲覧）

第３章　石造文化財の被災状況調査

１ 調査の対象と方法

１）調査対象の選定について

調査対象となる石造文化財は，きわめて多種多様で，大量になると予想されたが，それらのすべてを短期間で網羅的に調査することは困難である。調査対象の種類や数を限定しつつも，広域的に被災の有無を検討できるものがふさわしいと考えられた。

そこで，2016 年度中の予備調査の結果を踏まえて，狛犬に注目することが最も被災の全体像を把握するのに有効と思われた。狛犬は被災地に広く偏りなく分布し，なおかつ材質や法量に著しい個体差がないため，状況確認の指標として適していると考えられた。また，先述のように鳥取県立博物館のデータベースによって所在確認も比較的容易であり，現地調査の計画が立てやすい。

狛犬が比較的単純な構造物であるのに対して，地震によって深刻な被害を受けるのは，石垣や横穴式石室のような石材を組み合わせた構築物と考えられた。予備調査の段階でも，横穴式石室の被害が深刻なものになる可能性が予想できた。少なくとも，過去に実測図が作成され，被災の有無を判断可能な横穴式石室については，現地確認の上，再実測が必要と考えた。

２）SfM/MVS による３次元画像合成

横穴式石室の被災状況を調査するにあたって，多視点から撮影したデジタル画像を元に３次元画像を合成する SfM/MVS（Structure from Motion / Multi Views Stereo）を活用した。その理由は，①地震被害の有無を判定する際には，情報を選択しがちな考古学的視点を排して，あらゆる現状に関する情報を３次元的に収集することが有効と考えられること（杉井 2017），②測量経験のない学生を引率した調査であり，限られた期間で６基の横穴式石室の現地調査を終える必要があること，③修復計画を立案する必要が生じた場合に，土木工学等の分野でも利用できるデータが必要と考えられること，④②とも関連するが，多数の文化財が一挙に被災した場合に備えて，誰でも可能な簡便な調査方法を確立する必要を感じたこと，が挙げられる。

写真撮影は，一眼レフカメラ（富士フィルム社・X-T1，フジノン XF18mm）とコンパクトカメラ（キヤノン社・IXY 930 IS）の両方を用い，石室内の光量不足を補うために LED の照明装置を石室内に持ち込んだ。画像解析には Agisoft 社の PhotoScan Professional を使用した。

また，横穴式石室の玄室内の様子を表現する一つの方法として，360°全天球カメラ（リコー社・THETA S）を使用して撮影する方法を試みた [1)]。

３）３次元レーザー測量

向山６号墳の石室については，石室内での作業を極力避けるため，無人で計測可能な３次元レーザー測量をおこなうこととした。また，３次元レーザー測量を実施するもう一つの理由は，経年変化を精密に評価するためである。計測間隔が 1 年ではどの程度の評価が可能か難しい面もあると思われたが，2 回の計測値を比較して，石材などに移動する部分があるかどうかの確認は，今後の保存対策を検討する上でも必要な作業と考えられた。

３次元レーザー計測については，株式会社アイテックに委託して実施した。使用した機材は FARO 社 Focus 3D X330 である。横穴式石室内，羨道部をレーザースキャナー測定し，データ処理および編集した上でオルソ図を作成した。2017 年度と 2018 年度に 2 回計測し，その偏差解析結果をヒートマップ図として石材の移動の有無，石室内の土砂堆積の変化を検討した。

また，合わせて，Onset 社データロガーHOBO Pro v2（temp/RH）を用いて 1 年間の石室内の温湿度環境を記録した。

2 石造狛犬

地震発生直後におこなった，未指定文化財の被害調査の結果，広い範囲で被害が確認されるとともに，震源からの距離が変わらない場所であっても被害の程度に差がみられた。そのため，地震被害の詳細な広がりを把握することを目的に，未指定文化財のうち，鳥取県中部に広く点在する神社石造物，特に石造狛犬に着目し，調査をおこなった。また，同時に狛犬の経年的な劣化度合いについても調査をおこなった。

鳥取県における狛犬は，来待石と呼ばれる島根県松江市で産出される凝灰質砂岩で作られた出雲型狛犬と呼ばれる型式のものが主である（廣江 2004，2005，2007，2008）。それ以外には，花崗岩で作られた岡崎型狛犬と呼ばれる型式のものもみられる（たくき 2013）。鳥取県内の狛犬については，鳥取県立博物館の狛犬データベースとして公開されている。

調査対象地域は，鳥取県中部の湯梨浜町，倉吉市，三朝町，北栄町，琴浦町とし，鳥取県立博物館の狛犬データベースをもとに神社をピックアップした。調査できた神社は 140 社であり，狛犬は 408 体であった。調査期間は 2017 年 5 月 9 日～11 月 14 日である。

調査手順としては，まず，現地で狛犬 1 体につき前後・左右・上の 5 方向からデジタルカメラで撮影するとともに 1 枚の劣化診断シートを作成した。劣化診断シートには，粉状化・剥離・剥落，亀裂，欠損，変色，生物（主にコケや地衣類の付着），磨耗の 5 項目の劣化状況について，頭，身体，足，尾，台座のそれぞれの部位を目視で確認し，n（対象部分の欠如），a（50％以上の部分にみとめられる），b（20％～50％の部分でみとめられる），c（みとめられる部分が 20％未満）の 4 段階で評価し，記入した（図 15 上）。

作成した劣化診断シートについて，劣化度合いを可視化して簡便に把握する工夫として，n は黒，a は赤，b は黄，c は緑に色分けをおこなった（図 15 下）。それと正面写真および基本事項をまとめてデータシートを作成した（p.43～147）。なお，基本事項については，狛犬データベースを参考にしている部分もある。

また，狛犬ごとの劣化度を数値化して単純に表すために，緑 1 点，黄 3 点，赤 5 点，黒 10 点とし，劣化度小（合計点数 30 点以上 60 点以下：緑の項目が過半数を占める），中（合計 61 点以上 95 点以下：黄の項目が過半数を占める），大（合計 96 点以上 300 点以下：赤の項目が過半数を占める）の 3 段階に分類した。

北野神社BR

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落	a	a	a	n	a
亀裂	c	b	a	n	a
欠損	a	b	b	n	c
変色	b	b	b	n	b
生物	b	b	a	n	b
摩耗	b	b	b	n	b

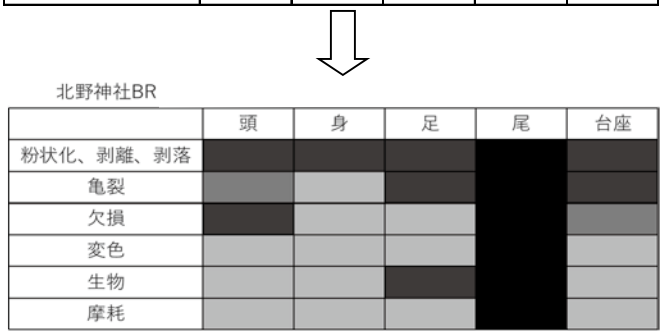


図 15　劣化診断シートと評価に基づく色分け

1）湯梨浜町

湯梨浜町域で調査をおこなった狛犬は，13 社 46 体である。狛犬以外の石造物も含めた地震の被害状況としては，震源地に近い湯梨浜町の南西にある神社の被害がより多い傾向にある。

①地震被害

地震による被害としては，狛犬本体の破損が 2

体，台座の破損が 2 体，狛犬が台座上で動く，台座や台座が置かれている土台の石積みがずれるなどの被害は 8 体で確認された。

②劣化状況

劣化診断シートによる劣化度合いとしては，劣化度大のものが 17 体，中が 19 体，小が 10 体であった。劣化度大のもののうち，台座も含め，狛犬のいずれかの部分が欠損しているものは 7 体である。また，劣化度小の 10 体のうち 8 体は比較的最近建立された花崗岩製の岡崎型であり，来待石製の出雲型のほぼすべてで劣化が進んでいる。変色している部分が 50%以上のものが 26 体，地衣類やコケに 50%以上覆われているものが 27 体であり，これらが劣化度合いの点数を引き上げている要因となっているものが多い。

２）倉吉市

倉吉市内で調査をおこなった狛犬は，57 社 167 体である。狛犬以外の石造物を含めた地震被害の状況としては，打吹山付近を中心に南北方向および東西方向に被害の大きな神社が分布している。

①地震被害

地震被害としては，狛犬本体の破損が，7 体，転落が 13 体であった。台座の破損は 3 体，狛犬のずれや台座，石積みのずれ，ゆがみは 25 体で確認できた。

②劣化状況

劣化度合いについては，劣化度大が 33 体，中が 100 体，小が 34 体であった。劣化度大のもののうち，台座も含め，狛犬のいずれかの部分が欠損しているものは 10 体である。劣化度小のうち 14 体が花崗岩製の岡崎型であり，出雲型のほとんどが劣化している。劣化要因としては，変色している部分が 50%以上のものは 117 体，地衣類やコケに 50%以上覆われているものが 118 体であり，これらの劣化によるところが非常に大きい。

３）三朝町

三朝町内で調査をおこなった狛犬は，24 社 52 体である。狛犬以外の石造物も含めた地震の被害状況としては，震源地から南北方向へ被害の大きな神社が分布している。

①地震被害

地震の被害としては，狛犬本体の破損が 4 体，転落が 2 体であった。台座の破損は 1 体，狛犬のずれや台座，石積みのずれ，ゆがみは 8 体で確認できた。

②劣化状況

劣化度合いについては，劣化度大が 19 体，中が 23 体，小が 10 体であった。劣化度大のもののうち，台座も含め，狛犬のいずれかの部分が欠損しているものは 9 体である。劣化度小のうち 2 体が花崗岩製の岡崎型である。劣化要因としては，変色と生物によるものが多く，変色している部分が 50%以上のものが 34 体，地衣類やコケに 50%以上覆われているものが 31 体である。

４）北栄町

北栄町内で調査をおこなった狛犬は，16 社 45 体である。狛犬以外の石造物も含めた地震被害状況としては，震源に近い天神川沿いの地域から海沿いにかけて被害の大きな神社が分布している。

①地震被害

地震の被害としては，狛犬本体の破損が 6 体，転落は 2 体であった。台座の破損は 4 体，狛犬のずれや台座，石積みのずれやゆがみは 8 体で確認できた。

②劣化状況

劣化度合いについては，劣化度大が 13 体，中が 27 体，小が 5 体である。劣化度大のもののうち，台

座も含め，狛犬のいずれかの部分が欠損しているものは7体である。劣化度小のうち2 体は花崗岩製の岡崎型であり，来待石製の出雲型は全体的に劣化が進行している。劣化要因としては，粉状化・剥離・剥落が 50%以上の部分で確認できたものが 12体，変色部分が 50%以上あるものが15体，地衣類やコケに 50%以上覆われているものが19体であった。

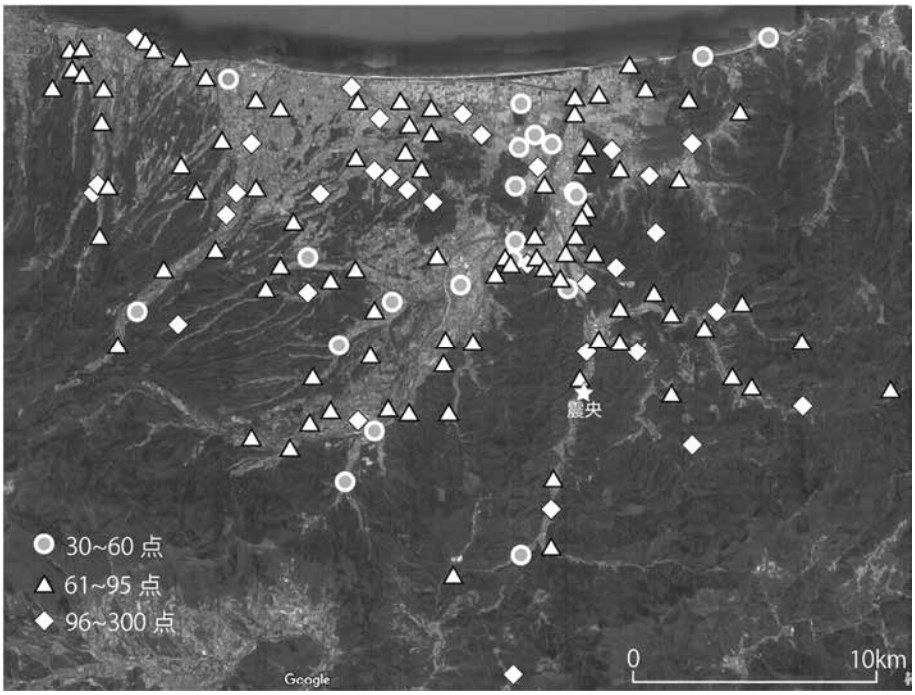


図 16　狛犬の劣化度分布

５）琴浦町

琴浦町内で調査をおこなった狛犬は，30 社 98 体である。狛犬以外の石造物も含めた地震被害状況としては，海沿いの地域と内陸部に被害の確認できた神社が点在している。

①地震被害

地震の被害としては，狛犬本体への破損や転落は確認できず，台座のずれは 3 体で確認できた。

②劣化状況

劣化度合いについては，劣化度大が 24 体，中が 49 体，小が 25 体である。劣化度大のもののうち，台座も含め，狛犬のいずれかの部分が欠損しているものは 15 体である。劣化度小のうち 14 体が花崗岩製の岡崎型であり，来待石製の出雲型はほとんどのもので劣化が進行している。劣化要因としては，変色部分が 50%以上あるものが 46 体，地衣類やコケに 50%以上覆われているものが 53 体であり，これらの要因によるところが大きい。

鳥取県中部の狛犬は，調査ができた 408 体のうち劣化度大が 106 体，中が 218 体であり，全体的に劣化が進んでいるものが多い。また，台座も含め，狛犬のいずれかの部分が完全に欠損しているものは 48 体であった。地震によって劣化状況の偏りに影響があるかどうか調べるために，神社ごとに点数を集計し，平均化したものをグーグル・マップ上にプロットし，分布図を作成した（図 16)。その結果，偏りはみられず，中部全域で劣化が進んでいるといえる。

劣化要因としては，変色および，地衣類やコケの付着といった生物要因の劣化が進んでいるものが多いことが確認できた。変色については，来待石が変色しやすい石材であることが理由として挙げられる。変色する理由としては，来待石は鉄分を多く含むためであり，常温酸化によって褐色化し，表面から内部への褐色化の進行は数十日間で 2 ㎝以上に達すると指摘されている（横田他 2006)。また，地衣類やコケの付着についても，来待石は屋外で風雨にさらされる環境下であると風化しやすい石材であり（朽津 2010)，表面にそれらが付着しやすい状態になるためであると考えられる。

3 横穴式石室

調査対象として，倉吉市向山６号墳，同大宮古墳（市指定史跡），同家ノ後口１号墳（市指定史跡），同福庭古墳（県指定史跡），同三明寺古墳（国指定史跡），三朝町本泉２号墳，同横手５号墳を選択した（図 17）。

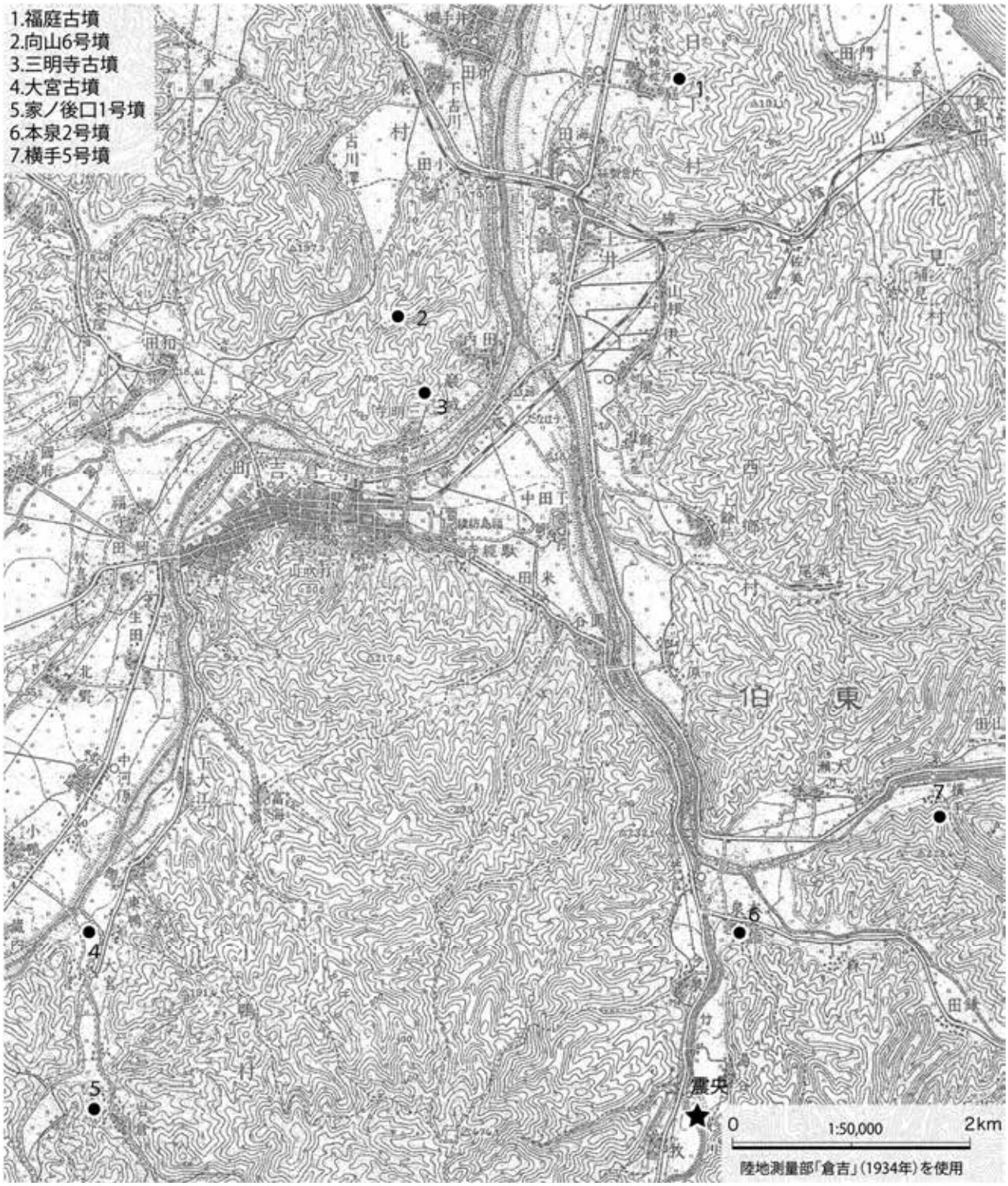


図 17　調査対象とした横穴式石室の位置

1）家ノ後口１号墳

家ノ後口１号墳（別名ごりょう塚古墳）は，倉吉市岩倉家ノ後口に所在する径 15m と推測される円墳である。1977 年に畑地造成に伴う古墳破壊をきっかけとして横穴式石室が発見され，倉吉市教育委員会による発掘調査がおこなわれた（名越他 1978）。その後，土地所有者の協力を得て，1 号墳が市指定史跡として保存されたものである。調査時には石室の壁体の一部と墳丘の大部分を失っていたが，その後，保存のために破損した壁体の再構築と墳丘の復元がおこなわれている（図 18）。

石室の規模は，玄室長 2.3m，幅 2.0m，高さ 2.3m，羨道長 2.7m，幅 1.2m，高さ 1.2m を測る。玄室の平面形は正方形に近く，基底部は扁平な石材を立てて腰石とし，奥壁は１石，側壁は２石を配している。石室は，北西方向に開口する。天井部は持ち送りのきつい穹窿天井で，玄門部に板石を２枚立てて両袖とする（図 19）。出土遺物や石室の構造から古墳時代後期中葉に位置付けられ，伯耆東部地域で最古段階の横穴式石室の一つと考えられている。

石室の入口には鉄の門扉が設置され，長く人が入った形跡はなかったが，2017 年 8 月に内部の確認

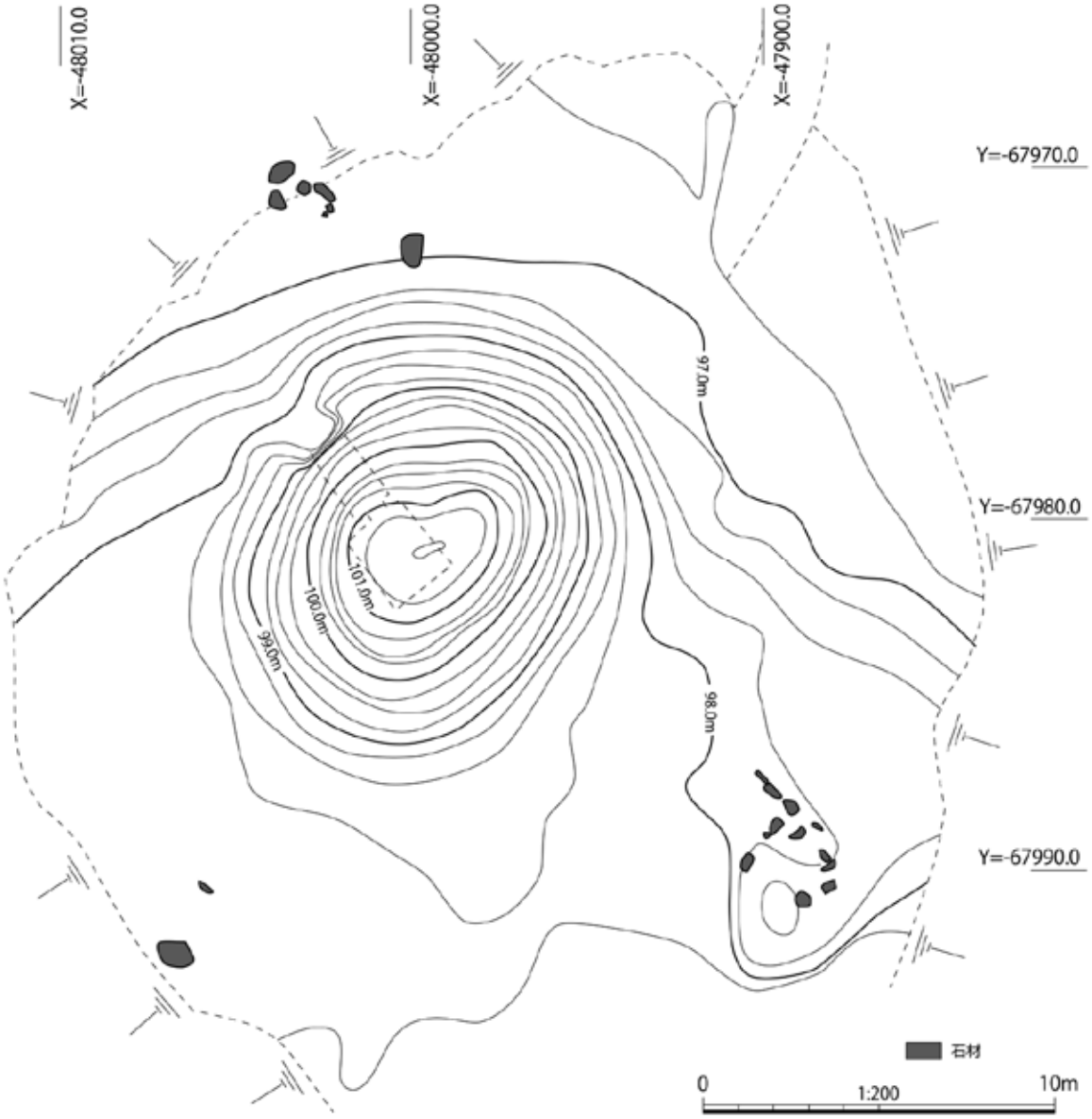


図 18　家ノ後口１号墳の墳丘の現状

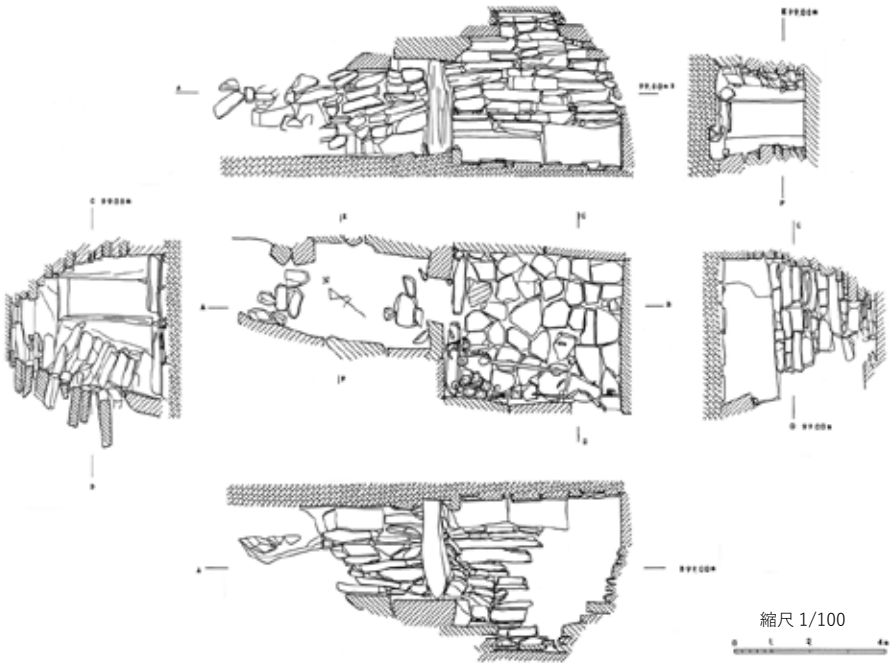


図 19　家ノ後口１号墳の石室実測図（名越他 1978 より）

をおこなった。基本的には石室に被害はなく，石材に新しく移動した痕跡や割れた形跡はなかった。玄室床面には現状では土が入れられており，敷石は確認できなかったが，床面にも被害はないと思われる（図版１，２）。

石材の隙間には灰白色土が充填されており，羨道部では，その充填土が石材の表面に塗られた様子が見て取れるが，それが剥離したり，ヒビがはいったりした様子もなかった。

ただし，玄門部の左（西）袖石の内側に積まれた石材には，調査時とはやや異なる様相が認められる。灰白色土に隠れて見えなかったと思われる石材が現れているほか，玄門側に押し出された思われる位置に石材が移動している（図版２-４）。これが中部地震による影響かどうかわからないが，玄門部だけこのような状況になる理由は地震では説明しにくいであろう。むしろ経年的な劣化によって石材間の充填土が剥落し，石材がずれてきたものと思われる。

結論として，現状では保存状態に特段の異常は認められないが，定期的なモニタリングが必要である。

２）大宮古墳

大宮古墳は，倉吉市大宮に所在する径 30m と推測される円墳である。1978 年に倉吉市教育委員会による発掘調査がおこなわれた（名越他 1979）。上述の家ノ後口 1 号墳とは約 1.5km の至近に位置し，石室構造もよく類似する。

石室の規模は，玄室長 2.6m，幅 2.3m，高さ 2.7m，羨道長 2.2m，幅 1.2m，高さ 1.1m を測り，家ノ後口 1 号墳よりもひとまわり大きい。玄室の平面形は正方形に近く，基底部は扁平な石材を立てて腰石とし，奥壁は大きな板石と小さな板石の２石で構成し，側壁は南北ともに２石を配している。石室は，東方向に開口する。家ノ後口 1 号墳と同様に，天井部は持ち送りのきつい穹窿天井で，玄門部に板石を２枚立てて両袖とする（図 20）。玄門部には板石を立てかけた閉塞の下半部が残存している。出土遺物や石室の構造から古墳時代後期中葉に位置付けられ，伯耆東部地域で最古段階の横穴式石室の一つと考えられている。なお，北側側壁の上部に石室への侵入口があり，羨道部は現状で地下に位置して閉塞石がよく残存する。

2017 年 8 月に内部の確認をおこなったところ，右（南）側壁の孕み出しが明らかに大きくなっている（図版３，４）。発掘調査時にすでに認められていた，標高 55m 付近の歪みがさらに拡大したように見受けられ，石室内に入ると圧迫感がある。ただし，調査時から変化があるのは右（南）側壁のみであり，それ以外の壁面に大きな変化は認められない。地震による被害というよりも，経年的な劣化と考えるべきであろう。

壁面の孕み出しとともに気になるのは，石材へのカビやコケ・地衣類の付着である（図版４-４）。筆者は 2004 年などに石室内を観察した経験があるが，その際の記録と比較しても，壁面全体に白いカビやコケ・地衣類の範囲が拡大しているようである。このことは，石室内に雨水の浸透があり，湿度が以前よりも高まっていることを反映しているのかもしれない。墳丘にも地震の直接的な被害は認められないようだが，経年的な劣化が進行する中で，大きな揺れを経験したことが石室の保存に影響を与えていないという保証はない。いずれにせよ，今後もモニタリングが必要であろう。

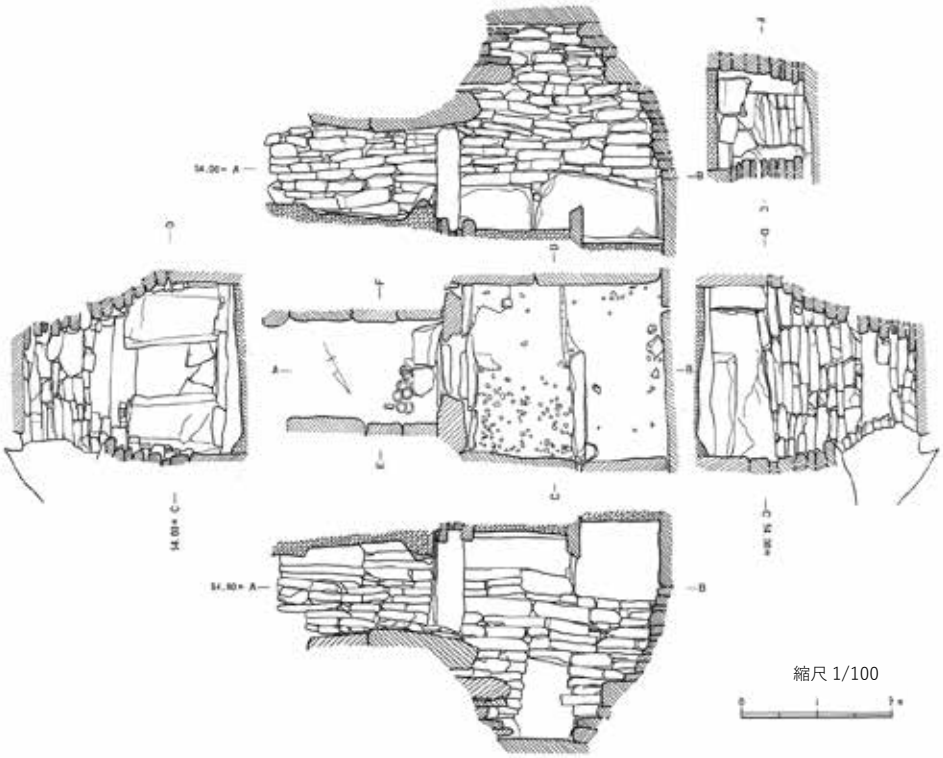


図 20　大宮古墳の石室実測図（名越他 1979 より）

３）三明寺古墳

三明寺古墳は，倉吉市厳城に所在する横穴式石室墳である。墳形は円墳とも，方墳とも言われるが，発掘調査がおこなわれたことはなく，よくわからない。古くから開口して，内部には延命地蔵尊が祀られている。出土遺物は知られていないが，切石造りであることなどから，７世紀代に降るものと考えられている。県内でも最大級の石室規模を誇り，玄室長 3.7m，幅 3.2m，高さ 3.2m，羨道長 4.8m，幅 3.3m，高さ 1.8m を測る。玄室の奥壁に接して，板石を組み合わせて「石屋形」風の石囲いがある（図 21，名越 1973）。

地震発生からしばらくは，内部に安置された岩屋延命地蔵尊の祠が倒壊しており，石室壁面の観察が容易であったが，2017 年８月に改めて調査に訪れた際には祠が復旧され，SfM/MVS による石室内全体の３次元画像の合成はうまくいかなかった（図版５，６）。

石室は各所に巨大な板状石材が使用されており，大きな破損は認められないものの，左（東）側壁に小型石材がはめ込まれた場所では，石材が内側に突出するなどの移動が認められたほか（図 22），石材の隙間から墳丘盛土が流出する様子が見られた（図版５-４）。また，楣（まぐさ）石は，もともと石理に沿って割れている部分があったが，地震によって割れがさらに拡大した（図 23）。直ちに危険な状態とまでは言えないものの，このまま割れが進行すれば，石材が大きいだけに破片が落下するだけでも深刻な事態となりうる。石室内への立ち入りを差し止める措置も検討する必要があろう。石材の移動を継続的に監視するために，石材が移動したり，割れたりした箇所には変化を監視するための紙が貼り付けられているが，長期的なモニタリングが今後も必要であろう。

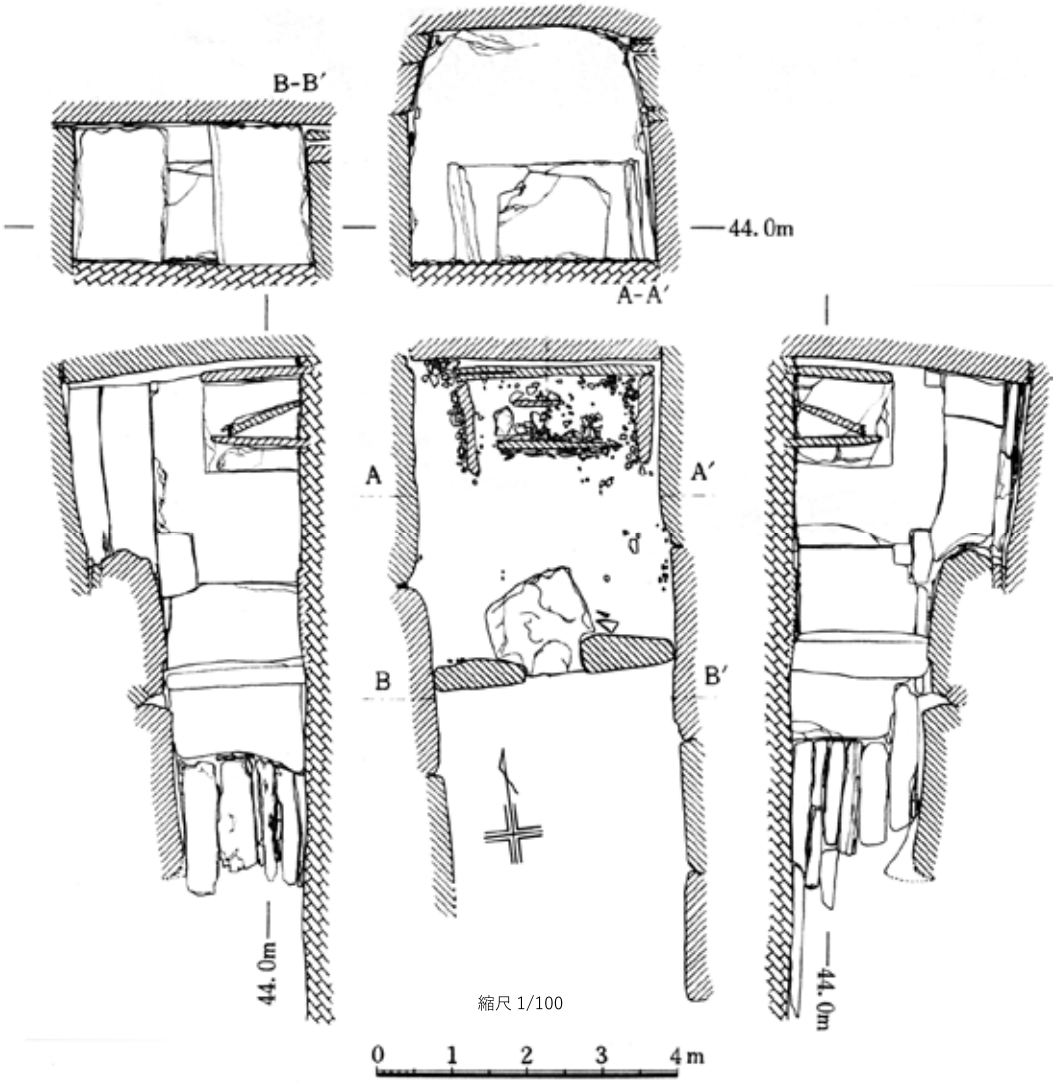


図 21　三明寺古墳の石室実測図（名越 1973 より）

図 22　三明寺古墳･玄室東壁の突出した石材

図 23　三明寺古墳・玄室楣石の割れ

4）福庭古墳

福庭古墳は，倉吉市福庭に所在する，径 35m の円墳とも，1 辺 35m の方墳とも言われている。古くから開口して存在が知られており，県内でも有数の精美な切石造りの横穴式石室である。玄室長 2.9m，幅 2.2m，高さ 2.3m，羨道長 4.8m，幅 2.2m，高さ 1.5m を測る（名越 1973）。奥壁，両側壁ともに大きな切石を配してほぼ 1 枚で壁面を構成するが，上部に持ち送り気味に細い石材を乗せて天井石を支えている（図 24）。

古墳が所在する波波伎神社は，天然記念物の社叢や神社本殿，玉垣や狛犬などの石造物に被害があったが，石室にはほぼ被害はなかったようである。羨道部の右（西）側壁部にはシイの巨樹が生えており，その根で石材が覆われている。このような環境条件が石室の保護に役立ったのかもしれない。

ただし，石材表面の全面が白いカビによって覆われ，石材本来の色調などが観察できる場所が少なくなっており，赤彩装飾も認めがたくなっている点は地震被害とは別に改善すべき点であろう（図版 7，8）。

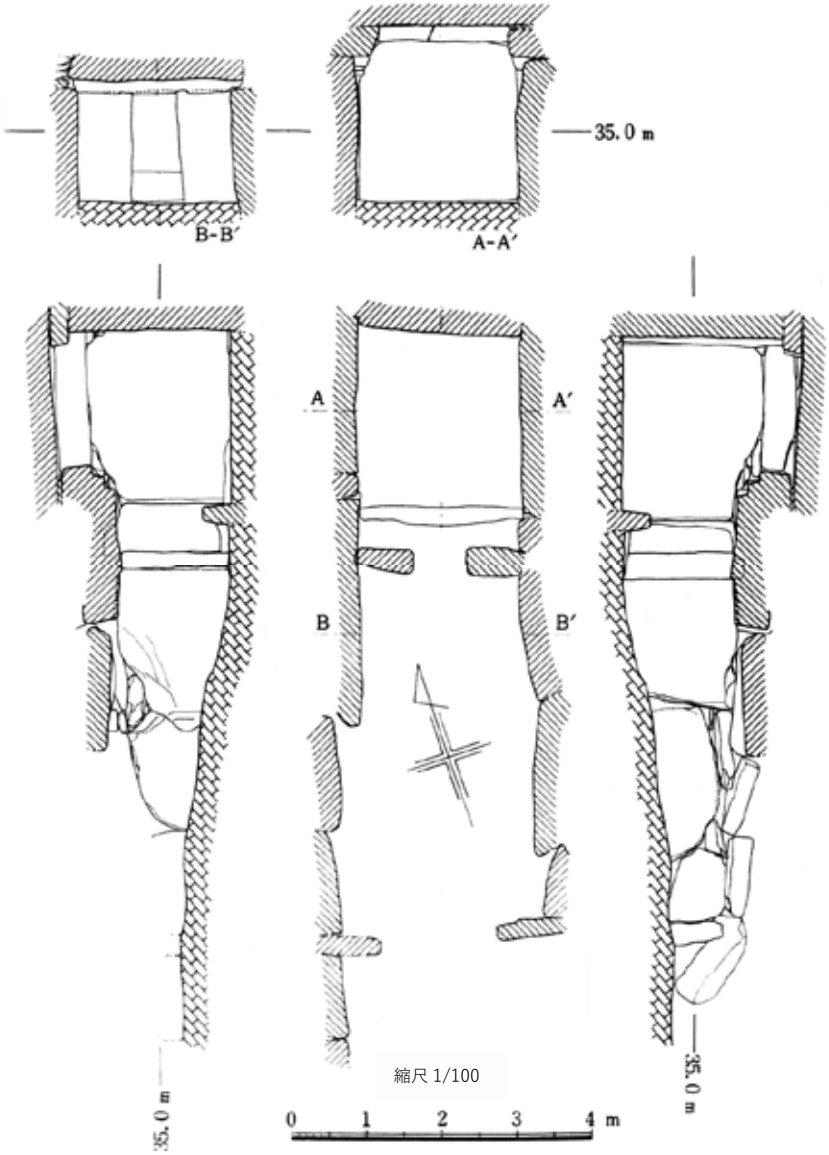


図 24　福庭古墳の石室実測図（名越 1973 より）

５）本泉２号墳

本泉２号墳は，三朝町本泉に所在する。墳丘はすでに失われ，横穴式石室が単独で露出した状態で存在する。中部地震で最も震源に近い横穴式石室の事例であり，調査前には被災の可能性を強く懸念した古墳の一つであった。かつて，近藤哲雄が図化しているが（図 25，近藤 1987），古墳そのものの調査はおこなわれたことがなく，時期や墳形などは不明である。

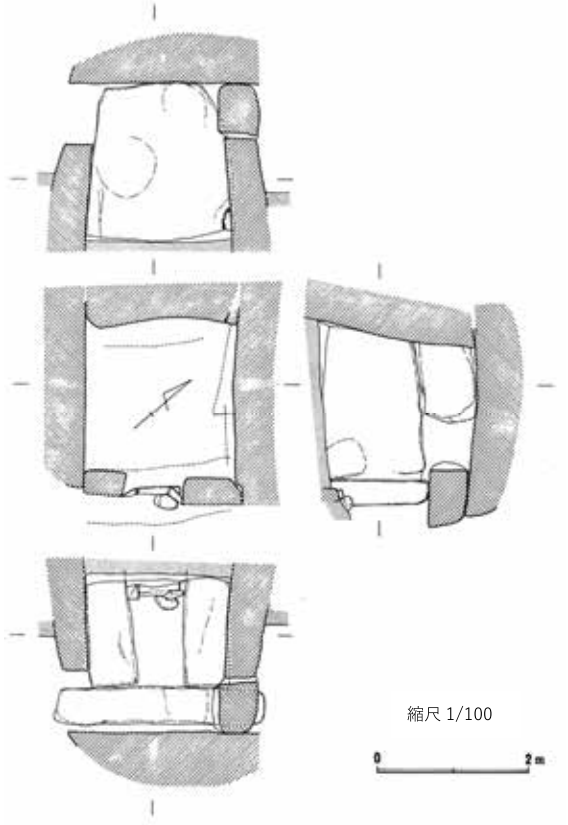


図 25　今泉２号墳の石室実測図（近藤 1987 より）

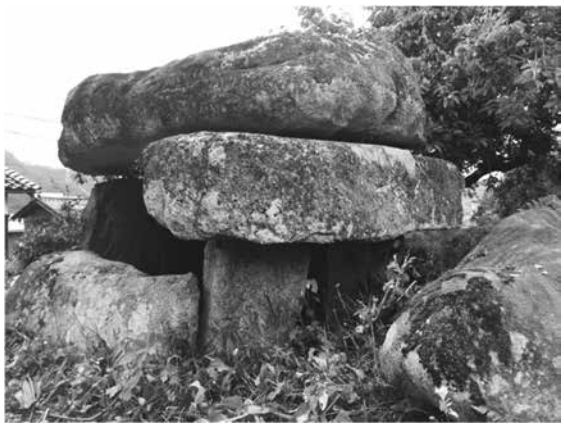


図 26　今泉２号墳の現状

中部地震後の現地確認の結果，石材が動いた形跡はなく，30 年前の図面と比較して変化したところはほとんどなかった（図 26）。

なお，これに近い三朝町横手の横手古墳群中の５号墳は，やはり近藤が図化して石室の構造が知られるため，地震被害の有無を確認するため現地確認をおこなったが，現地では杉の人工林から広葉樹林への転換事業が進行中で，伐採された杉材が山積みされていたために，５号墳の位置が十分に確認できなかった。ただし，天井部の隙間などから内部の観察が可能な他の石室をみる限り，地震によって新たに崩壊したり，石材が顕著に動いた痕跡は見当たらなかった。

６）向山６号墳

向山６号墳は，倉吉市厳城に所在する全長 39m と考えられる前方後円墳である（図 27）。石室は古くに開口しており，大日如来を祀る祠として利用されていた。コ字形に配置された死床仕切石など，細部に肥後型石室の要素が継承されており，玄室長 3.2m，幅 3.0m，高さ 2.5m，羨道長 2.1m，幅 2.6m，高さ 1.8m を測る（図 28）。本格的な発掘調査はおこなわれたことがなく，詳しい時期などは不明であるが，これまでに石室内からガラス碗片が出土したことが知られ，後期後半～末に位置付けられている。

今回の中部地震で最も大きな被害を受けた石室であり，玄室，羨道部ともに側壁の基底石上の積石のほとんどが落下した。玄門部の東側の立石は，もともと南側にやや傾いていたが，それがさらに拡大した。また，楣（まぐさ）石ももともと中央で破断していたが，東西に引っ張られるように破断面が拡大し，それに伴って天井石が東側に下がったように見える（図 29，30）。

石室内部に長時間止まって作業することが危険である可能性があり，また，今後の保存対策が必要な場合に，石室の損壊が止まっているのか，徐々に動きつつあるのか，現状把握が正しく必要だと考えられた。このような石室の経年変化を長期にわたってモニタリングする場合に有効な方法として，３次元レーザー計測をおこない，１年後に再計測して両者を比較してその偏差を解析することとした。

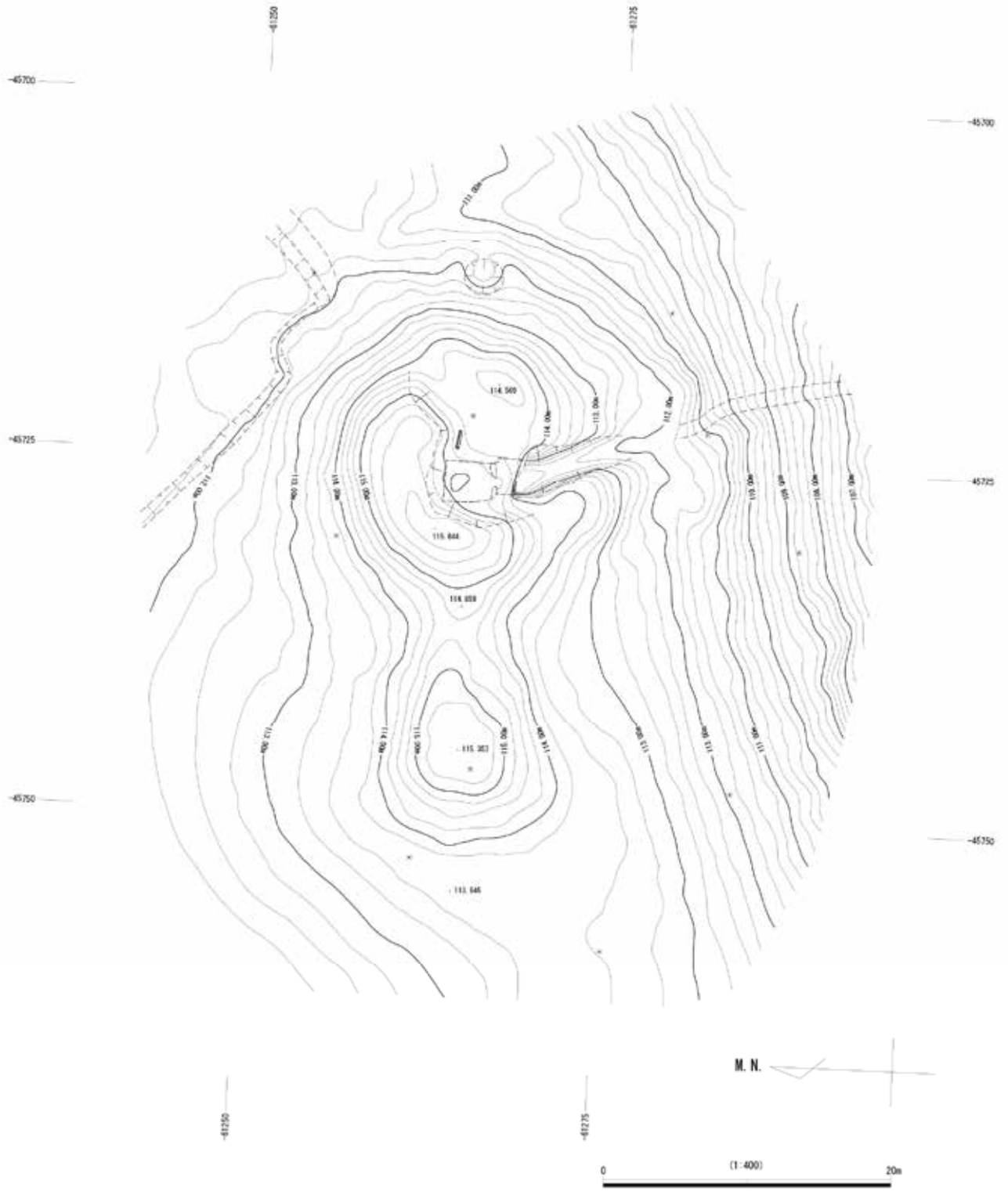


図 27　向山６号墳の墳丘（鳥取県立公文書館県史編さん室提供）

① 石室の３次元レーザー計測結果

石室の３次元レーザー計測の結果作成したオルソ図は，図版９に示した。３次元計測結果は付属の DVD に収録している。

３次元レーザー測量では，植物の根など計測できない箇所が生じるらしい。石材以外の部分は基本的に土であるが，そこに植物の根がある場合や，石材の表面に植物の根が垂れたりしている場合には図に

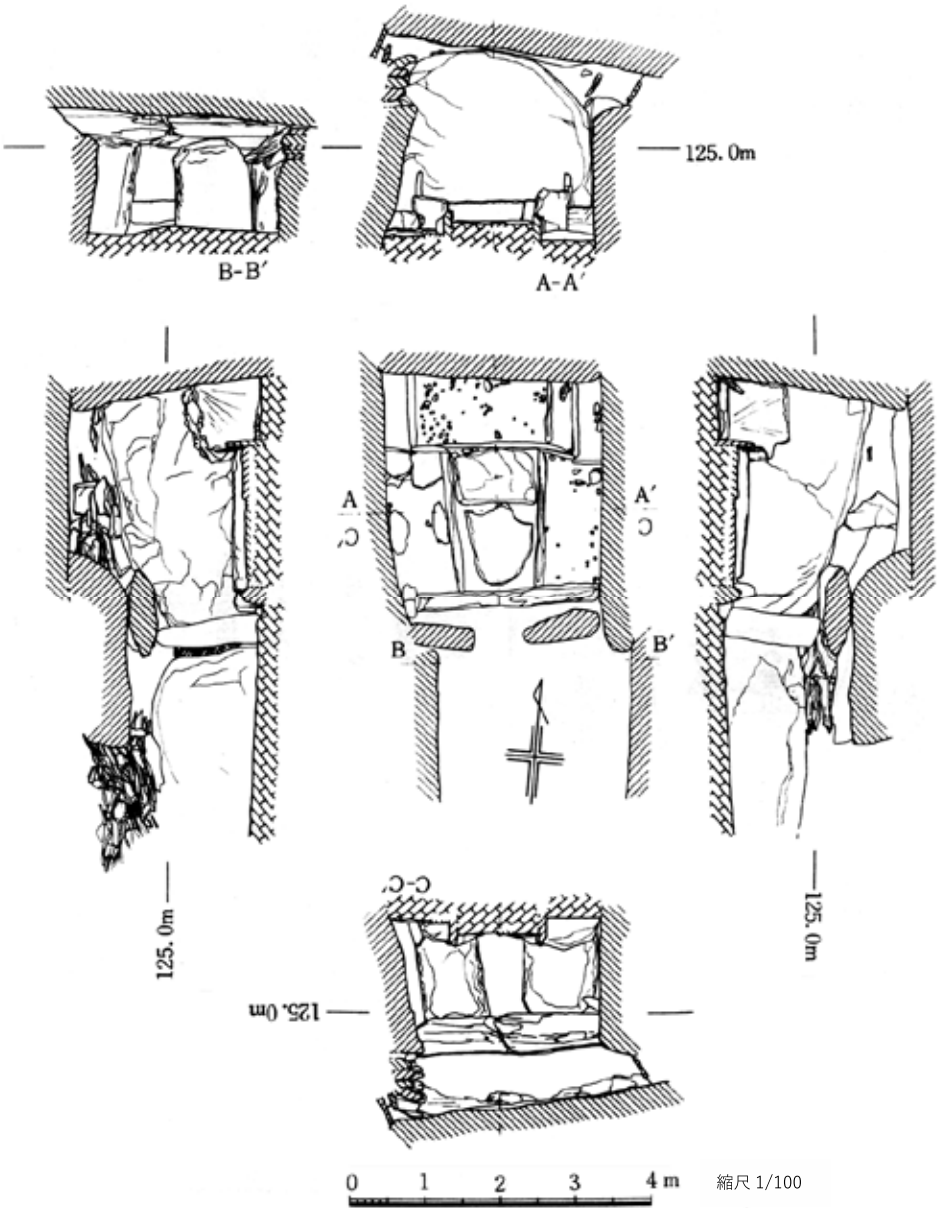


図 28　向山６号墳の石室実測図（名越 1973 より）

図 29　向山６号墳の石室被災状況（玄門）

図 30　向山６号墳の石室被災状況（羨道部左側壁）

空隙が生じている。

図版 10 は，2017 年度と 2018 年度の計測結果を合わせ，移動量に応じて色付けした偏差解析図（ヒートマップ）である。赤く塗った部分は，2017 年度計測値よりも上（前）方に移動した部分，青く塗った部分は，下（後）方に移動した部分である。計測した点群すべてを解析すると，変化が評価しづらくなるため，移動量の最大値を±5mm とし，計測面によって 40～70％前後の点群をサンプルし，差がよく現れるように調整している。平均的な移動量は土の部分も合わせて 2mm 前後であり，石の部分では 1mm に満たない部分が多い。

結論として，機器の測定誤差が±2mm であることを考慮すると，石材の移動量はごくわずかと言える。ただし，全体像を見ると，石室石材は一定の方向性をもって移動していることに注意が必要である。最も顕著なのは奥壁で，上部が相対的に前面（南側）に，下部が相対的に後面（北側）に移動したことになる。これと対になる動きとして理解できるのは，玄門部である。玄門は外側からみると全体的に前面に，内側からみると後退していると評価でき，石室全体が南北方向に傾いたとみることができよう。

一方，東西方向でみると，右（西）側壁が総じて赤っぽく，左（東）側壁が総じて青っぽくなっていることから，全体的に東側に傾いたと言えよう。こうした動きに伴って，天井石が下方に下がっていることも読み取れる（付属 DVD データ参照）。

また，奥壁背後の土の部分をみると，西側が青く，東側が赤くなっていることから，石材の背後で土砂移動が起こっている。つまり，西側の墳丘盛土が流失して東側に再堆積しているとみることができる。平面では，玄室の西側を中心に土砂堆積が進んでおり，壁際で著しいとみることができる。玄室東側や中央部で逆に凹んでいるのは，測量やデータロガー設置の際などに進入する部分であり，踏圧によって変化したものと考えられる。羨道部の土砂堆積は，側壁上方の石材が崩落した部分から墳丘表面の土の崩落が継続しているとみられる部分で，この部分は天井石がないため，今後もこのような状況が続くと考えられる。

なお，図中で丸く，あるいはドーナツ状に赤くなっている部分は，レーザー計測機が設置された近辺で，計測距離が短い時に誤差が拡大する傾向にある範囲であり，特に意味があるものではない。

石室全体が傾く傾向にあることをどう評価すべきであろうか。2 回の計測は，同一基準点，同一機器を用いて計測しており，誤差の傾向も同じだと考えて良ければ，1 年間でわずか 1 mm に満たないとはいえ，石材が一定方向に移動していると考えられ，石室の保全の点ではやはり問題視すべきであろう。土砂移動も認められることを考慮すると，石室を支えている墳丘盛土の保全も考えなければならない。いずれにしても，長期的なモニタリングが必須である。

② 石室内の温湿度環境

横穴式石室内の温湿度環境が石室の保存に影響を与えている可能性があるため，1 年間の推移を計測した。玄室のほぼ中央で，高さ 1 m 前後の位置にデータロガーを設置した。計測期間は 2017 年 11 月 5 日～2018 年 11 月 13 日までである。気温は 11 月上旬で 12℃前後あったものが，2 月上旬にかけて徐々に下がり，最低気温は 2 月 13 日の 1.3℃である（図 31）。2 月下旬以降は次第に気温が上昇し，5 月上旬には 15℃前後まで回復している。その後，5 月中旬～6 月上旬に突然 25℃前後まで急激に気温上昇しているが，ほぼ同じタイミングで相対湿度の計測値にも異常が生じており，センサーになんらかの故障があったものと考えられる。6 月下旬にはそれ以前の傾向に一致するような計測値に戻っており，その後の計測値は信頼が置けそうである。7 月上旬～9 月中旬までは 25℃前後にまで上昇するが，石室外の気温が 30℃以上になった日も 26℃よりも高くなる日はないようである。

一方，相対湿度は，70％に落ちる日もあるものの，100％に達して結露する日の方が多く，平均では

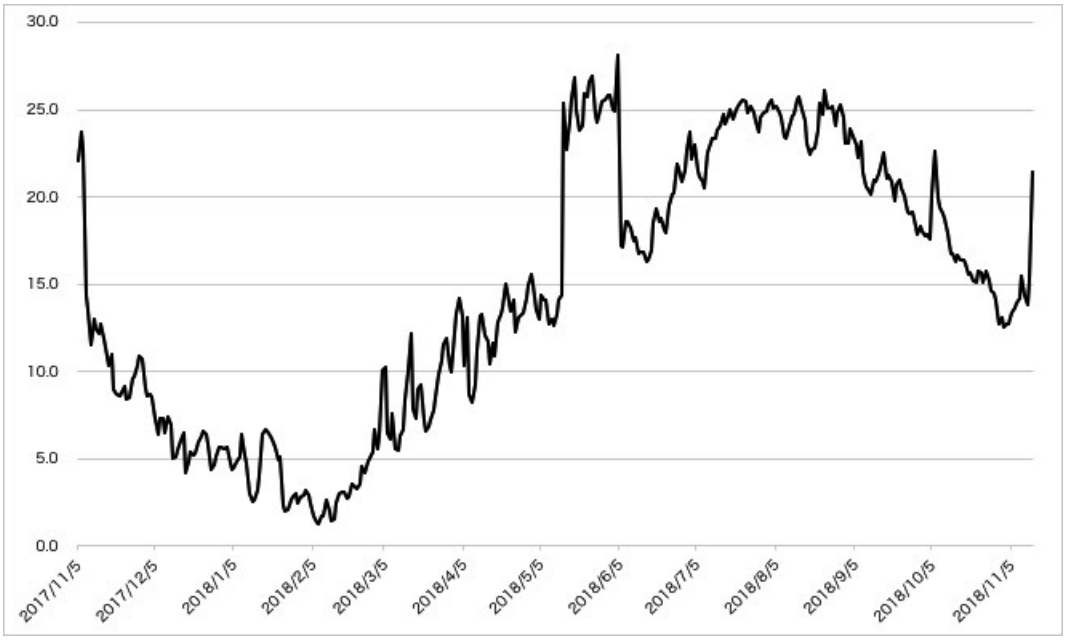


図 31　向山６号墳の石室内の温度（℃）

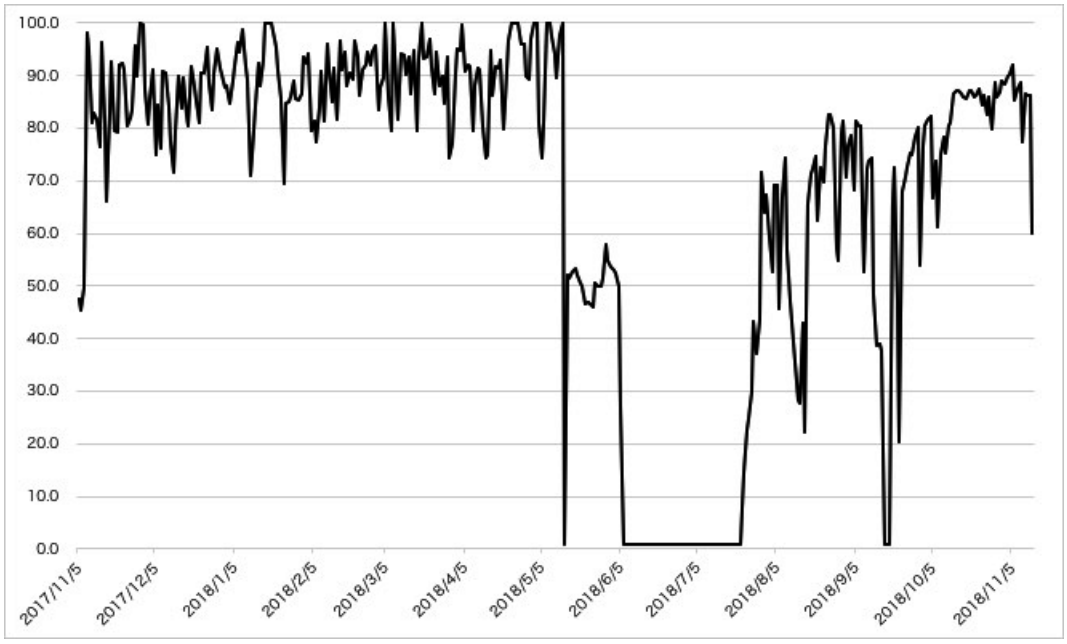


図 32　向山６号墳の石室内の相対湿度（%）

90%程度になると考えられる（図 32)。温度計と同様に５月中旬に突然 1%という異常値を示し，一旦 50%前後を記録したものの，再び 1%に戻るという状況を示す。７月中旬には記録を再開するようであるが，異常値と思われる計測値も見られ，信頼できる値かどうか疑問である。夏季は気温上昇とともに相対湿度が下がる可能性も考えうるが，2018 年は台風の到来も多く，岡山県や広島県など，中国地方各地で大きな災害をもたらした７月豪雨の際には，鳥取県においても記録的な雨量であった。したがって，石室内に雨水が浸透して湿度が高くなる機会はもっと多かったと推測される。

機器の故障によって 2018 年夏の湿度が正常に記録されていない点は残念であるが, 上述したように, 石室内には雨水の浸透などによって土砂移動と再堆積が進行する様子が窺えた。温湿度環境のモニタリングは，石室の保存条件を考える際の基礎的な情報であり，経年的な計測データは必要であろう。

7）SfM/MVS についての課題

今回は，横穴式石室の劣化状態を客観的に評価するために，過去に実測図が作成された石室の SfM/MVS による３次元画像作成を試みた。これは，現地調査がかなり単純化できる点がやはりメリットである。デジタル一眼レフカメラとコンパクトカメラを併用したが，後者でも十分に対応可能で，現状記録を作成するのに特殊な技術や大きな労力は伴わない。写真撮影そのものは，照明の準備も含めて２時間で済む石室もあった。

一方，室内における解析作業はうまく行かず，反省すべき点も多い。現地調査に取りかかる前に，経験者による講習会を開催し，基礎的な解析手順等を学習して臨んだが，現実には精細な合成画像を作成できなかった。その原因の一つは，現地における写真撮影の問題で，照明が適切でなく陰影が強すぎたと考えられるものや，画面重複の度合いが不十分だったと考えられるものがある。しかし，問題点として最も大きいのは，ソフトウェアの操作に習熟できなかった点と考えられ，調査に参加した教員も学生も初歩的な操作ができる段階にとどまった。使用する写真の解像度，求める図面の精度，使用する PC の性能によって，解析にかなり時間がかかり，実習時間内には作業が終わらないことも多かった。オルソ画像を１枚得るまでに数日かかることも珍しくなく，満足のいく解析結果を得るために何度も試行錯誤を繰り返したため，図面作成作業が滞りがちであった。従来通りの，手作業による実測図の方が「早い」可能性は十分にある。

結局のところ，SfM/MVS をどんな目的で，何に使用するのか，が問われることになろう。屋外の文化財が広範囲に被災し，初動で状況把握を実施する必要が生じた時，高精細でなくとも３次元画像が存在すれば必要な対策を立てやすいことは確かだろう。今後さらに活用される場面が増えると思われるが，当初想定した，誰でも可能な簡便な調査方法の確立のためには，さらなる経験の蓄積が必要であろう。

４ 県指定保護文化財・永昌寺十三重石塔の調査と修復過程

永昌寺十三重石塔は，倉吉市岩倉に位置する岩倉城跡の麓で 1930（昭和 5）年 [2)]に発見され，1956（昭和 31）年 5 月 30 日に県指定保護文化財（建造物）に指定された。発見時に欠けていた初重軸部，12 重目，13 重目及び相輪を補い，現在地に移築復原された。総高 4.12m，笠部の勾配は緩やかで，軒反りは少ない。また，基礎には単弁反花座とともに側面２区に格狭間をつくるが，この格狭間は赤碕塔（琴浦町花見潟）のものに酷似している。これらの特徴から，鎌倉時代～室町時代初期の造立年代が推定されている。また，使用された石材は凝灰岩である（鳥取県教育委員会 1964，1995）。

この十三重石塔は，中部地震で上部の笠石６層分が落下し，破損する被害があった（図 33, 34）。2016 年 10 月の確認調査の際に鳥取大学が担当したことや，2017 年８月～９月にかけて近隣の家ノ後口１号墳や大宮古墳の調査をおこなった際に永昌寺の駐車場をお借りするなどした経緯から，修復作業にあたって高田が立会って必要な助言をおこなうこととなった。

県指定保護文化財の今回の修復方針としては，あくまで中部地震以前の状態に復するのみで，新たな保存強化処理や抜本的な補強対策などはおこなわないとのことであったが，今後の笠石の保存対策を講ずるためには，解体の機会を捉えて，せめて強度調査だけでも実施する必要があると考えた。また，落下しなかった笠石も位置がズレ，初重軸部も傾いたため，解体して積み直す必要が生じていたが，解体の際に，初重軸部がどのように基壇に固定されているか，基壇内に記録すべきことがないか観察する必要もあった。

2017 年８月 21 日に石塔の解体と積み直しがおこなわれた。小型クレーンで笠石を１層ずつ外し（図 35），最後に初重軸部を外した（図 36）。初重軸部は１辺約 37cm の立方体であるが，基壇上面に掘ら

れた方形の穴に収まるように，ほぞ状に加工された部分がある。穴とほぞの間にはわずかに隙間があったようだが，地震の際には，このほぞが穴の中で揺さぶられたため，穴の縁部を細かく破砕し，内面を剥離していた（図 37）。また，初重軸部と基壇が接しないようにするためか，穴の底には厚さ 1 cm ほどの黒褐色土があった。

基壇上面の穴は，深さ 3cm ほどで底面が平らに加工されており，鑿による加工痕がよく残っている。組み上げの際には，元の土は除去し，穴の底面に板石を 4 枚敷いて元よりもわずかに高い位置に軸部を据え直した（図 38）。元よりも高い位置に据えた理由は，地震による揺れがあった場合に，再び軸部との接触による破損を抑えるためである。

笠石の強度計測後，21 日のうちに組み上げはほぼ完了したが，相輪の復元と最終的な設置は 2017 年 12 月 4 日におこなわれることになり，この作業にも立ち会った（図版 11）。なお，相輪と最上段笠部は，石材用接着剤（ストーンコーク R，コニシ株式会社）を用いて接着した。

5 永昌寺十三重石塔の指定対象と構成要素について

前述したように，永昌寺十三重石塔は，岩倉城跡の麓で 1930（昭和 5）年に発見され，現在の永昌寺境内に移された。1956（昭和 31）年に県指定保護文化財に指定されたが，その際にはすでに震災前のような形で復元されていた。しかし，今回の解体修理にあたっては，「何が指定対象になった本物か」が関係者に十分明確になっていなかったことは問題と思われる。1995 年に刊行された『鳥取県の文化財』によると，初重軸部，12 重目，13 重目及び相輪が移築時に復元されたものらしいが，1964 年に刊行された『鳥取県文化財調査報告書』第 4 集では笠石の復元については触れられず，「塔身」（初重軸部）と相輪が復元されたものという。古い指定物件では，個々の指定要件や構成要素が明らかにされていないことも多いと思われるが，いざ災害に遭遇した時，何が守るべき対象であるか定かでないという状況は避けなければならない。

そこで，今回の作業で改めて情報を整理した内容を記録にとどめておきたい。

まず，塔上部からみると，宝珠，九輪，請花は一体造りであるが，復元品である。また，九輪の上部は今回の修復で新たに制作されたものである。相輪は震災時に笠石とともに転落しており，宝珠はさらに古い時期に転落し，折損していたものらしい。今回ほどの被災でないものの，1943（昭和 18）年の鳥取地震，2000（平成 12）年の鳥取県西部地震の際にも相輪や笠石が転落したことがあったらしいが，十分な記録はない。

最上層の笠石（13 重目）上部には，相輪を立てる軸穴が作り出されている（図 39）。これと 12 層目は復元されたものであるらしいが，11 層目以下のオリジナルの出土品と一見しただけでは区別はつかない。石材強度の面でもオリジナルと著しい差はないため（詳細は，第 4 章参照），将来的には誤解がなくなるような措置が必要であろう。

立方体を呈する初重軸部は復元品である。じつは，本来の初重軸部は，県指定以後に笠石などが出土した地点の近くで出土したらしく，永昌寺境内に保管されていた。十三重石塔の背後には，倉吉市指定文化財の石製宝塔が 3 基存在し，その横に五輪塔の空風輪・火輪と組み合わされた状態で，方形の箱状の石造物が置かれていたが，それが本来の初重軸部であった（図 41，48）。本来の初重軸部の表面には，鑿による加工痕が残るものの，梵字や仏像などの彫刻は施されていない。劣化や破損が進み，現状は崩壊を防ぐために針金で固定された状態であるため，今後抜本的な保存対策が必要と考えられる。なお，本来の初重軸部が出土した際には，金属製の経筒が伴っていたようだが，破損がひどく，廃棄されて現存しない。

図 33　永昌寺十三重石塔の被災状況

図 34　転落し，破損した笠石

図 35　笠石の解体状況

図 36　初重軸部の解体状況

図 37　基壇の穴の破損状況

図 38　初重軸部基礎部の再設置状況

図 39　13 重笠石の軸部とその上面

基壇は 1 石で作られており，コケや地衣類が全面に付着しているものの保存状態は良い（図版 12-1）。震災時には笠石が落下して基壇にも衝突した痕跡があるが，厚いコケ類で衝撃が和らげられたようで，基壇そのものに大きな被害はない。

なお，石塔の南側には市の保存樹である「岩倉のクスノキ」があり，クスノキの根が石塔の設置された築山にも及んでいるため，石塔の荷重によってその根が圧迫され，樹木の健康状態に影響があるらしい（図版 12-2）。クスノキが枯れるなどの影響があれば，石塔にも傾きが生じる可能性もある。双方の保全を図ろうとすれば，将来的には現在地から移動させることも考慮する必要があろう。

註

1）撮影データは添付 DVD に収録した。閲覧用のソフトウェアは，次の URL から入手可能である。
https://theta360.com/ja/

2）出土は 1932（昭和 7）年とする資料もある。

参考文献

朽津信明 2010「屋内と屋外での来待石製石塔の風化の違い」『応用地質』第 50 巻第 6 号，pp.329-335

近藤哲雄 1987「東伯耆における横穴式石室の様相」『島根考古学会誌』第 4 集，pp.39-68

杉井 健 2017「平成 28 年（2016 年）熊本地震からの提言」『考古学研究会第 63 回総会・研究集会　災害と考古学–持続と断絶』資料，pp. 3 -12

たくきよしみつ 2013『狛犬かがみ』バナナブックス

名越 勉 1973「古代の倉吉」『倉吉市史』倉吉市教育委員会

名越 勉・眞田廣幸・平方幸雄・森下哲哉 1978『ごりょう塚古墳他発掘調査概報』倉吉市教育委員会

名越 勉・眞田廣幸・森下哲哉 1979『大宮古墳発掘調査概報』倉吉市教育委員会

廣江正幸 2004「出雲の狛犬について」『古代文化研究』No.12，島根県古代文化センター，pp.117-139

廣江正幸 2005「出雲の狛犬について（2）」『古代文化研究』No.13，島根県古代文化センター，pp.83-119

廣江正幸 2007「出雲の狛犬について（3）」『古代文化研究』No.15，島根県古代文化センター，pp.77-105

廣江正幸 2008「出雲の狛犬について（4）」『古代文化研究』No.16，島根県古代文化センター，pp.131-158

横田修一郎・妹尾大輔・西山賢一 2006「色彩値変化からみた来待石の風化速度」『応用地質』第 47 巻第 4 号，pp.188-195

第４章　保存に向けた提言

１　永昌寺十三重石塔初重軸部の硬度測定

永昌寺の敷地内にある十三重石塔は，地震の影響により上から６つの笠石が塔の南側半径約３メートルの間に落下していた。笠石は落下によって部分的に破損していたが，現在ではすべて原位置に復旧されている。十三重石塔は県指定保護文化財に指定された後に本来の初重軸部が発見されて，それが隣接地にほかの石造物の部材と組み合わせて置かれていることがわかった。したがって現在の十三重石塔の初重軸部は，笠石や基壇が発見されたときに初重軸部のみが見つからずに代わりとしてつくられたものである。地震発生後の復旧に際して本来の初重軸部に戻す可能性があったが，初重軸部のひび割れなどの劣化が激しく 13 段の笠石を支えることは困難であった。本研究の目的は 13 段の笠石，相輪，宝珠および本来の初重軸部に対する硬度調査を実施して今後の保存修復に必要な情報を取得することである。

１）研究方法

石材の劣化度の指標として，エコーチップ試験機を用いて硬度を測定した。エコーチップ試験機は，極めて弱い打撃で計測が可能な硬度計測装置である。測定値は直径約 3mm の先端部分がバネの力で材料の表面を打撃する速度と，その反撥した後の速度との比を千分率で表した値として表示される。計測値は 1000 に近いほど硬く，0 に近いほど軟らかいことを意味して単位を持たない（朽津 2007）。その打撃エネルギーの低さから測定対象への影響は極めて小さく，実質上非破壊で石材の強度試験をおこなうことができる方法として注目されている（朽津他 2006）。エコーチップ試験機による石材の硬さの測定には，単打法と呼ばれる 1 回の打撃による試験方法と，連打法と呼ば

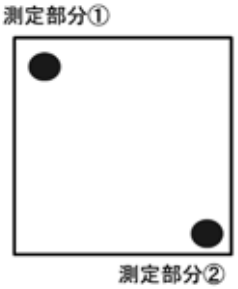
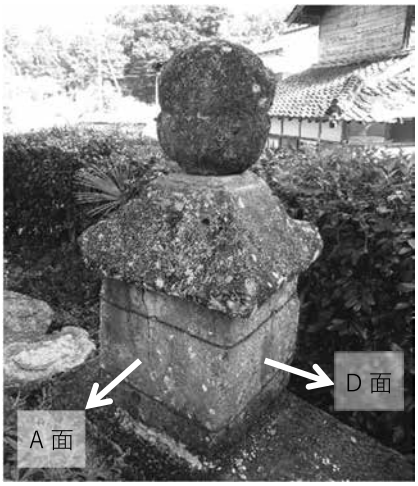


図 40　永昌寺十三重石塔の笠石に対する硬度測定部分と模式図



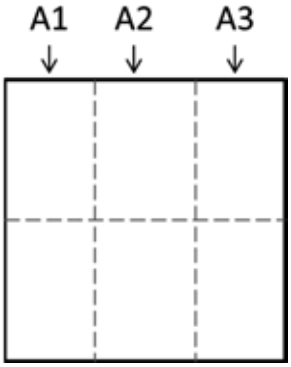


図 41　本来の初重軸部に対する硬度測定部分と模式図

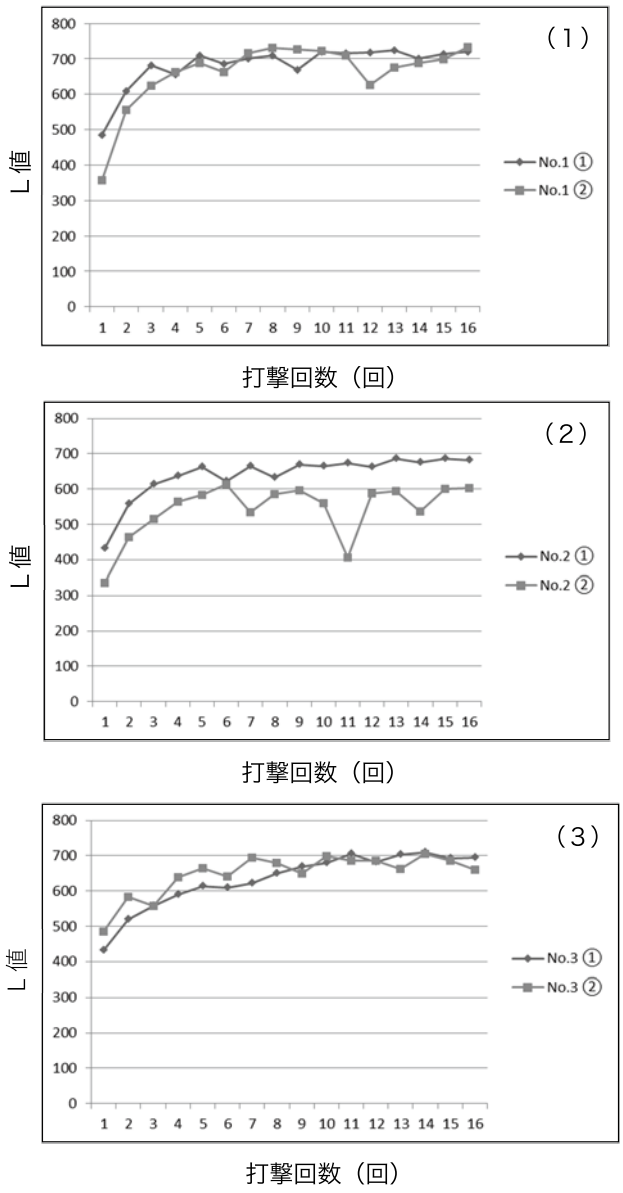


図 42　笠石の硬度

(1) 第 1 段，(2) 第 2 段，(3) 第 3 段

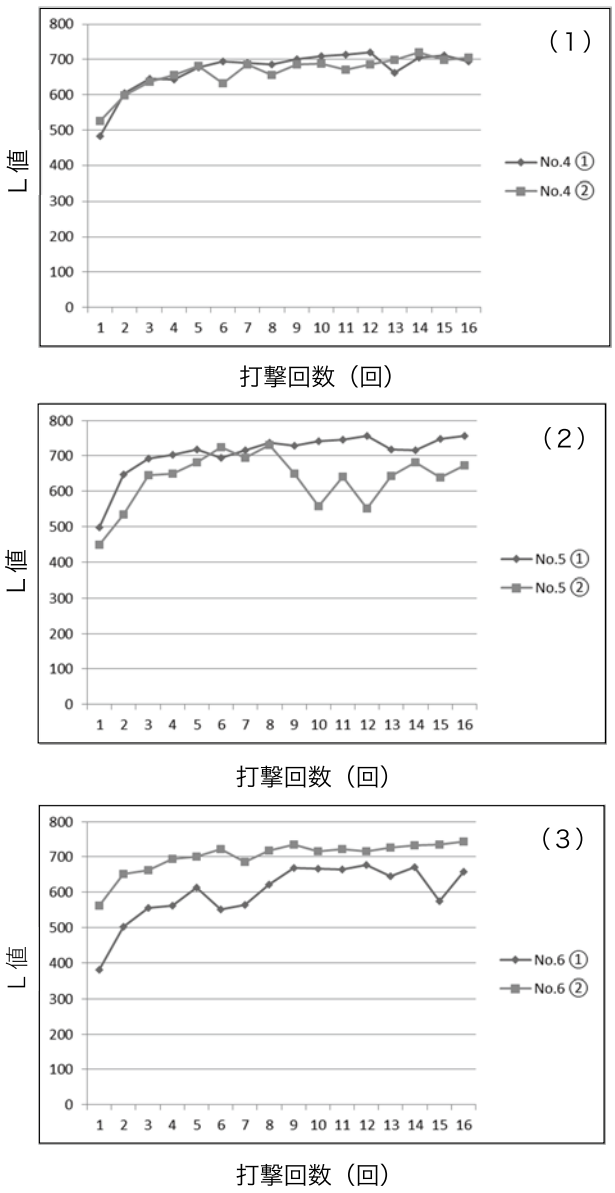


図 43　笠石の硬度

(1) 第 4 段，(2) 第 5 段，(3) 第 6 段

れる 1 箇所を連打しておこなう試験方法とが提唱されている。これは 1 箇所で連打測定を続けると，連打するうちに反撥値が高くなってくる傾向があるために，その対象の物性を初期値で評価するか，最終的な収束値で評価するかの判断が求められることを意味している。このように連打するうちに測定値が変化する理由として，通常の岩石表面には風化層が存在するために，その石材本来の硬さを計測できるまでは表面の風化状態を計測してしまっている可能性が指摘されている。つまり，単打法は現状の硬さを評価する際に有効な方法であり，連打法は現状ではなく，その石材本来の硬さを計測する際に有効な方法と考えられる。

この研究では永昌寺十三重石塔において石材の平らな部分を選んで 1 箇所を 16 回連打して硬度を測定し，その数値から石材劣化に関する評価をおこなった。また，16 回測定値をもちいて①石材表面の硬さ，②石材内部の硬さ，③石材本来の硬さを調べた。①石材表面の硬さは，16 回測定値のなかで 3 回目までの平均値をもとめて調べた。②石材内部の硬さは，16 回測定値の平均値をもとめて調べた。③石

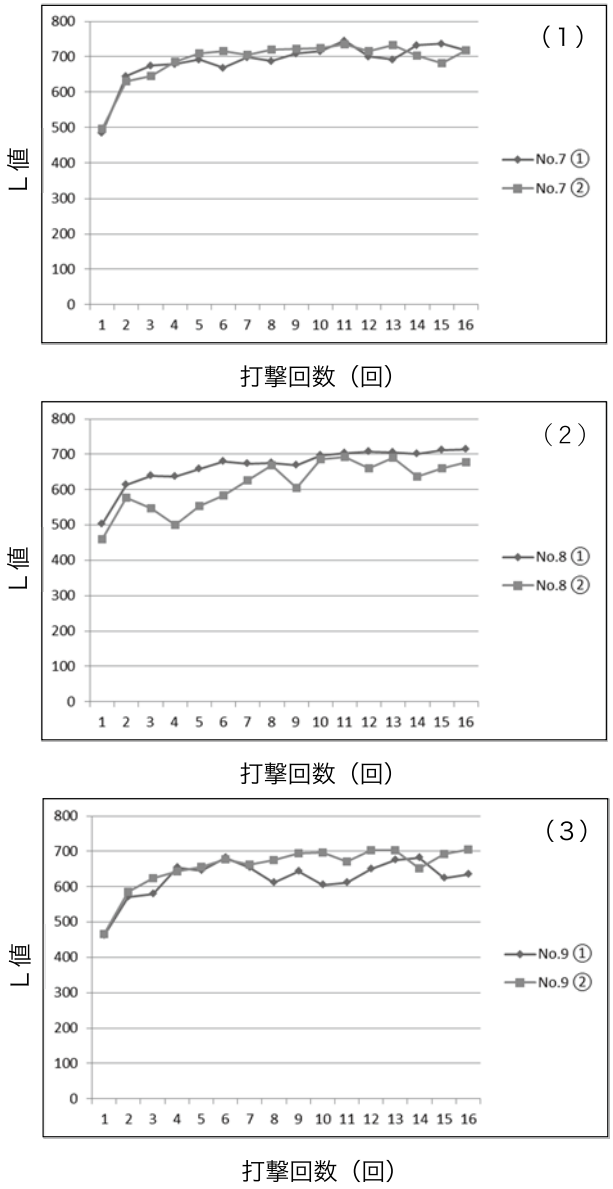


図 44　笠石の硬度

(1) 第７段，(2) 第８段，(3) 第９段

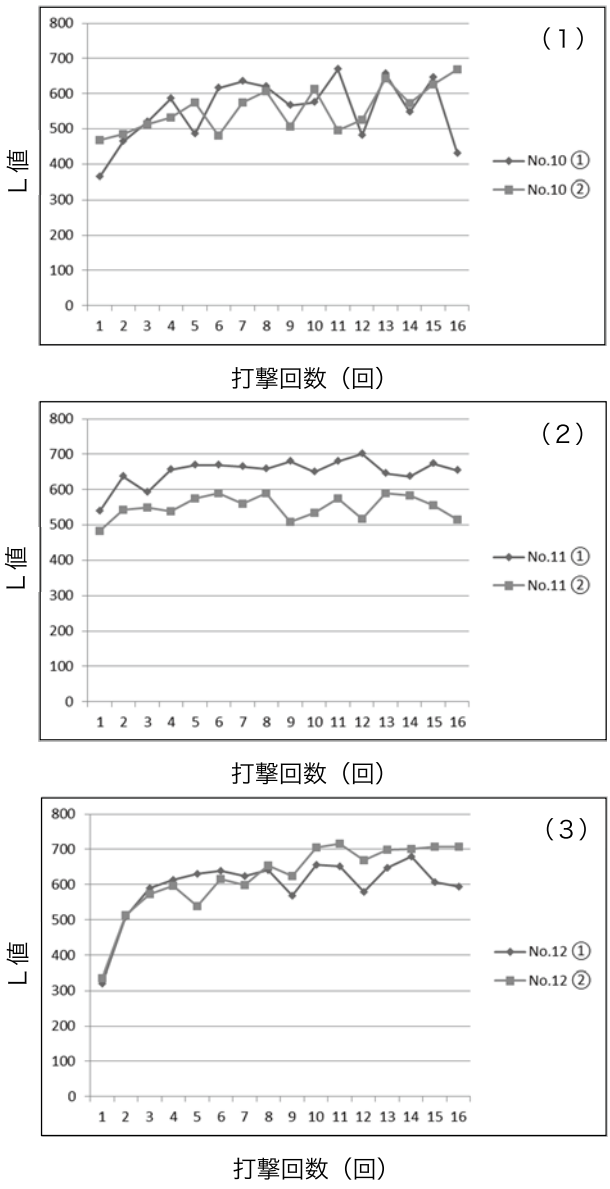


図 45　笠石の硬度

(1) 第 10 段，(2) 第 11 段，(3) 第 12 段

材本来の硬さを調べる方法として既存の研究に則り，連打法の測定値のなかで最大値３つの平均値をもって収束値と見なして Lmax 値と定義し，それを計測値として採用した。さらに，同じく同対象において場所をずらしながら測定した。したがって，本研究では 16 回平均値を石材内部の硬さに見なし，Lmax 値を石材本来の硬さに取り扱って石材の硬度を評価した。

硬度の測定部分は，13 段の笠石では一つの笠石に対して 2 箇所を測定してその測定部分を①，②に示した（図 40）。相輪では片面の２箇所を測定し，宝珠では片面１箇所のみを測定した。本来の初重軸部は，時計回りにそれぞれ A 面，B 面，C 面，D 面とした。A 面を３つに区切って A1，A2，A3 とした。A1 を上下で２等分して上部の１箇所，下部の１箇所の硬度を調べ，A 面では計６箇所を調査した。B 面，C 面についても同じ方法を実施した。しかし，D 面では D2 と D3 の間に修復痕跡が確認されてその部分を D4 と称して硬度測定をおこなった。D4 面は３等分して上部，中央部，下部の１箇所ずつ硬度を調べた。測定部分の模式図を図 41 に示す。

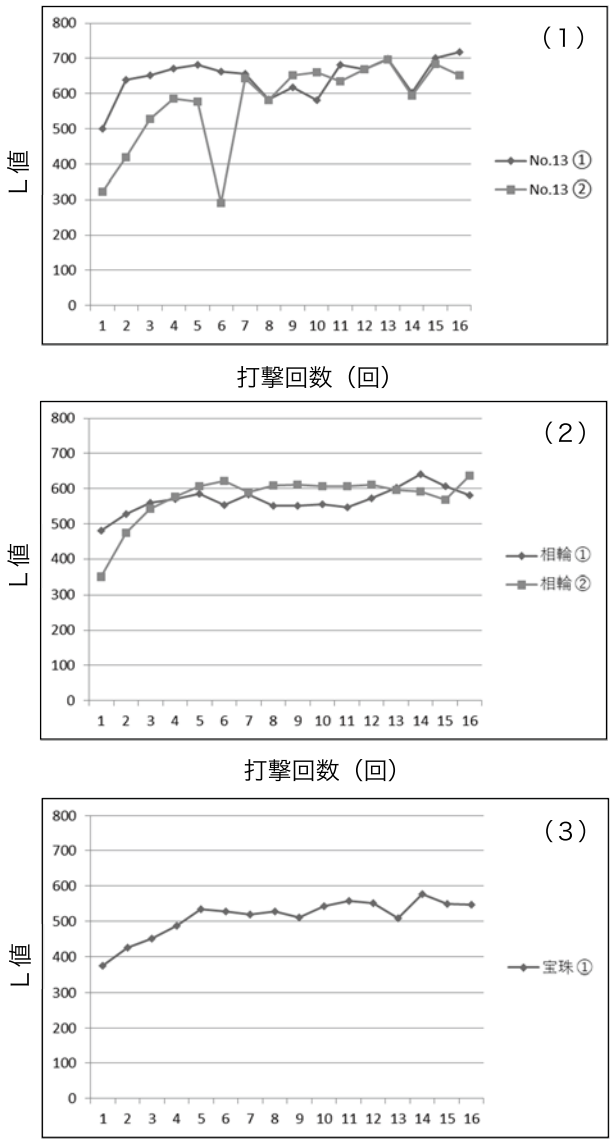


図 46　笠石，相輪，宝珠の硬度

(1) 第 13 段，(2) 相輪，(3) 宝珠

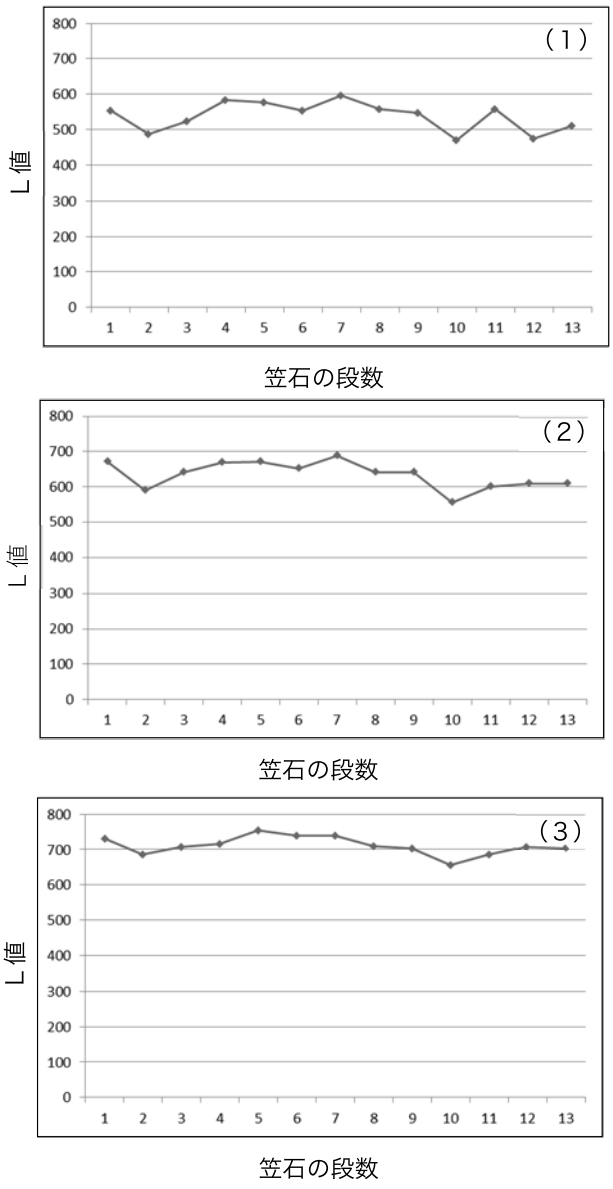


図 47　笠石の硬度

(1) 3 回平均値，(2) 16 回平均値，(3) Lmax 値

2）研究結果と考察

①永昌寺十三重石塔の 13 段笠石，相輪および宝珠

永昌寺十三重石塔の 13 段笠石，相輪および宝珠における 16 回の測定結果を図 42，図 43，図 44，図 45，図 46 に示す。笠石の各段において 1 回目の測定値が最も低い値を示していた。これは，単打法と呼ばれる 1 回の打撃による試験方法の結果と同様に考えることができ，石材表面の硬さとして評価される（福井県教育庁埋蔵文化財センター2017）。笠石の測定値は 1 回から 5 回まで硬度が増加する傾向を示していたが，一部の笠石では数値のばらつきがみられた。硬度は 5 回目以降で安定した数値を示すことが多いが，笠石 2 段，5 段，10 段および 13 段では硬度の変化が激しかった。これらの結果から，連打法の測定値では 1 回から 4 回までの数値が石材表面の劣化状態を示し，5 回前後以降の数値が石材内部の硬さを示すと考えた。笠石の各段における最大値は 700 前後であり，最低値は 300 前後を示し

ている。石材表面の硬さが最低値を示していることが多く，石材の内部に向かって硬度増加の傾向がみられた。相輪や宝珠は1回の測定値が最も低い値を示し，石材表面の劣化が進んでいることがわかった。測定値の1回から5回まで硬さが増加するが，5回目以降で安定した数値を示すことが多かった。相輪の最大値は600前後であり，最低値は300前後であった。宝珠の最大値は500前後，最低値は300前後であった。宝珠の硬度は笠石や相輪に比べて低くなっていた。この原因に宝珠では1箇所のみを測定したことが数値に影響を与えていたと推定される。

図47に13段笠石における3回平均値，16回平均値およびLmax値を示す。永昌寺十三重石塔の13段笠石に対して1段から13段の順に3回平均値が，553，487，524，583，578，553，597，557，548，470，557，474，511の値であった。16回平均値は，672，591，641，668，671，651，689，641，641，555，601，610，610の値であった。Lmax値が，730，685，707，715，754，739，739，710，704，657，687，710，705の値であった。笠石表面の硬度が500前後，笠石内部の硬度が600前後，笠石本来の硬度が700前後であった。相輪の3回平均値490，16回平均値571，Lmax値623であった。宝珠の3回平均値417，16回平均値512，Lmax値562であった。笠石表面や内部に対する硬度は石材本来に比べて低下していて，とくに表面の硬度が最も低かった。この傾向は相輪や宝珠においても同様であった。

②永昌寺十三重石塔の本来の初重軸部

地震後に発見された本来の初重軸部はA面，B面，C面，D面のすべて面でひび割れがみられて，C面は一部が欠損していた（図48）。各面における16回の測定結果を図49，図50，図，51，図52，図53に示す。A面では1回目の測定値が最も低い箇所と打撃回数が増加するにしたがって測定値が低くなる箇所がみられた。この傾向はB面，C面およびD面においても同様であった。とくにA1の下の硬さは，1回から3回まで数値が上がっていたが，4回以降に急に数値が下がって200前後の数値を示していた（図49）。A1，A3，B2，C1，D2，D3およびD4は測定部分によって硬度が大きく異なっていた。D4の測定結果は，上と中央は硬度が同じ傾向を示していたが，下の部分は硬度が急に下がっていた。今後同じ場所に修復がおこなわれる時D4下の硬度を上げることが必要とされる。また，すべての面で確認されたひび割れや石材劣化が硬度低下に影響を与えていたと推定されるが，これらの原因究明は今後の課題にしたい。初重軸部における最大値は600前後であり，最低値は200前後であった。

本来初重軸部の硬度測定の3回平均値，16回平均値およびLmax値を図58に示す。本来の初重軸部におけるA面，B面，C面，D面の順に3回平均値は396，378，436，430の値であった。16回平均値は422，454，528，529の値であった。Lmax値は617，614，638，697の値であった。初重軸部表面の硬度が400前後，内部の硬

図48　永昌寺十三重石塔における本来初重軸部の現状
(1) A面，(2) B面，(3) C面，(4) D面

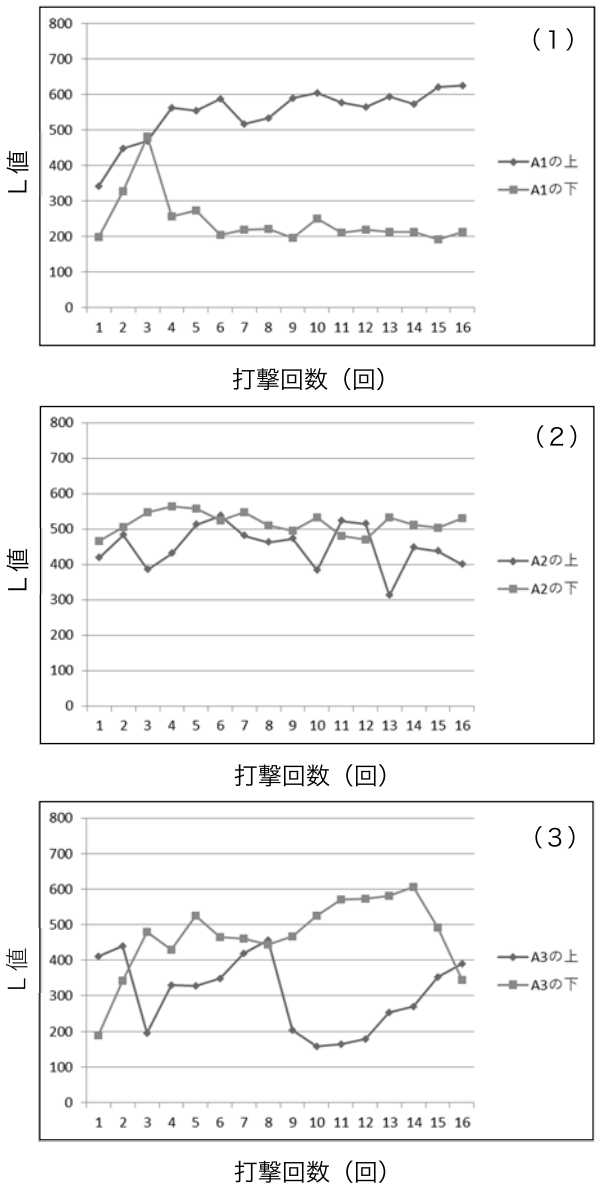


図 49　本来初重軸部の硬度

(1) A1 面，(2) A2 面，(3) A3 面

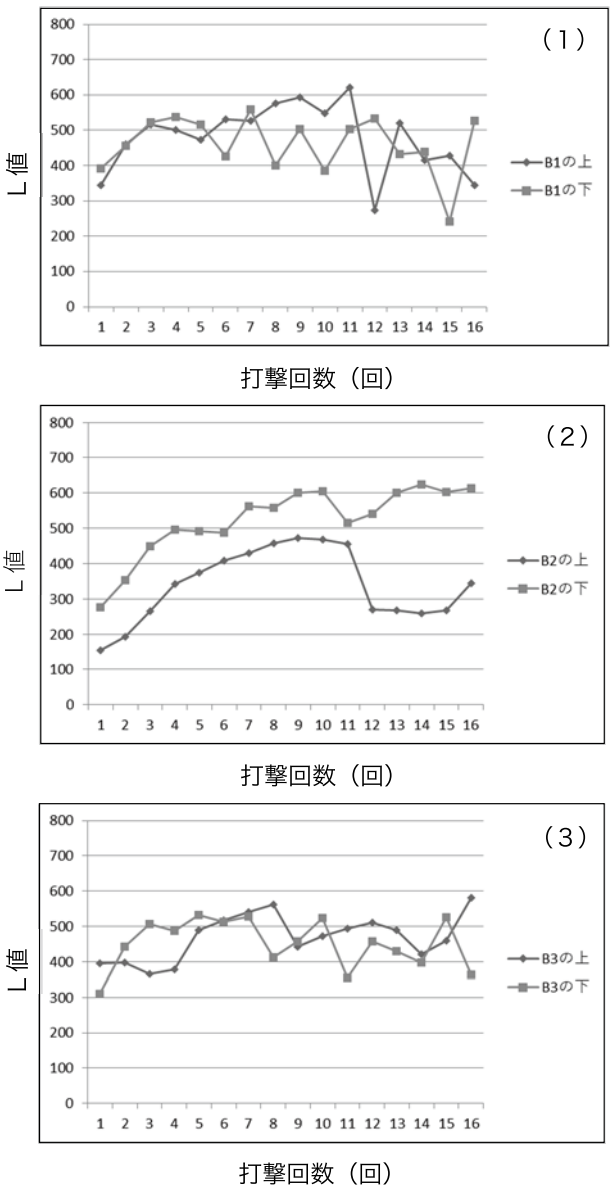


図 50　本来初重軸部の硬度

(1) B1 面，(2) B2 面，(3) B3 面

度が 500 前後，本来の硬度が 600 前後であった。初重軸部表面や内部の硬度は石材本来に比べて低下していて，とくに表面の硬度が最も低かった。これらの結果をとおして本来の初重軸部は測定場所によって硬度のバラツキが激しく，現在使用されている笠石より硬度が低いことを明らかにした。

本研究の目的は，永昌寺十三重石塔における 13 段の笠石，相輪，宝珠および本来の初重軸部の硬度を調べて石材の劣化状態を確認し，今後の修復に必要な情報を取得することである。硬度調査にはエコーチップ試験機を用いた。この調査をとおして各測定箇所における石材表面，その内部および石材本来の硬度を調べることができた。永昌寺十三重石塔の笠石，相輪および宝珠の表面や内部は石材本来の硬さに比べて劣化が進んでいることがわかった。本来の初重軸部は測定値のバラツキが多くみられて永昌寺十三重石塔に使用されている笠石，相輪および宝珠に比べて硬度が弱いことがわかった。岩石はそもそも不均質性を持つ材料であり，径約 3mm の範囲で測定するエコーチップ試験が大型石造文化財全体の強度評価にどこまで適用可能かについては別に検証が必要と思われる。この指摘どおり，エコーチッ

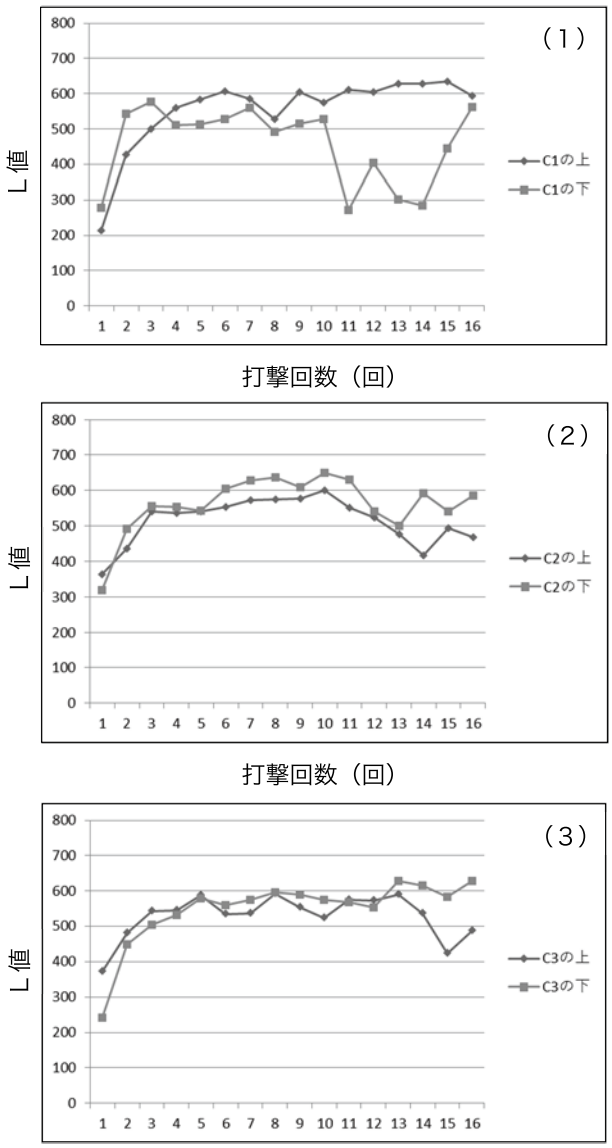


図 51　本来初重軸部の硬度

(1) C1 面，(2) C2 面，(3) C3 面

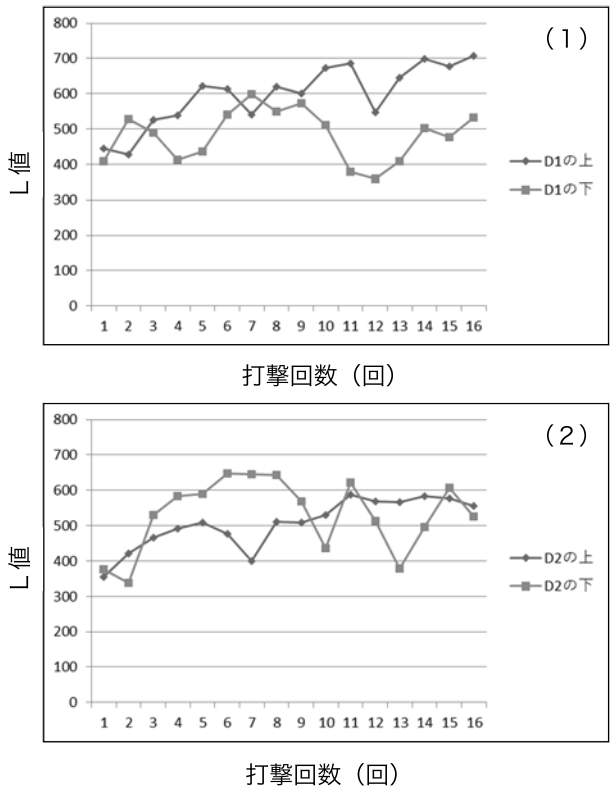


図 52　本来初重軸部の硬度

(1) D1 面，(2) D2 面

プ試験による硬度は調査対象の一部分であるので，今回の調査で石材全体の硬度を調査することができない。しかしながら，本研究は鳥取県内の石造文化財に対する初めての硬度調査であり，石材の硬度を数値化して石材の劣化度合いを調査することができた。これらのデータは石材のモニタリングや保存処理がおこなわれるときに効果の検証やそのガイドラインを設ける情報として活用できる。

2　石造文化財における地衣類対策と強化処理

本研究は平成 28 年の鳥取県中部地震が発生して石造文化財において被害を及ぼしたことがきっかけにおこなわれた。未指定文化財の横穴式石室，永昌寺十三重石塔および狛犬などを対象としてその被害状況や劣化について調査を実施した。また，石造文化財の保存対策を講じるために地衣類の除去や石材強化に関する研究をおこなったのでその成果を報告する。

石は一般に燃えにくく，また強固である場合が多いことから，石造文化財は木造文化財などに比べれ

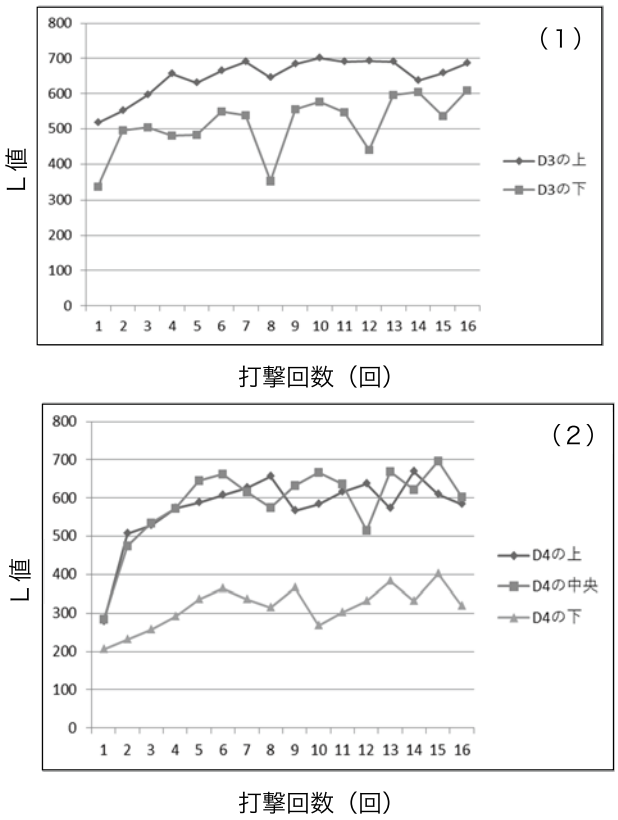


図 53　本来初重軸部の硬度

(1) D3 面，(2) D4 面

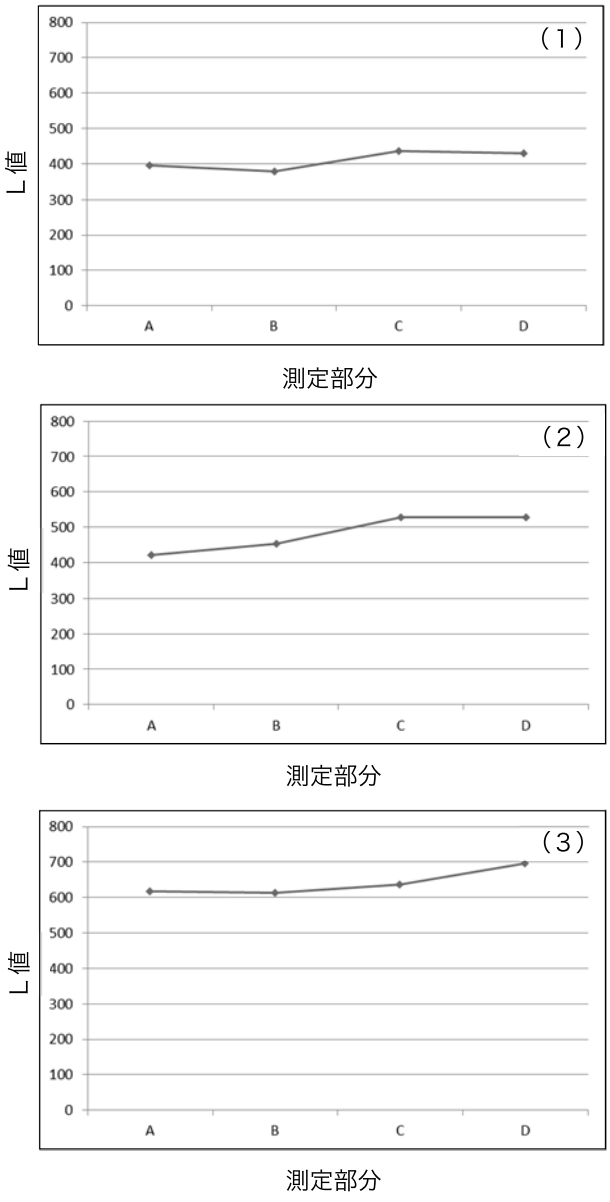


図 54　本来初重軸部の硬度結果

(1) 3 回平均値，(2) 16 回平均値，(3) Lmax 値

ばその保存に細心の注意が払われることは少なく，屋外で放置されたままの石造文化財も少なくない。したがって，より安定的でかつ効果的な保存処理技術が必要とされている。石造文化財の劣化原因は，コケや地衣類などの生物および石材の粉状化，剥離および摩耗などがあり，これらの原因から石造文化財を守るために洗浄（汚れや生物除去），石材強化処理がおこなわれる。石造文化財の保存処理の工程は，現状の調査および分析，洗浄，補強，強化，保存処理後の記録である。本研究では洗浄や強化処理に関する手法を講じることを目的として実験をおこなった。

1）研究対象および方法

鳥取大学の付近に位置する松高神社の狛犬台座に洗浄や強化処理を実施した（図 55）。台座表面の洗浄は，地衣類などの生物除去に使用されるオスバン（商品名），コレトレール（商品名）の 2 つの薬剤をもちいた。オスバンの主成分はベンザルコニウム塩化物であり，殺菌消毒剤として使用される。コレトレールの主成分は低級アルコールのアルキレンオキシド付加物であり，地衣類・藍藻類除去剤として

使用される。オスバンは殺菌効果があり，コレトレールは藻類の除去に効果がある。地衣類は菌類と藻類が共生しているもので菌類または藻類の活動を抑えると，地衣類が死滅する。本研究では，この２つの薬剤を使用して地衣類除去の効果を確かめた。

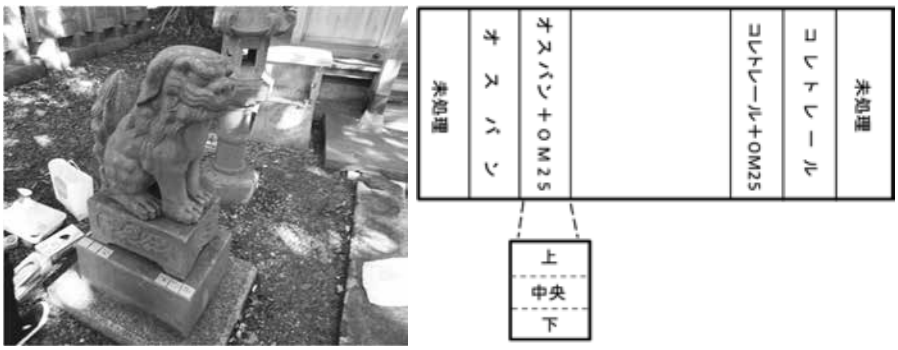


図 55　松高神社の狛犬とその台座における実験方法

松高神社の狛犬台座に強化処理をおこなうために強化剤の OM25（商品名）を施した。OM25 は珪酸エチルエステルをベースにメトキシ変性のメチルシリコーンオリゴマーと触媒を添加したものであり，加水分解反応によって 2〜3 日で一応の強度が得られる。メチルシリコーンオリゴマーによって撥水性が付与される。OM25 は軟弱遺構や遺物の強化，石の表面剥離などに用いられる強化剤である。

狛犬台座の左端と右端を選んで左端を 5 ㎝ずつ 3 つに区切って左，中央，右とした。左端の左側を未処理，中央に地衣類除去剤のみ塗布，右側に地衣類除去剤の塗布 7 日後に強化剤 OM25 を筆で塗った。以下，右端でも同様に実験をおこなった。地衣類の除去剤は左端にオスバン，右端にコレトレールを施し，薬剤は筆で石材表面に塗布した。オスバンは 100 倍希釈して使用し，コレトレールは希釈をせずに使用した。地衣類除去の効果は未処理部分との色変化を肉眼観察して判断した。

石材硬度はエコーチップ試験機を用いて調べた。硬度の測定部分は，石面の上部，中央部，下部の 3 箇所でそれぞれ 16 回ずつ硬度を測定した。その測定値のなかで 3 回目までの平均値をもとめて強化剤の効果を調べた。実験対象の肉眼観察や硬度測定の実施期間は，実験前，実験 5 か月後，実験 11 か月後であった。そのほか，地衣類除去剤を塗布した 7 日後に観察をおこなった。

２）研究結果および考察

地衣類を除去する前に石材は薄い緑色を示していた。実験開始から 7 日後に石材表面を観察した結果，オスバンの塗布部分は緑色が若干薄くなっていた。しかし，未処理の部分に比較して大きな差異はみられなかった。コレトレールの塗布部分は緑色がみられなくて，その部分を未処理の部分に比べても色の変化が著しかった。7 日後の実験結果では，コレトレールがオスバンに比べて地衣類除去に速効性をもっていることが確認できた。

実験 5 か月後の観察では，オスバンを塗った部分は以前に比べて色の変化がみられなかった。しかしながら，今回の実験結果だけでオスバンの効果を判断できないので引き続き研究が必要である。実験 5 か月後のコレトレールの塗布部分は，それを塗った部分だけではなく未処理部分に色の変化がみられた。コレトレールは筆を使用して石材表面に塗布したのでその周りに拡がらなかったと推定しているが，その原因究明については今後の検討が必要である。実験 11 か月後に地衣類除去剤を使用した部分は 5 か月後に比べて色の変化は確認されなかった。地衣類除去剤の実験結果を図 56 に示す。

強化剤の実験結果を実験前，実験 5 か月後，実験 11 か月後の順にみると，オスバンと OM25 を使用した上部は，454，490，468 の値を示した。同対象の中央部は，489，461，425 の値を示した。同対象の下部は，264，315，498 の値を示した。上部は実験前から実験 11 か月の間，400〜500 の値を示して硬度の変化はほとんどみられなかった。中央部は実験期間中に硬度が若干下がっていたが 400〜500 の値を示していた。しかし，下部は実験前に 264 の値を示していたが，実験 11 か月後には 498 の値を示して硬度が上がっていた。

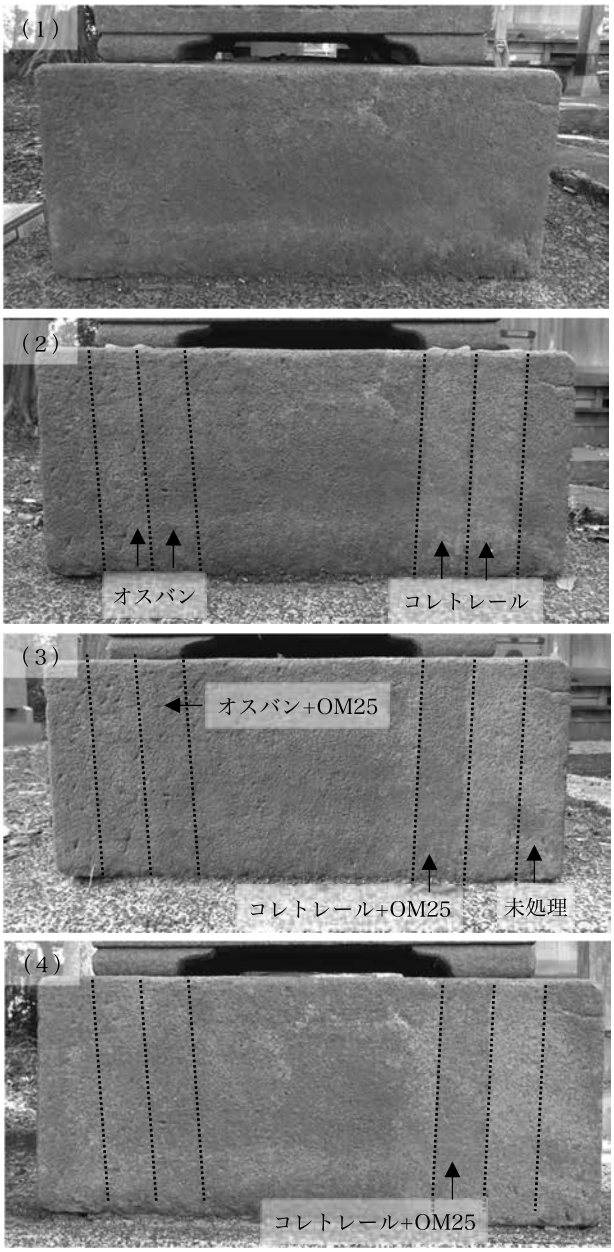


図 56　地衣類除去剤の使用後の様子

(1) 実験前，(2) 実験 7 日後，(3) 実験 5 か月後

(4) 実験 11 か月後

コレトレールと OM25 を使用した上部は，316, 443，327 の値を示した。同対象の中央部は，432, 462, 454 の値を示した。同対象の下部は, 293, 455, 458 の値を示した。上部は実験前から実験 5 か月の間に硬度が上がっていたが，実験 11 か月後の硬度は下がって実験前の数値にほぼ同じであった。中央部は実験前後に硬度の変化はみられなく, 400～500 の値を示した。しかし，下部は実験前に 293 の値を示していたが，実験 11 か月後に 458 の値を示して硬度が上がっていた。これらの実験結果から，実験前の硬度が 200 前後の値を示した部分で OM25 の効果が確認できた。硬度 300 前後の部分は OM25 の使用によって硬度は上がっていたが，その効果が維持されなかった。

本実験をとおしてコレトレールがオスバンに比べて地衣類除去に速効性があることを確認した。強化剤 OM25 は地衣類除去剤の種類に関係なく, 実験前の硬度値によって強化剤の効果が異なることがわかった。しかし，OM25 の使用によって石材表面の変色が観察されていた（図 56 の（3））。文化財の保存処理はその本来の様子を変化させることなく保存処理をすべきであるので，石材の変色を考慮した上で強化処理をおこなうのが望ましい。

3　モニタリングと日常管理

本研究は平成 28 年度鳥取県中部地震が発生したことをきっかけに被災地の石造文化財に対する調査や記録をおこなった。屋外にある石造文化財の劣化の大きさは，雨水，太陽光，生物といった，外部劣化要因からどの程度遮断されているかによって大きな違いがあり，屋外環境は様々な要因による劣化をもっともシビアに受ける環境といえる（本田他 2012）。このような環境に置かれている石造文化財に大きな影響を与える要因の一つは自然災害であり，文化財の分野では 1995（平成 7）年に発生した阪神・淡路大震災が文化財の危機管理の原点となっている（文化財保存修復学会 2012）。これをきっかけに文化財の危機管理において定期的な調査，記録がもっとも大事なことのひとつであるとされる。文化財の所在情報，どこに，どんな文化財が，どのような形で存在しているかといったことをしっかり把握しておくことが敏速な救出に対しては必須である（東京文化財研究所 2011）。阪神・淡路大震災の際には文化財の記録が乏しかったために救出が非常に困難であったとされる。そのような教訓から災害対策として平時に文化財の調査，記録を集めることが重要である。

近年, 自然災害による文化財被害が多発している。1995 年阪神・淡路大震災, 2011 年東日本大震災,

2016 年熊本地震のように自然災害が都市環境を襲えば，人命被害，ライフライン破壊のみならず，文化財破壊も短時間で大規模，かつ広域に及ぶ。一方，限界集落，無住の寺，荒れる里山など社会構造の変化によるコミュニティーの崩壊が地域文化への関心と関与を急激に低下させ，それによって文化財の維持管理が困難になる事例も増加している。このように現代社会の文化財は多様な危機に取り囲まれてさまざまな災害に直面している。そのために，その脅威にさらされることを前提とした減災の考え方に立ったモニタリング，日常管理および防災を志向すべきである。文化財防災は自然災害の脅威，そして社会構造の変化がもたらす人為的な脅威に対して向き合い，それぞれに適切な対応をおこなわなければならない。あらゆるリスクに対して共通する対策の一つは，日常的な資料管理の徹底であり，平常時に実施する適切な保存管理は災害に対してもある程度の効果を発揮する（日本文化財科学会 2015)。本研究の成果は文化財の現状に関する記録でありながら災害に備えた防災管理になるので，これらの情報は鳥取県における文化財保存，修復および被災した文化財の把握に活用できる。被災時の対応がスムーズに展開できるかどうかは，行政・住民・大学などの日頃の関係に大きく左右される。単純ではあるが，お互いが顔見知りであることが重要である。住民組織，行政の文化財担当職員，地元大学，文化財保存修復機関，マスコミなどとの日常的なネットワークを持つことが被災時の力になることが報告されている（奥村 2014)。文化財防災計画や管理の重要性が大きくなりつつ，きたるべき災害に備えるために，本研究の成果が鳥取県における文化財の防災管理の構築に繋がることを期待する。

参考文献

鳥取県教育委員会 1995『鳥取県の文化財』鳥取県教育委員会

朽津信明・松倉公憲・池田朋生 2006「エコーチップ硬度試験機による文化財石材の評価－熊本県下の装飾古墳の例－」『日本応用地質学会研究発表会講演論文集』，pp.433~436

朽津信明 2007「エコーチップ試験機による文化財石材の硬さに関する研究」『保存科学』No.46，pp.154~159

朽津信明・津村宏臣・森井順之 2013「凝灰岩製石造文化財における劣化現象認識のための注意点-京都市個人所蔵石殿の一事例を通して-」『保存科学』No.52，pp.217-226

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2017 『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 46　平成 27 年度環境整備事業概報』

本田光子・森田 稔 2012『博物館資料保存論』NHK 出版，pp.37

文化財保存修復学会 2012『文化財の保存と修復 14』クバプロ，pp.22

東京文化財研究所 2011『文化財の保存環境』中央公論美術出版，pp.110

日本文化財科学会 2015『被災文化財を守る–陸前高田からの視点–』，pp.30

奥村 弘 2014『歴史文化を大災害から守る』東京大学出版会，pp.329

狛犬の劣化診断シート

凡例

AL・AR：本殿に最も近い位置にある一対をＡとし，順次近い順にＢ，Ｃ，Ｄとする
一対の狛犬のうち，本殿に向かって左側（L），右側（R）とする

型式：狛犬の形からみた分類，出雲型，岡崎型など

材質：狛犬の石材

制作時期：台座の紀年銘による

制作者：石工名（台座の銘による）

寄進者：台座の銘による

備考：特筆すべき劣化状況，地震被害

東郷神社：東伯郡湯梨浜町小鹿谷 768

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：明治 40 年 9 月

制作者：不明　寄進者：世話人　森田馬蔵

備考：地震による台座からのずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：明治 40 年 9 月

制作者：不明　寄進者：世話人　森田馬蔵

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

松崎神社：東伯郡湯梨浜町松崎 566

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

長瀬神社：東伯郡湯梨浜町はわい長瀬 1080

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：明治 41 年 9 月

制作者：不明　寄進者：願主　林利茂，倉光平九郎　世話人　林■茂

備考：頭，足軽い欠損

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：明治 41 年 9 月

制作者：不明　寄進者：願主　林利茂，倉光平九郎　世話人　林■茂

備考：頭軽い欠損，尾欠損，尾が折損

長江神社：東伯郡湯梨浜町長江 1465

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭軽い欠損，身・尾なし，脚部破損

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾欠損，足軽い欠損，地震により尾が折損

荒神社：東伯郡湯梨浜町羽衣石

型式：不明

材質：来待石

制作時期：寛政 11 年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：足軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：不明

材質：来待石

制作時期：寛政 11 年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

田後神社：東伯郡湯梨浜町田後 808

型式：岡崎型

材質：花崗岩

制作時期：平成５年９月

制作者：不明　寄進者：杉本浩　浦川武男　青木義明　椿茂樹　福井義人

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

材質：花崗岩

制作時期：平成５年９月

制作者：不明　寄進者：杉本浩　浦川武男　青木義明　椿茂樹　福井義人

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：天保 12 年 6 月

制作者：不明　寄進者：願主　久米郡弓原村　尺三郎　半兵工

備考:身欠損，頭・足・尾軽い欠損，境内隅に片付け

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：天保 12 年　6 月

制作者：なし　寄進者：願主　久米郡弓原村　尺三郎　半兵工

備考：頭・足欠損，身・尾軽い欠損，境内隅に片付け

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

灘郷神社：東伯郡湯梨浜町泊 1504-1

型式：岡崎型

材質：花崗岩

制作時期：平成４年１月

制作者：不明　寄進者：氏子一同

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

材質：花崗岩

制作時期：平成４年１月

制作者：不明　寄進者：氏子一同

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

BL

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：文久２年５月

制作者：石工川六作　寄進者：願主　園　綿屋久三郎

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

BR

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：文久２年５月

制作者：石工川六作　寄進者：願主　園　綿屋久三郎

備考：頭軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

CL

型式：岡崎型

材質：花崗岩

制作時期：　平成５年10月

制作者：不明　寄進者：　加藤寛

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

CR

型式：岡崎型

材質：花崗岩

制作時期：　平成５年10月

制作者：不明　寄進者：　加藤寛

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

湊神社：東伯郡湯梨浜町橋津 287

型式：出雲型

材質：来待石

制作時期：明治２年

制作者：不明　寄進者：願主　蜘勇丸　船頭　周三郎

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：　出雲型

材質：　来待石

制作時期：明治２年

制作者：不明　寄進者：願主　蜘勇丸　船頭　周三郎

備考：足欠損，頭・身・台座軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：　出雲型

材質：　来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：願主　赤池屋清四郎，油屋勘七，小新田屋多助，他

備考：尾軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：　出雲型

材質：　来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：願主　赤池屋清四郎，油屋勘七，小新田屋多助，他

備考：頭・足・尾欠損，身・台座軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

松尾神社：東伯郡湯梨浜町野花 567

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：脚部欠損

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治 34 年 3 月

制作者：不明　寄進者：神波信蔵　神波文次郎　神波久三郎

備考：特になし

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治 34 年 3 月

制作者：不明　寄進者：神波信蔵　神波文次郎　神波久三郎

備考：下顎欠損

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治33年10月

制作者：不明　寄進者：願主　本林

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治33年10月

制作者：不明　寄進者：願主　本林

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治25年1月

制作者：不明　寄進者：医学士　馬淵元宣

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治25年1月

制作者：不明　寄進者：医学士　馬淵元宣

備考：下顎一部欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

国主神社：東伯郡湯梨浜町北福 306

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治 29 年 9 月

制作者：不明　寄進者：福井嘉市

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治 29 年 9 月

制作者：不明　寄進者：福井嘉市

備考：腹部にひび

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

北野神社：東伯郡湯梨浜町南谷 414

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 昭和 15 年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震によりずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 昭和 15 年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 文久２年６月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胴体一部剥離，尾亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 文久２年６月

制作者：不明　寄進者：世話人　當邑　利平

備考：下顎欠損，尾欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

北野神社：東伯郡湯梨浜町門田 497-3

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治 36 年

制作者：不明　寄進者：岡本利七

備考：後右脚欠損，地震による台座からのずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 明治 36 年

制作者：不明　寄進者：岡本利七

備考：地震による台座からのずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 昭和12年1月

制作者：不明　寄進者：青木屋　岡本のぶ

備考：地震による台座からのずれ，台座割れ

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 昭和12年1月

制作者：不明　寄進者：青木屋　岡本のぶ

備考：地震による台座からのずれ，台座割れ

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

倭文神社：東伯郡湯梨浜町宮内754

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 文政２年４月

制作者：磯右衛門　寄進者：遠藤善兵衛　遠藤善五郎

備考：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 出雲型

材質： 来待石

制作時期： 文政２年４月

制作者：磯右衛門　寄進者： 遠藤善兵衛　遠藤善五郎

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 岡崎型

材質： 花崗岩

制作時期： 平成15年4月

制作者：不明　寄進者：宮内　田中泰彦

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式： 岡崎型

材質： 花崗岩

制作時期： 平成15年4月

制作者：不明　寄進者：宮内　田中泰彦

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

大江神社：倉吉市仲ノ町字打吹山 3445-16

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正２年１月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胸部剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正２年１月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

小鴨神社：倉吉市大宮 33

型式：出雲型

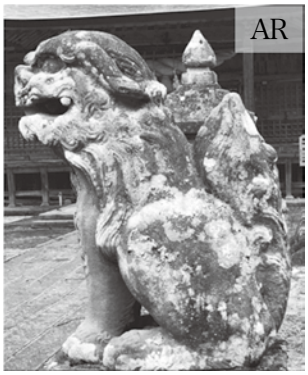
石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胸部剥離　台座割れ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胸部剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

尾原神社：倉吉市尾原

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胸部剥離，脚部損傷・シリコン・コンクリ修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胸部剥離・シリコン・コンクリ修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

尾崎神社：倉吉市鋤228

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：後左脚・尾ほぼ欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

山長神社：倉吉市森 142

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 11 年 9 月

制作者：不明　寄進者：大河内村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 11 年 9 月

制作者：不明　寄進者：大河内村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

廣瀬神社：倉吉市廣瀬1314

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政８年

制作者：不明　寄進者：清右ヱ門　民右ヱ門　長左ヱ門

備考：胸部剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政８年

制作者：不明　寄進者：清右ヱ門　民右ヱ門　長左ヱ門

備考：脚部亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

新宮山神社：倉吉市下余戸４

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治30年８月

制作者：不明　寄進者：伊藤健次郎

備考：地震により台座ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治30年８月

制作者：不明　寄進者：伊藤健次良

備考：顔一部欠損，地震により土台ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

服部神社：倉吉市服部1182

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保３年４月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保３年４月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

村上神社：倉吉市巌城1536

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：松江寺町　安田幸八　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：松江寺町　安田幸八　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

東山神社：倉吉市米田 568-4

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾破損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

桜神社：倉吉市桜 378

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾折欠損後修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾折損・台座ずれ？

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

楯縫神社：倉吉市上福田 182

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾折損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：後脚折損後修復，台座割れ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化，下顎，尾欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

鹿島神社：倉吉市伊木 567

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

制作者：不明　寄進者：竒人村中

備考：地震による土台ゆがみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

制作者：湧島■里　寄進者：不明

備考：脚・尾に軽い欠損，補修痕あり，地震による土台ゆがみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

制作者：湧島■里　寄進者：不明

備考：台座軽い欠損，地震による土台ゆがみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

制作者：不明　寄進者：竒人村中

備考：足軽い欠損，補修痕あり，地震による土台ゆがみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

制作者：不明　寄進者：奇人村中

備考：尾軽い欠損，地震による台座ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震による台座ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

七峰神社：倉吉市大塚206

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成９年５月

制作者：不明　寄進者：奥田■■　奥田静■

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：　岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成９年５月

制作者：不明　寄進者：奥田■■　奥田静■

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

高見神社：倉吉市北面

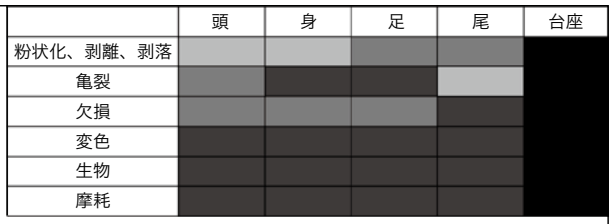
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾ほぼ欠損・台座無し，体部に亀裂，１体のみ残存



風宮神社：倉吉市岡 19

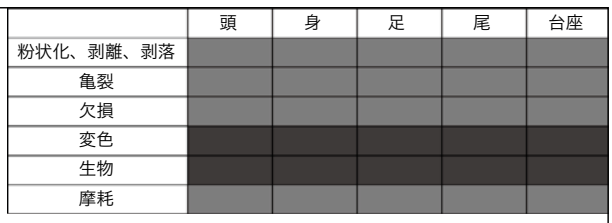
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治２３年８月

制作者：不明　寄進者：世話人　宮本源■　前田千次■

備考：特になし



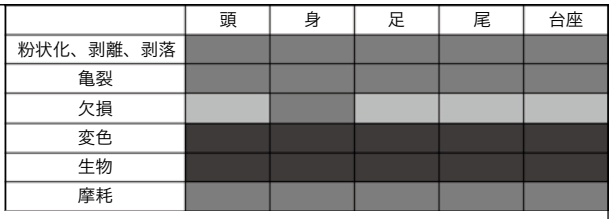
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治23年８月

制作者：不明　寄進者：世話人　宮本源■　前田千次■

備考：尾先端欠損，下顎欠損



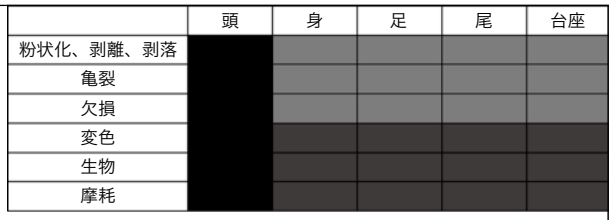
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化，頭欠損



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化，胴体・尾のみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

賀茂神社：倉吉市葵町 584

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和 36 年 12 月

制作者：不明　寄進者：斎木久寿

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和 36 年 12 月

制作者：不明　寄進者：斎木久寿

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

西阪神社：倉吉市大立 810

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應元年 7 月

制作者：不明　寄進者：願主　村中　世話人　中右ェ門

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應元年７月

制作者：不明　寄進者：願主　村中　世話人　中右ェ門

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

耳神社：倉吉市耳

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭，尾破損後修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

立原神社：倉吉市上余戸 85

型式：　出雲型

石材：来待石

制作時期：明治２年４月

制作者：不明　寄進者：願主　福嶋利平

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治２年４月

制作者：不明　寄進者：願主　福嶋利平

備考：尾剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

福積神社：倉吉市福積 719

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座割れ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

福富神社：倉吉市福富 326

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應２年３月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應２年３月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

神庭神社：倉吉市円谷 252

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 20 年８月

制作者：不明　寄進者：神庭神社奉賛会氏子

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 20 年 8 月

制作者：不明　寄進者：神庭神社奉賛会氏子

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

白山神社：倉吉市栗尾 553

型式：出雲型

石材：不明

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭無し，身，足欠損，尾軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：不明

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座のみ残存，軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

田内神社：倉吉市巌城 1474

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 15 年 5 月

制作者：松江和田見町　石工　渡部卯助　寄進者：村中若連中　世話人黒川常次郎　高見傅■高多儀平

備考：尾剥離，土台ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 15 年 5 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：松江和田見町　石工　渡部卯助　寄進者：村中若連中　世話人黒川常次郎　高見傅■高多儀平

備考：身～尾剥離

灘手神社：倉吉市穴沢 69

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体やや風化

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座軽い欠損，右側のみ残存

波波伎神社：倉吉市福庭654

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和9年10月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：山根静子　正五位勲五等山根孝人妻

備考：尾軽い欠損，地震による土台ずれ

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和9年10月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：福光正義　従五位勲六等

備考：地震による下顎欠損，土台ずれ

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治30年6月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：境町　遠藤仁太郎　寄進者：世話人　福井長二郎　井手添直蔵

備考：地震による土台ずれ

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治30年6月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：境町　遠藤仁太郎　寄進者：世話人　福井長二郎　井手添直蔵

備考：下顎欠損，後ろ左足欠損，尾剥離，亀裂，台座割れ，地震による土台ずれ

毘沙門天：倉吉市上井

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胸部ひび，尾先端欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

三江神社：倉吉市三江 1166

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 12 年 3 月

制作者：不明　寄進者：氏子中

備考：特になし

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 12 年 3 月

制作者：不明　寄進者：氏子中

備考：特になし

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

上井神社：倉吉市上井 884

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 13 年 12 月

制作者：不明　寄進者：岡山市　野田俊国

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 13 年 12 月

制作者：不明　寄進者：石田正・森寛・名越勉・まほろば研究会・砂原壽一・杉森健司・河崎雄二・倉吉病院・（株）味想・里田太通・梅本善夫・西田龍之介・マツヤデンキ

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治41年10月15日

制作者：不明　寄進者：豊嶋谷蔵　福井建蔵

備考：脚部破損，胸部剥離，境内脇に片付け

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治41年10月15日

制作者：不明　寄進者：豊嶋谷蔵　福井建蔵

備考：頭部破損，脚部破損，境内脇に片付け

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

倉吉神社：倉吉市朝田谷3451

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：左後ろ脚欠損，台座割れ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

大原神社：倉吉市大原619

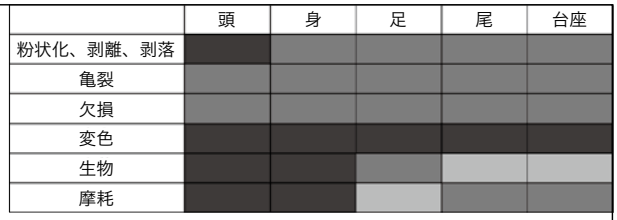
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者： 不明

備考：頭部剥離，補修痕あり，地震により転落・復旧



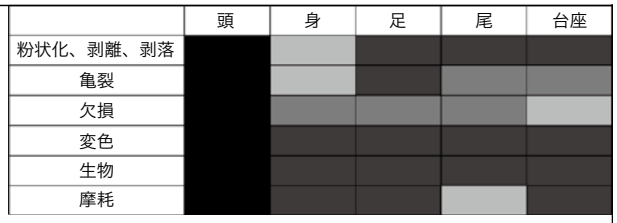
型式：出雲型

石材：来待石

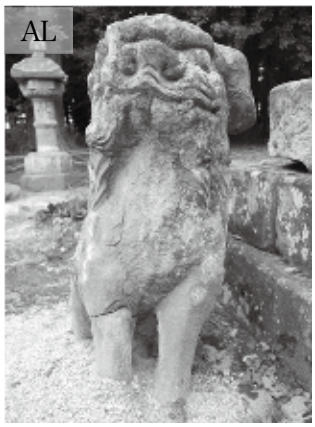
制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震により頭部欠損後修復，胸部剥離



国庁裏神社：倉吉市国分寺426



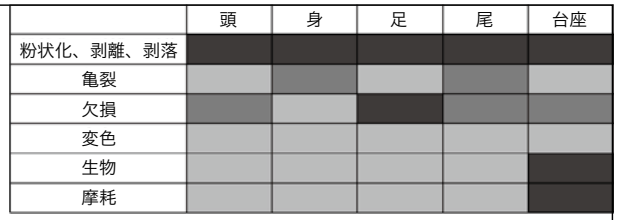
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保３年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：脚部破損で転落，胸部剥離



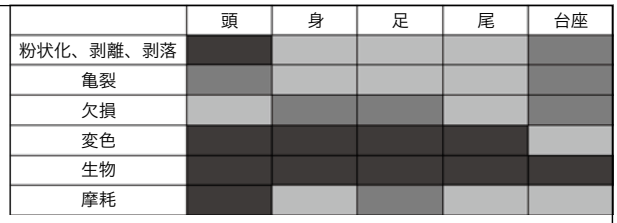
型式：出雲型

石材：来待石

製作時期：天保３年９月

製作者：不明　寄進者：松本源八

備考：下顎欠損，胸部剥離，尾先端欠損



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：横田村　長田清五郎

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：横田村　長田清五郎

備考：下顎欠損，脚部破損で転落

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 40 年 1 月

制作者：不明　寄進者：米田久米蔵

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 40 年 1 月

制作者：不明　寄進者：米田久米蔵

備考：下顎一部欠損，脚部剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

製作時期：不明

制作者：不明　寄進者：池田傳吉

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：　池田傳吉

備考：脚部破損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

古川沢神社：倉吉市古川沢 203

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和７年 12 月

制作者：境町　遠藤石材店　寄進者：発起者　西谷藤十郎　寄附者六名

備考：地震により回転

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和７年 12 月

制作者：境町　遠藤石材店　寄進者：発起者　西谷藤十郎　寄附者六名

備考：胸部剥離，地震により回転

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 明治34年8月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：施主　西谷清太郎　村中

備考：地震によりずれ

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治34年8月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：施主　西谷清太郎　村中

備考：地震によりずれ

北野神社：倉吉市北野712

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主　北野村　■■村　■■村　福田村　氏子中

備考：顔欠損，地震によりずれ

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主■■村　氏子中　世話人同村　白木■■郎

備考：尾剥離，地震によりずれ

勝宿禰神社：倉吉下田中 113

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 昭和 12 年 10 月

制作者：不明　寄進者：大阪　木下文子

備考：地震によりずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和 12 年 10 月

制作者：不明　寄進者：大阪　木下文子

備考：地震によりずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

穴窪神社（八幡宮）：倉吉市穴窪 174

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政５年９月

制作者：石工　田内村　勘兵衛　直七　嘉助　寄進者：十二氏子　若連中

備考：地震によりずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政５年９月

制作者：石工　田内村　勘兵衛　直七　嘉助　寄進者：十二氏子　若連中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

倭文神社：倉吉市志津 209

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 10 年 12 月

制作者：不明　寄進者：村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 10 年 12 月

制作者：不明　寄進者：村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：安政 6 年 9 月

制作者：不明　寄進者：村中　世話人■■　■■

備考：地震により耳欠損後修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

製作時期：安政 6 年 9 月

製作者：不明　寄進者：村中　世話人■■　■■

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保７年

制作者：不明　寄進者：願主　當村　佐■　世話人　村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保７年

制作者：不明　寄進者：願主　當村　佐■　世話人　村中

備考：地震により脚部破損・転落，後修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

朝日神社：倉吉市谷 338

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：井上佐市右衛門直繁（カ）

備考：全体風化，脚部折損後修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：井上佐市右衛門直繁（カ）

備考：下顎欠損，全体風化，脚部折損後修復

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

松上神社：倉吉市山根 99

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正 13 年 10 月

制作者：不明　寄進者：牧田甚一　牧田喜蔵

備考：尾剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正 13 年 10 月

制作者：不明　寄進者：牧田甚一　牧田喜蔵

備考：尾剥離，台座ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

上古川神社：倉吉市上古川

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政５年２月

制作者：不明　　寄進者：村若衆中

備考：胸部ひび

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政５年２月

制作者：不明　寄進者：村若衆中

備考：下顎欠損，胸部剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化，脚部欠損，尾欠損，診断シートなし

上小鴨神社：倉吉市鴨河内 441

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 38 年 1 月

制作者：不明　寄進者：石賀博蔵カ

備考：脚部欠損，転落

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 38 年 1 月

制作者：不明　寄進者：石賀博蔵カ

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：竺原直一　外 3 名

備考：なし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：竺原直一　外３名

備考：下顎欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 13 年 10 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：なし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 13 年 10 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：なし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：嘉永７年５月

制作者：石工　堀村亀助　寄進者：願主　本牧田氏　　古川村　分牧田氏

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：嘉永７年５月

制作者：石工　堀村亀助　寄進者：願主　本牧田氏　　古川村　分牧田氏

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

上市神社：倉吉市河来見812

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震による土台ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震による土台のずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型？

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化，顔・胸部・尾欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

上里神社：倉吉市清谷 1217

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：与三右ヱ門・権左ヱ門・宇八郎・源三郎・市右ヱ門・和助

備考：全体風化，地震による土台ずれ

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：与三右ヱ門・権左ヱ門・宇八郎・源三郎・市右ヱ門・和助

備考：全体風化，地震による土台ずれ

中野神社：倉吉市中野字宮ノ上 55-1

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 17 年 12 月

制作者：不明　寄進者：氏子中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 17 年 12 月

制作者：不明　寄進者：氏子中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

住吉神社：倉吉市住吉町 3366

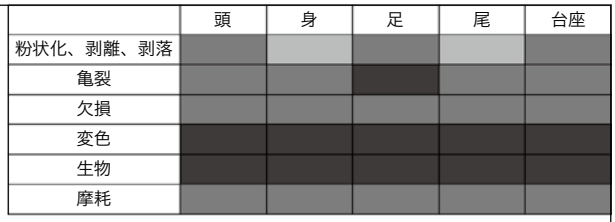
型式：出雲型

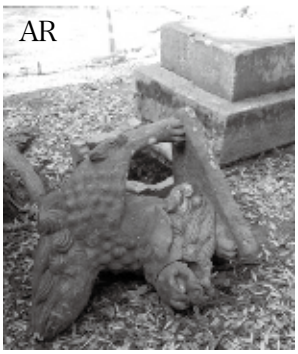
石材：来待石

制作時期：明治 40 年 10 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震により台座から転落





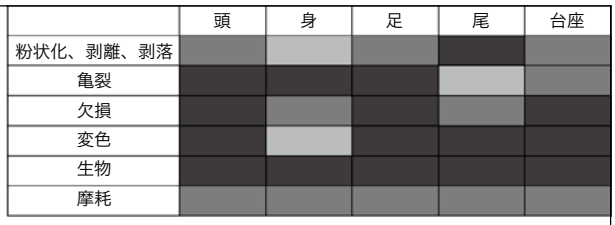
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 40 年 10 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震により足破損，台座から転落



倉吉八幡神社：倉吉市八幡町 3626-3

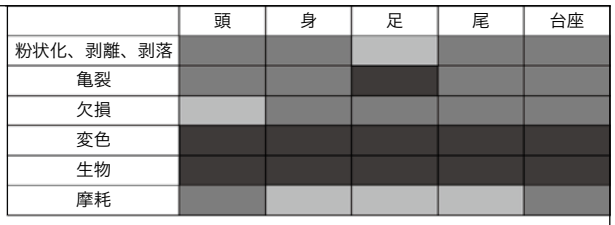
型式：出雲型

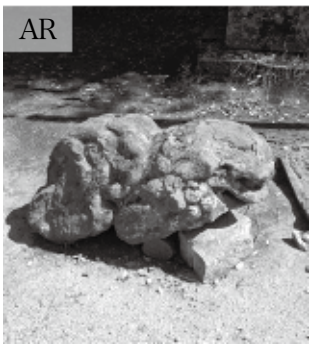
石材：来待石

制作時期：享和２年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし





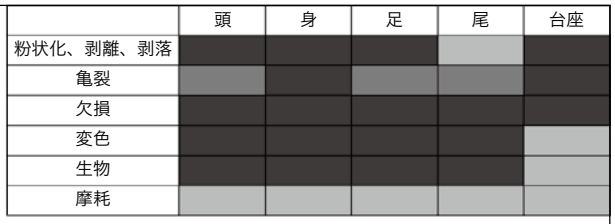
型式：出雲型

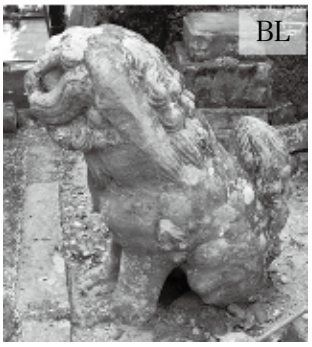
石材：来待石

制作時期：享和２年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震により台座から転落





型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和15年3月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：瀬崎町区　区長　諏訪部弘　ほか

備考：地震により転落

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和15年3月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：瀬崎町区　岩田克平など

備考：なし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治35年1月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：石工　三本枚村　岩本柳造　寄進者：世話人宮本文治　阪本浅吉　区長　阪本弥平

備考：地震により転落

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治35年1月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：石工　三本枚村　岩本柳造　寄進者：世話人宮本文治　阪本浅吉　区長　阪本弥平

備考：地震により転落

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治35年9月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：小倉貞治郎　長谷川亀蔵　松原鶴吉　米田太蔵　加崎金蔵

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治35年9月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：　不明　寄進者：倉貞治郎　長谷川亀蔵　松原鶴吉　米田太蔵　加崎金蔵

備考：地震により土台崩壊・転落

小田神社：倉吉市小田135

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文久元年11月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主　村中　若連中

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文久元年11月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主　村中　若連中

備考：下顎一部欠損

新宮神社：倉吉市駄経寺町 55

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 42 年 10 月

制作者：不明　寄進者：願主　村中

備考：顔一部欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 42 年 10 月

制作者：不明　寄進者：願主　村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

山守神社：倉吉市関金町今西 515

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保

制作者：雲州石工亀■　寄進者：當邑■■，野■邑當右工門

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保

制作者：雲州石工亀■　寄進者：當邑■■，野■邑當右工門

備考：脚部亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

山郷神社：倉吉市関金町堀 3298

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保 11 年 5 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保 11 年 5 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：下顎一部欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

日吉神社：倉吉市関金町関金宿 325

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 14 年 9 月

制作者：不明　寄進者：米子市　播磨恵美子

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 14 年 9 月

制作者：不明　寄進者：米子市　播磨恵美子

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 11 年

制作者：不明　寄進者：世話人　金谷，大鳥居，湯関，生竹，耳，郡家，安歩七か村の氏子十七名

備考：顔風化

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 11 年

制作者：不明　寄進者：世話人　金谷，大鳥居，湯関，生竹，耳，郡家，安歩七か村の氏子十七名

備考：全体やや風化

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

松河原神社：倉吉市関金町松河原 133-2

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 12 年 5 月

制作者：不明　寄進者：村中

備考：顔欠損

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 12 年 5 月

制作者：不明　寄進者：村中

備考：全体風化

黒谷神社：倉吉市関金町安歩 636

型式：出雲型

材石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化，足，尾欠損，顎部亀裂

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体風化，顔足欠損

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：嘉永７年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：嘉永７年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：狐

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：奉献　岸本■■衛門

備考：頭部・脚部・台座軽く欠損，尾欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：狐

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：奉献　岸本■■衛門

備考：頭欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

大鳥居神社：倉吉市関金町大鳥居 321

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保８年 11 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭部亀裂，胸部剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石剤：来待石

制作時期：天保８年 11 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：下顎，頭の一部欠損，頭部・尾に亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

神田神社：倉吉市関金町泰久寺 632

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 12 年８月

制作者：石井登一良　寄進者：世話人　朝倉九平ら

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 12 年８月

制作者：石井登一良　寄進者：世話人　朝倉九平ら

備考：足軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

矢送神社：倉吉市関金町山口 447

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保４年６月

制作者：不明　寄進者：氏子中　世話人　山口永造　新造

備考：地震により転落・復旧

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保４年６月

制作者：不明　寄進者：氏子中　世話人　山口永造　新造

備考：地震により転落し脚部破損・補修

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 10 年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 10 年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

大正神社：東伯郡三朝町大字久原 261

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正 11 年 3 月

制作者：松江市和田見　渡部卯助　寄進者：氏子中

備考：胸部剥離　顎亀裂　地震により土台ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正 11 年 3 月

制作者：松江市和田見　渡部卯助　寄進者：氏子中

備考：胸部剥離　顎亀裂　地震により土台ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

小鹿神社：東伯郡三朝町大字東小鹿 1516

型式：出雲型？

石材：来待石

制作時期：文政 5 年 9 月

制作者：湯村石工金四良　寄進者：石人夫　村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型？

石材：来待石

制作時期：文政 5 年 9 月

制作者：八橋町石工五良太　寄進者：石人夫　村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：診断シートなし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：診断シートなし

山田神社：東伯郡三朝町大字山田 380

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政３年９月９日

制作者：不明　寄進者：山田村　横手村

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：　来待石

制作時期：文政３年９月９日

制作者：不明　寄進者：山田村　横手村

備考：尻尾に亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

幸能鶴神社：東伯郡三朝町大字穴鴨 590

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：西村善一

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：西村善一

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔一部欠損　亀裂

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅，前脚欠損・修復

普賢堂：東伯郡三朝町中津

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：首に亀裂・修復，胸部剥離，脚部亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

本泉神社：東伯郡三朝町大字本泉 220

型式：浪花型

石材：来待石

制作時期：弘化（1844 年）

制作者：不明　寄進者：施主　山崎千蔵，山崎治左ヱ門，林弥右ヱ門

備考：地震により台座からずれ，土台ゆがみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：浪花型

石材：来待石

制作時期：弘化（1844 年）

制作者：不明　寄進者：施主　山崎千蔵，山崎治左ヱ門，林弥右ヱ門

備考：地震により台座からずれ，土台ゆがみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

東小鹿神社：東伯郡三朝町大字東小鹿 690

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：昭和 63 年 10 月

制作者：不明　寄進者：東小鹿氏子中

備考：地震によるずれあり

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：昭和 63 年 10 月

制作者：不明　寄進者：東小鹿氏子中

備考：地震によるずれあり

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　　寄進者：不明

備考：脚部，尾，台座破損，境内内に置かれる

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

鎌田神社：東伯郡三朝町鎌田

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　　寄進者：不明

備考：頭，台座欠損，全体摩滅，一体のみ残存

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

金森神社：東伯郡三朝町大字余戸 265

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：体部にひび

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：前脚に亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

賀茂神社：東伯郡三朝町大字森 331

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文化９年３月

制作者：不明　寄進者：願主　當村　若衆中村中　世話人七三郎，次兵衛

備考：台座欠損，地震による土台ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文化９年３月

制作者：不明　寄進者：願主　當村　若衆中村中　世話人七三郎，次兵衛

備考：頭軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

竹田神社：東伯郡三朝町大字上西谷 381

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和 25 年 10 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：高見直治郎，岩佐一美

備考：頭軽い欠損

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和 25 年 10 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：高見直治郎，岩佐一美

備考：特になし

福本神社：東伯郡三朝町福本 342

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶応 6 年 8 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：■■　多吉　嘉右ヱ門　忠次■　嘉吉

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶応 6 年 8 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：彦右ヱ門　龍之■　助太良　榮■　弥三良

備考：右前足欠損，頭・台座軽い欠損

神倉神社：東伯郡三朝町大字神倉 1053

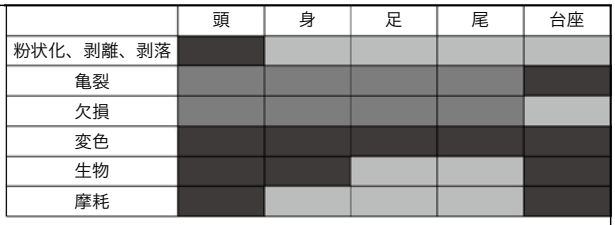
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅，土台割れ・欠損



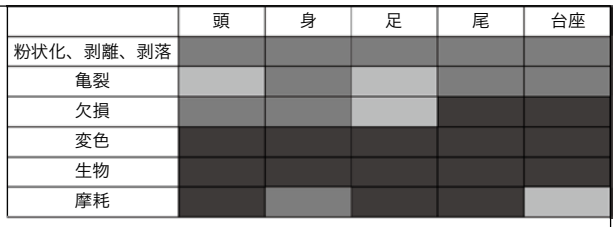
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座欠損，足・尾一部欠損



玉坂神社：東伯郡三朝町大字曹源寺 247

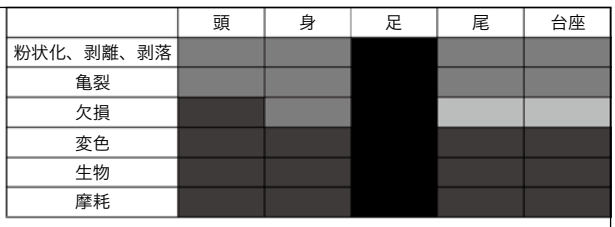
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應４年６月

制作者：不明　寄進者：當邑　安田■■

備考：全体風化，足無し，頭一部欠損，尾・台座軽い欠損



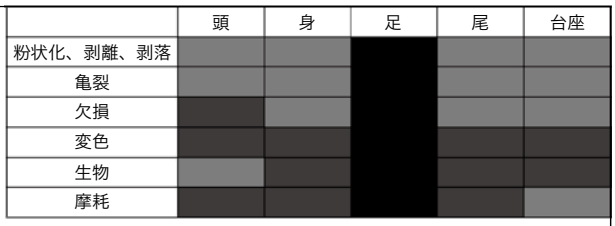
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應４年６月

制作者：不明　寄進者：當邑　安田■■

備考：全体風化，頭・足欠損



熊野神社：東伯郡三朝町大字大谷 599

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　　寄進者：不明

備考：全体風化，頭部～上半部のみ残存

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　　寄進者：不明

備考：全体風化，頭部～上半部のみ残存

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

清常神社：東伯郡三朝町大字柿谷 550

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体やや風化，足軽い欠損，地震による土台ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体やや風化，下顎一部欠損，尾部折損，台座軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

三佛寺：東伯郡三朝町大字三徳 1010

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保４年５月

制作者：不明　寄進者：坂本村　若連中

備考：首部一部剥離，体部に亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保４年５月

制作者：不明　寄進者：坂本村　若連中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

三朝神社：東伯郡三朝町大字三朝 796

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：藤井栄八郎

備考：なし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：藤井栄八郎

備考：体部にひび

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

下谷神社：東伯郡三朝町下谷

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保 12 年 9 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主當村中，若■■，河本友三郎

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保 12 年 9 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主當村中・世話人河本友三郎

備考：下顎にひび

五郷神社：東伯郡三朝町大字牧 560-1

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正 12 年 9 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：藤田兼蔵

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正 12 年 9 月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：牧田甚太郎，高田平四郎，倉本幸誉，栗原留蔵，仲原勝蔵，山下作蔵

備考：下顎にひび

今泉神社：東伯郡三朝町大字今泉 179

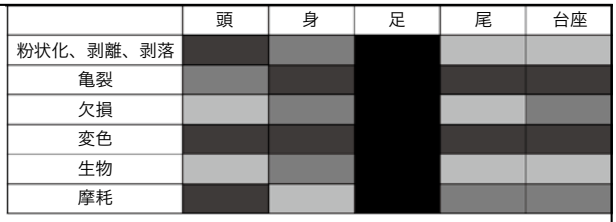
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文化 10 年 5 月

制作者：不明　寄進者：願主　當村中

備考：地震により脚部破損・転落



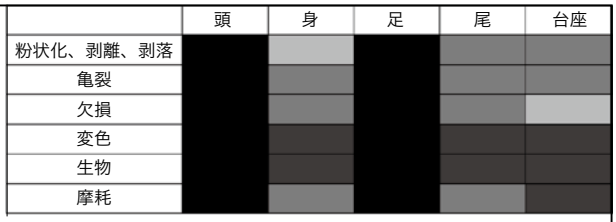
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文化 10 年 5 月

制作者：不明　寄進者：願主　當村中

備考：地震により脚部破損・転落



大宮神社：東伯郡三朝町大字大瀬 370

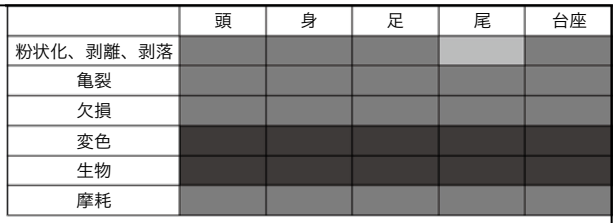
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし



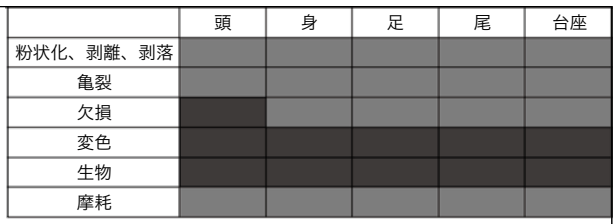
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：上あご一部欠損，尾部折損後修復



坂本神社：東伯郡三朝町大字坂本 1167

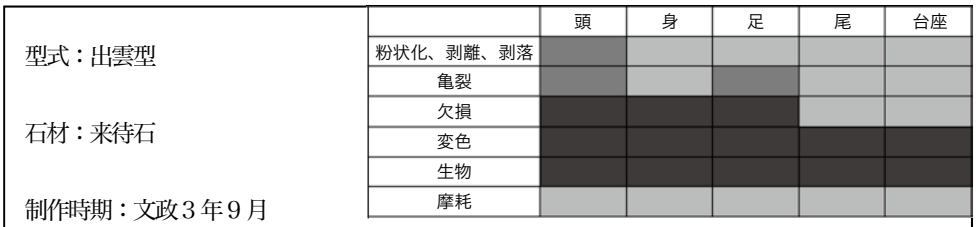
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政３年９月

制作者：不明　寄進者：當村若衆中

備考：台座割れ



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政３年９月

制作者：不明　寄進者：當村若衆中

備考：特になし

北野神社：東伯郡三朝町大字吉尾 535

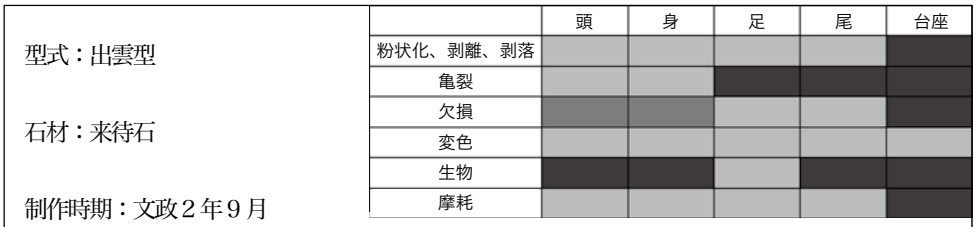
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政２年９月

制作者：久米郡田内村　棟梁勘兵衛，湯村　政ヱ門，大瀬村　林治良　寄進者：當村若衆中

備考：頭部，前後足，尾欠損



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政２年９月

制作者：久米郡田内村　棟梁勘兵衛，湯村　政ヱ門，大瀬村　林治良　寄進者：當村若衆中

備考：台座破損，後足に亀裂

型式：浪速型

石材：来待石

制作時期：萬延元年６月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主　村中若連中　世話人助右衛門，久七

備考：特になし

型式：浪速型

石材：来待石

制作時期：萬延元年６月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：願主　村中若連中　世話人助右衛門，久七

備考：特になし

大神神社：東伯郡北栄町土下 445

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和 29 年 8 月 15 日

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭部欠損・地震により台座から剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型（？）

石材：来待石

制作時期：昭和 29 年 8 月 15 日

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭部欠損・地震により台座から剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

子守神社：東伯郡北栄町六尾 505

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅・地震による台座ずれ？

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅・地震による台座割れ？

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：ほぼ原形なし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

宮崎神社：東伯郡北栄町大島 648

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔面欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

岩崎神社：東伯郡北栄町妻波 127

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顎欠損・地震により台座割れ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：足欠損・地震により台座崩壊・転落

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

建速神社：東伯郡北栄町西園1190

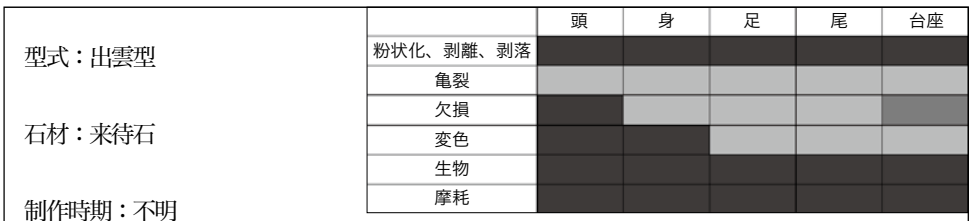
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅



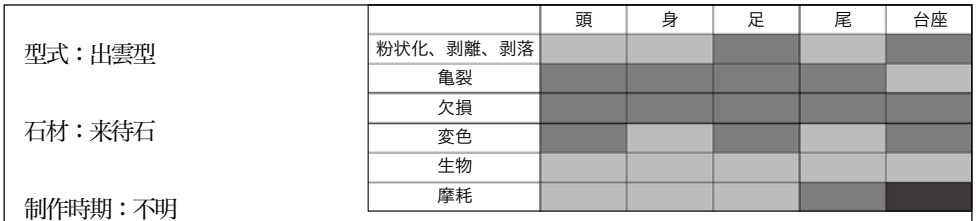
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅



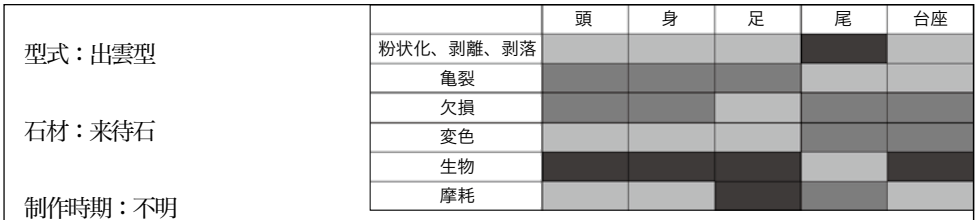
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

東園神社：東伯郡北栄町東園326

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔欠損・体部亀裂・剥離・台座割れ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

松神神社：東伯郡北栄町松神796

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

高尾八幡宮：東伯郡北栄町西高尾340

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：願主　石原正■

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：願主　石原正■

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

高江神社：東伯郡北栄町由良宿978

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文化10年9月

制作者：不明　寄進者：21名

備考：顔欠損

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文化10年9月

制作者：不明　寄進者：21名

備考：下顎欠損

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座に軽い欠損

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 12 年 10 月

制作者：不明　寄進者：東伯町逢束　東原義夫

備考：特になし

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 12 年 10 月

制作者：不明　寄進者：東伯町逢束　東原義夫

備考：特になし

	頭	身	足	尻	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

瀬戸神社：東伯郡北栄町瀬戸425

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座欠損，頭軽く欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

亀谷神社：東伯郡北栄町亀谷680

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治28年3月

制作者：不明　寄進者：世話人　中野百蔵　清水仙蔵

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治28年3月

制作者：不明　寄進者：世話人　桝井亀蔵　田中藤吉

備考：顎欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

大宮神社：東伯郡北栄町上種

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅・崩壊

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体的に角が取れて丸くなっている

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

国坂神社：東伯郡北栄町国坂 1500

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治１３年旧８月吉日

制作者：出雲國■江寺町　安田幸八作　寄進者：施主　前田藤十郎頼光

備考：体部剥離・地震により台座ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：出雲國■江寺町　安田幸八作　寄進者：施主　齋尾長平頼敏

備考：地震により台座ずれ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

北野神社：東伯郡北栄町江北2701

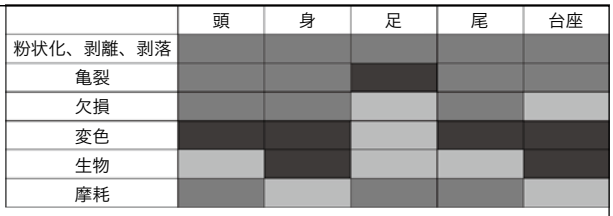
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保３年８月

制作者：不明　寄進者：當村若連中

備考：脚部欠損



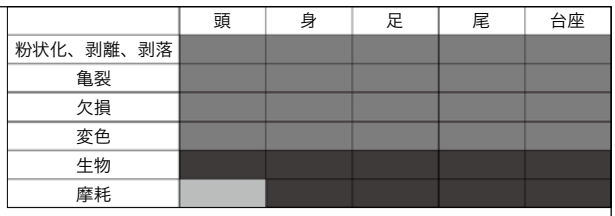
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：天保３年８月

制作者：不明　寄進者：當村若連中

備考：特になし



北条八幡宮：東伯郡北栄町北尾365

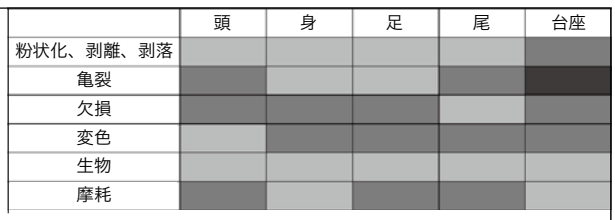
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震により台座からずれ



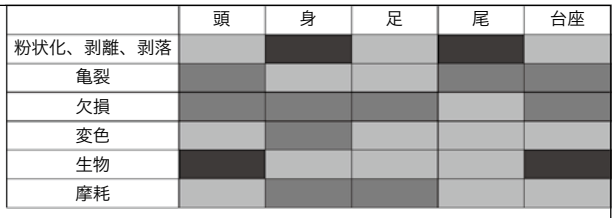
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：地震により台座からずれ



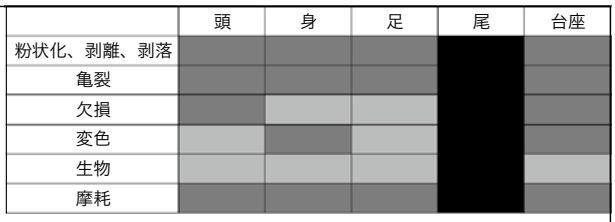
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾折損



	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

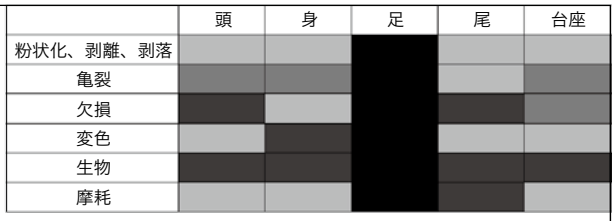
型式：出雲型

石材：来待石

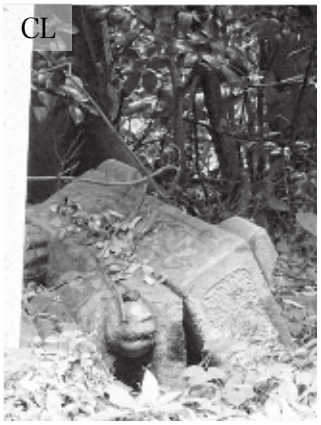
制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：下半身崩壊・顔欠損



	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：崩壊・転倒，本体を見ることができず，診断シート作成できなかった

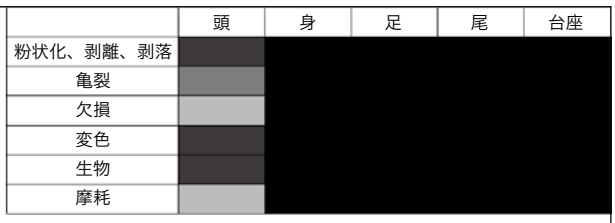
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔以外全部欠損・崩壊



	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

元野神社：東伯郡北栄町原 912

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

大正神社：東伯郡琴浦町大字中津原 429

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：石工福トミ治平　寄進者：願主村中　銀四拾目茂右ヱ門　同四拾目直三良　同三拾目嘉四良　不明　拾四分■■良　拾分　勝三良

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：元治元年９月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：石工福トミ治平　寄進者：願主村中　銀二拾目■■■　同二拾目■■■　同拾目■■■

備考：ややずれ？

大熊神社：東伯郡琴浦町大字高岡 373

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：不明

備考：尾欠損

大父神社：東伯郡琴浦町大字大父 988

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

小田神社：東伯郡琴浦町大字光

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 29 年 8 月

制作者：松江市和田見町渡部卯助作　寄進者：願主　松江市寺町　原真市

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 29 年 8 月

制作者：松江市和田見町渡部卯助作　寄進者：願主　松江市寺町　原真市

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔面風化

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

成美神社：東伯郡琴浦町大字太一垣81

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應２年９月

制作者：不明　寄進者：願主　氏子中　太一垣　中村　佐嵜　西井手上

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應２年９月

制作者：不明　寄進者：願主　氏子中　太一垣　中村　佐嵜　西井手上

備考：下顎欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 13 年 4 月

制作者：不明　寄進者：當村　金平傳重良

備考：後脚亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 13 年 4 月

制作者：不明　寄進者：當村　金平傳重良

備考：後脚亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

春日神社：東伯郡琴浦町大字宮場 75

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：両後脚，両前脚欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：左前脚欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

柴尾神社：東伯郡琴浦町大字山川915

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正10年

制作者：不明　寄進者：椎本虎吉　山川

備考：左前足亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：大正10年

制作者：不明　寄進者：椎本虎吉　山川

備考：胸部剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

槻下神社：東伯郡琴浦町大字槻下926

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：寛永５年９月

制作者：不明　寄進者：■■富（寅カ）吉

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：寛永５年９月

制作者：不明　寄進者：■■富（寅カ）吉

備考：顔･体部摩滅

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：　平成９年10月

制作者：不明　寄進者：盛山一男　とみ子

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成９年10月

制作者：不明　寄進者：盛山一男　とみ子

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

長田神社：東伯郡琴浦町大字光好 794

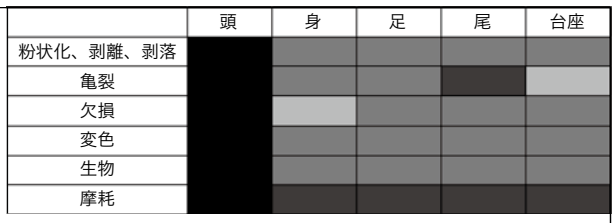
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：寛永元年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：頭部欠損，身軽い欠損



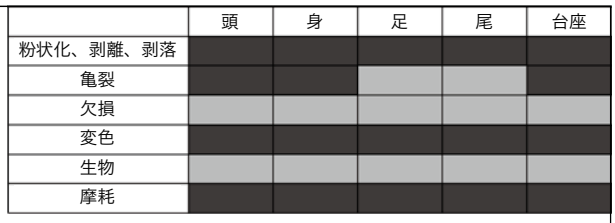
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：寛永元年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全箇所軽い欠損



豊栄神社：東伯郡琴浦町大字勝田 245

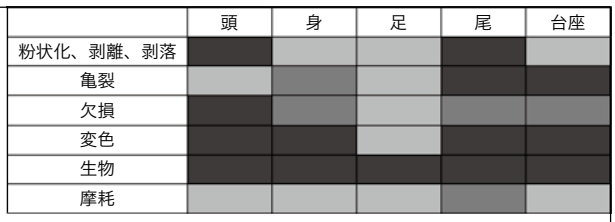
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　明治 31 年６月

制作者：不明　寄進者：施主　西宮村　池口友重良

備考：胸部剥離



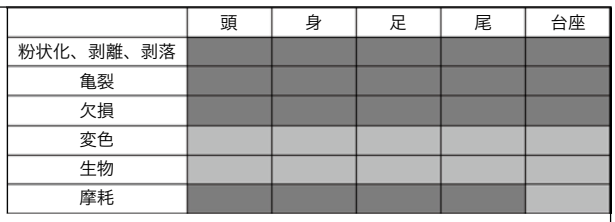
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　明治 31 年６月

制作者：不明　寄進者：施主　西宮村　池口友重良

備考：特になし



葦原神社：東伯郡琴浦町大字湯坂 38

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期： 平成 12 年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：平成 12 年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅，脚部欠損後補修

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：足欠損後補修，身・尾・台座軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

神郷神社　東伯郡琴浦町大字大杉 887

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全身摩滅

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：胴部で折損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政 6 年 12 月

制作者：石工那須政吉致正　寄進者：下■村　山本太平，野田村　源内久志清　久米志三郎

備考：足軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：慶應元年 12 月

制作者：山田村石工菊右ヱ門　寄進者：十二氏子　当村　世話人豊蔵，赤松村　兵右ヱ門

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

熱田神社：東伯郡琴大字尾張

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 明治22年1月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：當村本願主　石賀伊平　森長惣次郎

備考：足軽い欠損

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治22年1月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：當村本願主　石賀伊平　森長惣次郎

備考：特になし

照國神社　東伯郡琴浦町美好

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和7年3月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：美好　小林善吉

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和7年3月

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

制作者：不明　寄進者：美好　小林登与

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全身摩滅

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全身摩滅

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

満利山神社：東伯郡琴浦町大字杉地 523

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 22 年

制作者：不明　寄進者：杉地村　升上重平

備考：頭軽い欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 22 年

制作者：不明　寄進者：不明

備考：下顎欠損，首に亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

大元神社　東泊郡琴浦町大字保 83

型式：岡崎型

石材：不明

制作時期：平成 18 年 5 月吉日

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：不明

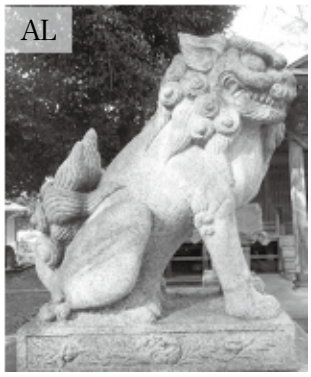
制作時期：　平成 18 年 5 月吉日

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

方見神社　東泊郡琴浦町大字上伊勢 100



型式：岡崎型？

石材：不明

制作時期：昭和 29 年 10 月

制作者：石匠　大阪天満平清　砂田稔刻　寄進者：三島せき

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型？

石材：不明

制作時期：　昭和 29 年 10 月

制作者：石匠　大阪天満平清　砂田稔刻　寄進者：三島せき

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 11 年 4 月吉日

制作者：松江和田町石工外助作　寄進者：不明

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 11 年 4 月吉日

制作者：松江和田町石工外助作　寄進者：世話人　舩田亀治良

備考：特になし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：体後半分以外欠損

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔，後脚欠損

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治24年3月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治24年3月

制作者：不明　寄進者：願主　村中　世話人　前田■三郎　前田久吉

備考：顔欠損，体部に亀裂

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：　平成6年12月吉日

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

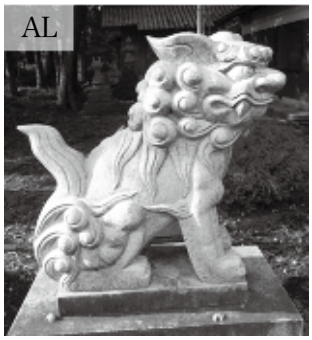
制作時期：　平成6年12月吉日

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

下見神社：東伯郡琴浦町大字三本杉 640



型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期： 平成 16 年 11 月吉日

制作者：(有) 松本石材　寄進者：馬場忠篤

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期： 平成 16 年 11 月吉日

制作者：(有) 松本石材　寄進者：馬場忠篤

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

倉坂神社：東伯郡琴浦町大字倉坂 1229

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：苔が生えている

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：村中

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：村中

備考：下顎欠損・全体に苔が生えている

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

国実神社：東伯郡琴浦町大字高岡 607

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 23 年 12 月

制作者：不明　寄進者：願主　川上清太郎

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 23 年 12 月

制作者：不明　寄進者：願主　川上清太郎

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

古布庄神社：東伯郡琴浦町大字別宮 16

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 42 年

制作者：不明　寄進者：大字別宮村徳丸清■

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：大字別宮村徳丸伊平

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

八幡宮：東伯郡琴浦町大字八幡 1245

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 12 年 8 月

制作者：不明　寄進者：世話人　野間田　永田■■郎　伊勢丸　力吉

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 12 年 8 月

制作者：不明　寄進者：世話人　野間田　永田■■郎　伊勢丸　力吉

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

下郷神社：東伯郡琴浦町大字下大江 115

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：昭和 58 年 10 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：昭和 58 年 10 月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅・尾付近のみ残存，台座及び胴部は植え込み内に残存か？

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅・尾欠損

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

宮山神社：東伯郡琴浦町大字森藤 619

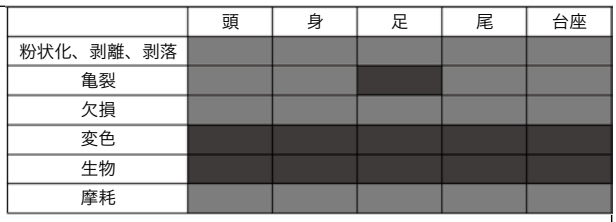
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：嘉永３年９月

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体やや摩滅，右側の１体のみ残存



大森神社：東伯郡琴浦町大字竹内 92

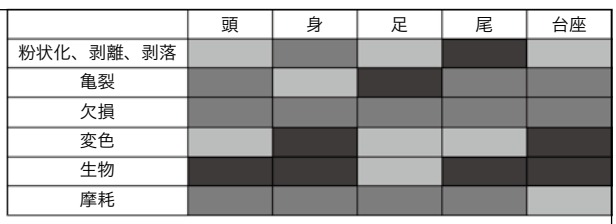
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 25 年 10 月

制作者：不明　寄進者：願主　大下藤吉　式村，世話人　竹内村田口与三郎　同村川口重吉

備考：特になし



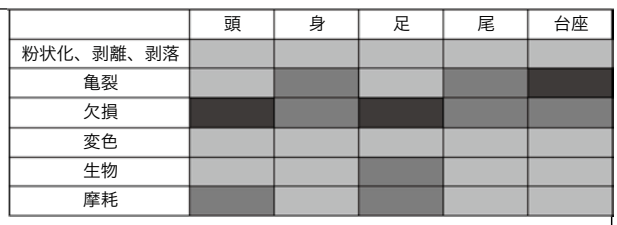
型式：出雲型

石材：来待石

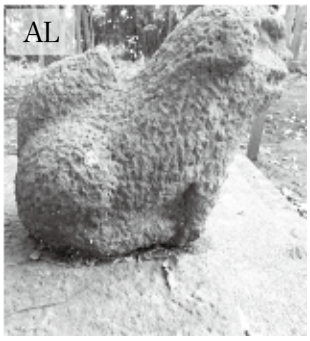
制作時期：明治 25 年 10 月

制作者:不明　寄進者:願主　高岡村川上清次郎　竹内村谷口重雄　式村中井長次郎，世話人　川口重吉　同村田口与三郎

備考：下顎一部欠損



諏訪神社：東伯郡琴浦町大字八橋 1681



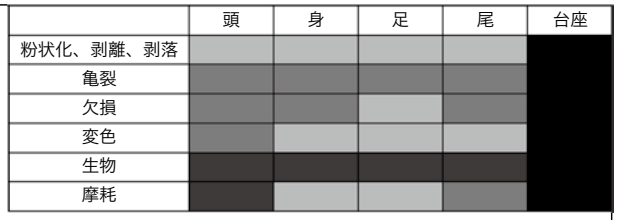
型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅



型式：出雲型

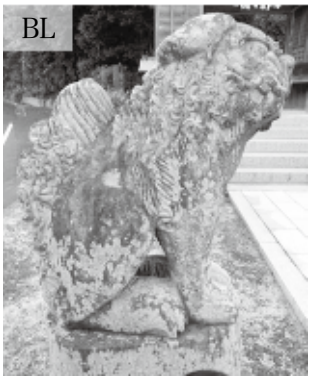
石材：来待石

制作時期： 不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：全体摩滅

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政７年８月

制作者：石工五郎右衛門　寄進者：西町氏子中　世話人　■屋兵右衛門　亀田屋■九郎　林原宇右衛門　桶屋徳助　■田屋嘉右衛門

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：文政７年８月

制作者：石工五郎右衛門　寄進者：茅町氏子中　世話人　北尾屋朋三郎　綿屋新蔵　藤田屋　藤屋武助

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和２年５月

制作者：不明　寄進者：牧田宗正

備考：胸部表面一部剥離（剥離は比較的新しい，地震による可能性）

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：昭和２年５月

制作者：不明　寄進者：牧田登茂

備考：胸部表面一部剥離（剥離は比較的新しい，地震による可能性）

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

笠見神社：東伯郡琴浦町笠見

型式：出雲型

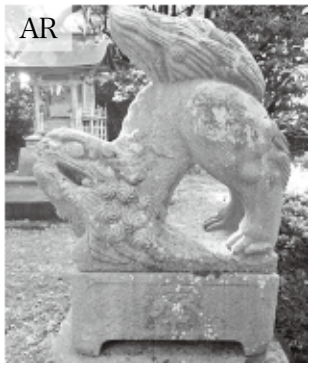
石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顎一部欠損，胸部表面一部剥離（剥離は比較的新しい，地震による可能性）

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					



型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

天乃神奈斐神社：東伯郡琴浦町大字赤碕 1506

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 23 年９月

制作者：不明　寄進者：区長　入江惣次郎　當村中　世話人入江孫七　大谷庄三郎

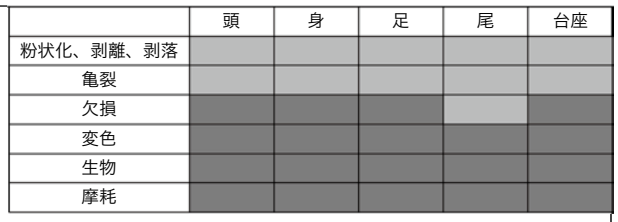
備考：体部ひび，尾剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治23年9月



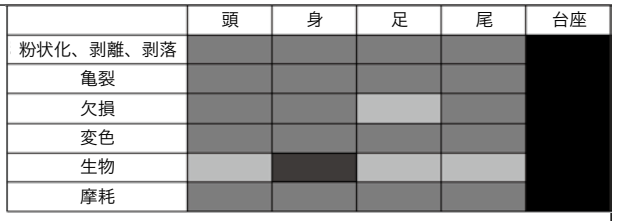
制作者：不明　寄進者：区長　入江惣次郎　當村中　世話人入江孫七　大谷庄三郎

備考：顔一部欠損，尾剥離，後脚ひび

型式：出雲型？

石材：来待石

制作時期：不明



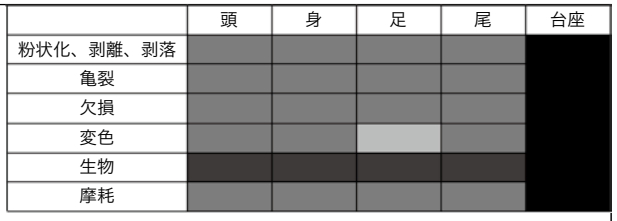
制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座なし

型式：出雲型？

石材：来待石

制作時期：不明



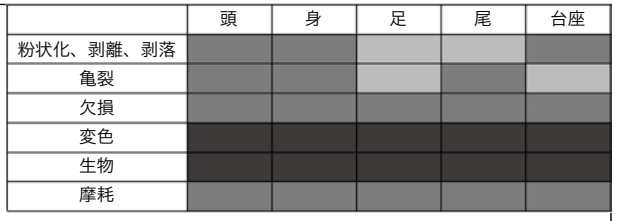
制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座なし

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治18年9月



制作者：松江市和田見町　石工　渡辺宇助　寄進者：世話人　小谷清次郎　願主　野村叉次郎

備考：土台ゆがみ

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 18 年 9 月

制作者：松江市和田見町　石工　渡辺宇助　寄進者：世話人　小谷清次郎　願主　伊藤幸十郎

備考：顔，背，尾，脚剥離

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔，尾欠損

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：顔欠損

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

型式：岡崎型

石材：花崗岩

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：特になし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

神崎神社：東伯郡琴浦町大字赤碕 210

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 23 年 12 月

制作者：松江市和田見　渡辺卯助作　寄進者：世話人　川西市三郎　伊藤幸重郎　森山熊吉　森山刀尹平　戸田嘉十郎

備考：尾剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：明治 23 年 12 月

制作者：松江市和田見　渡辺卯助作　寄進者：世話人　川西市三郎　伊藤幸重郎　森山熊吉　森山刀尹平　戸田嘉十郎

備考：尾剥離

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：　不明

制作者：不明　寄進者：在大連市　山辺富吉

備考：尾剥離，体部ひび，後脚ひび剥離・土台ゆがみ

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

亀崎神社：東伯郡琴浦町大字赤碕

型式：出雲型

石材：来待石

制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座なし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

型式：出雲型

石材：来待石

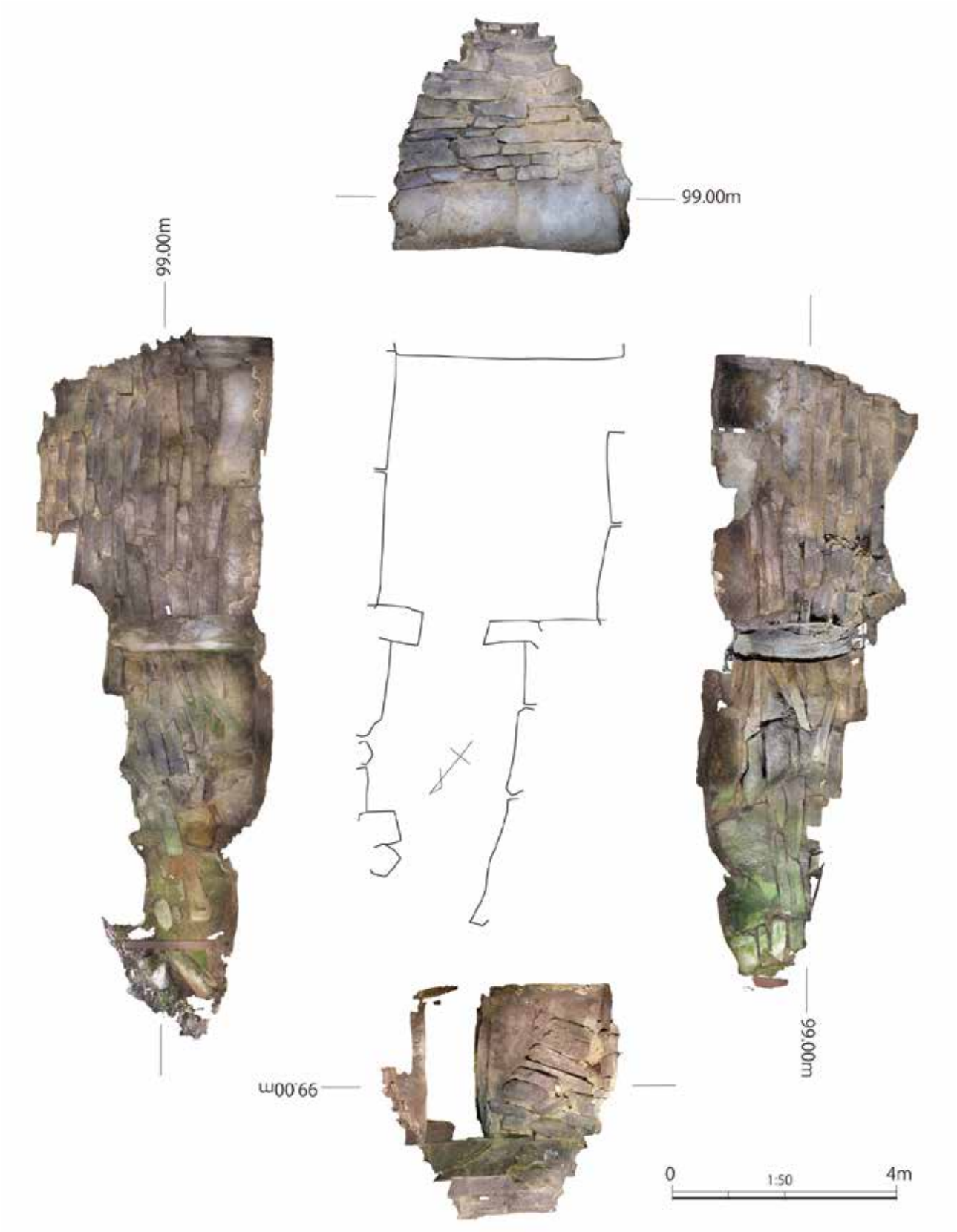
制作時期：不明

制作者：不明　寄進者：不明

備考：台座なし

	頭	身	足	尾	台座
粉状化、剥離、剥落					
亀裂					
欠損					
変色					
生物					
摩耗					

図　　版



家ノ後口1号墳石室実測図（オルソ図）

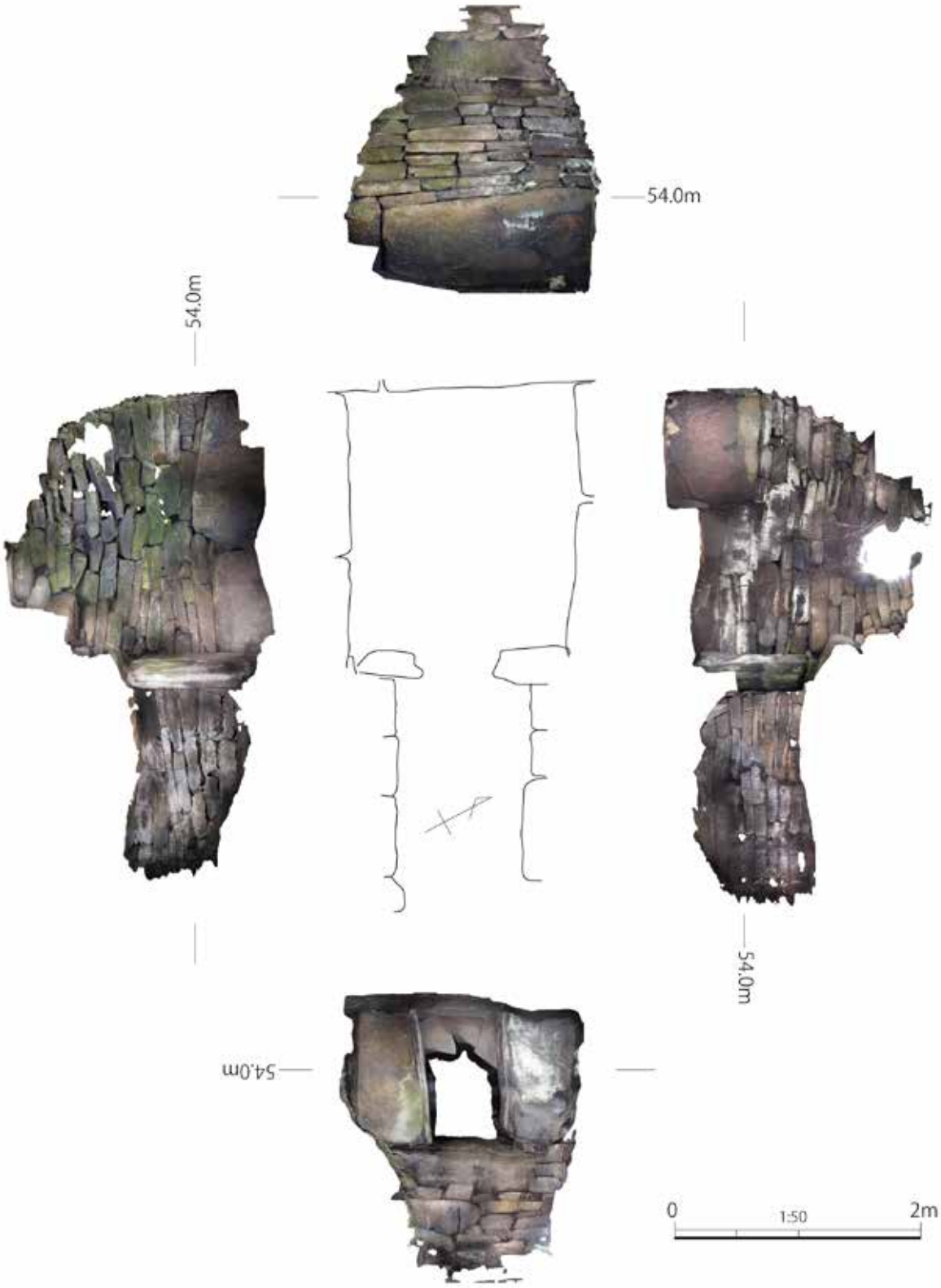
図版2

1. 家ノ後口1号墳奥壁方向（THETAによる）

2. 家ノ後口1号墳玄門方向（THETAによる）

3. 家ノ後口1号墳奥壁の積石状況

4. 家ノ後口1号墳左袖石部の積石状況



大宮古墳石室実測図（オルソ図）

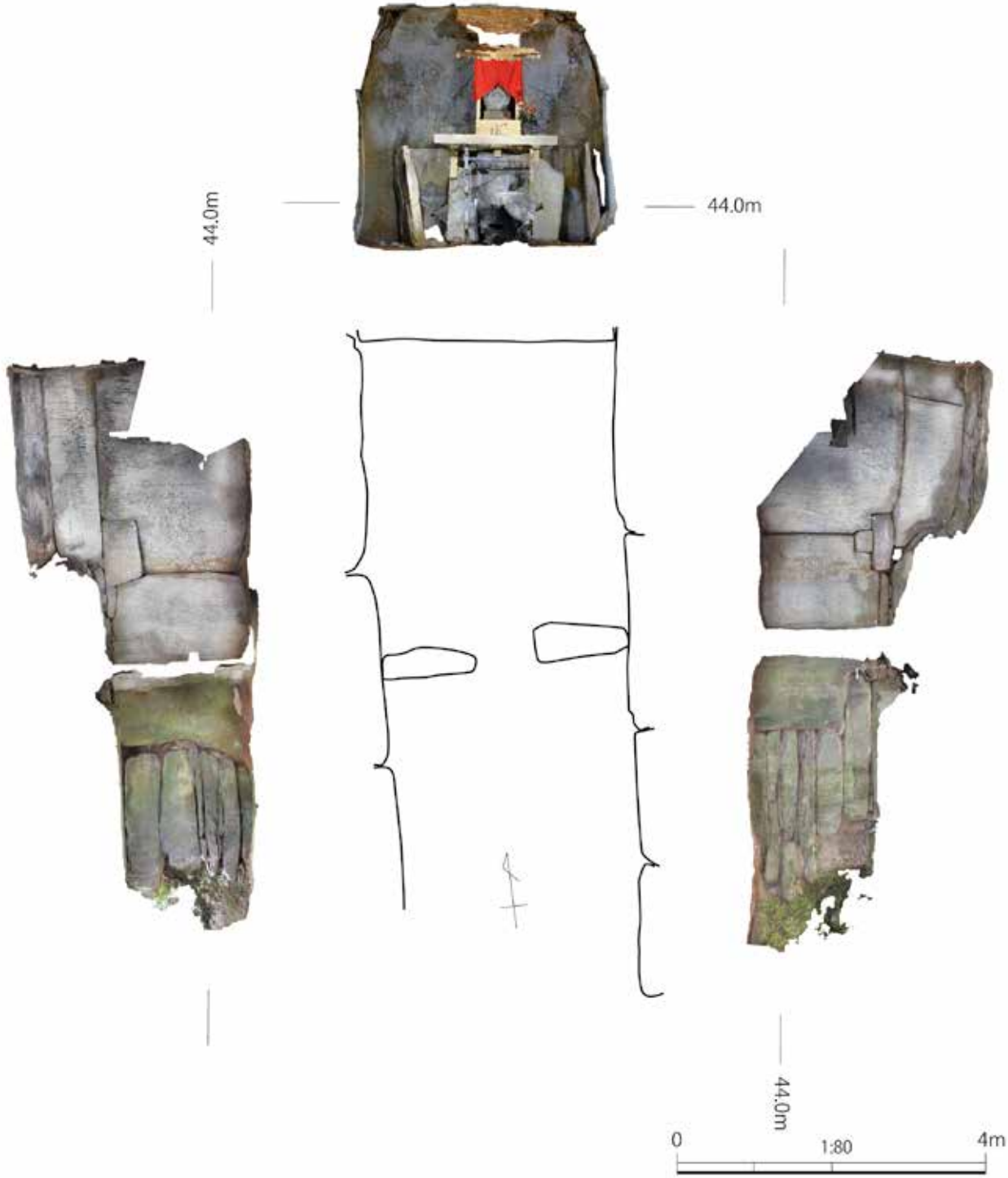
図版4

1. 大宮古墳奥壁方向（THETAによる）

2. 大宮古墳玄室右側壁方向（THETAによる）

3. 大宮古墳玄門部から羨道方向

4. 大宮古墳玄室右側壁に付着した植物


44.0m
44.0m
44.0m
0
1:80
4m

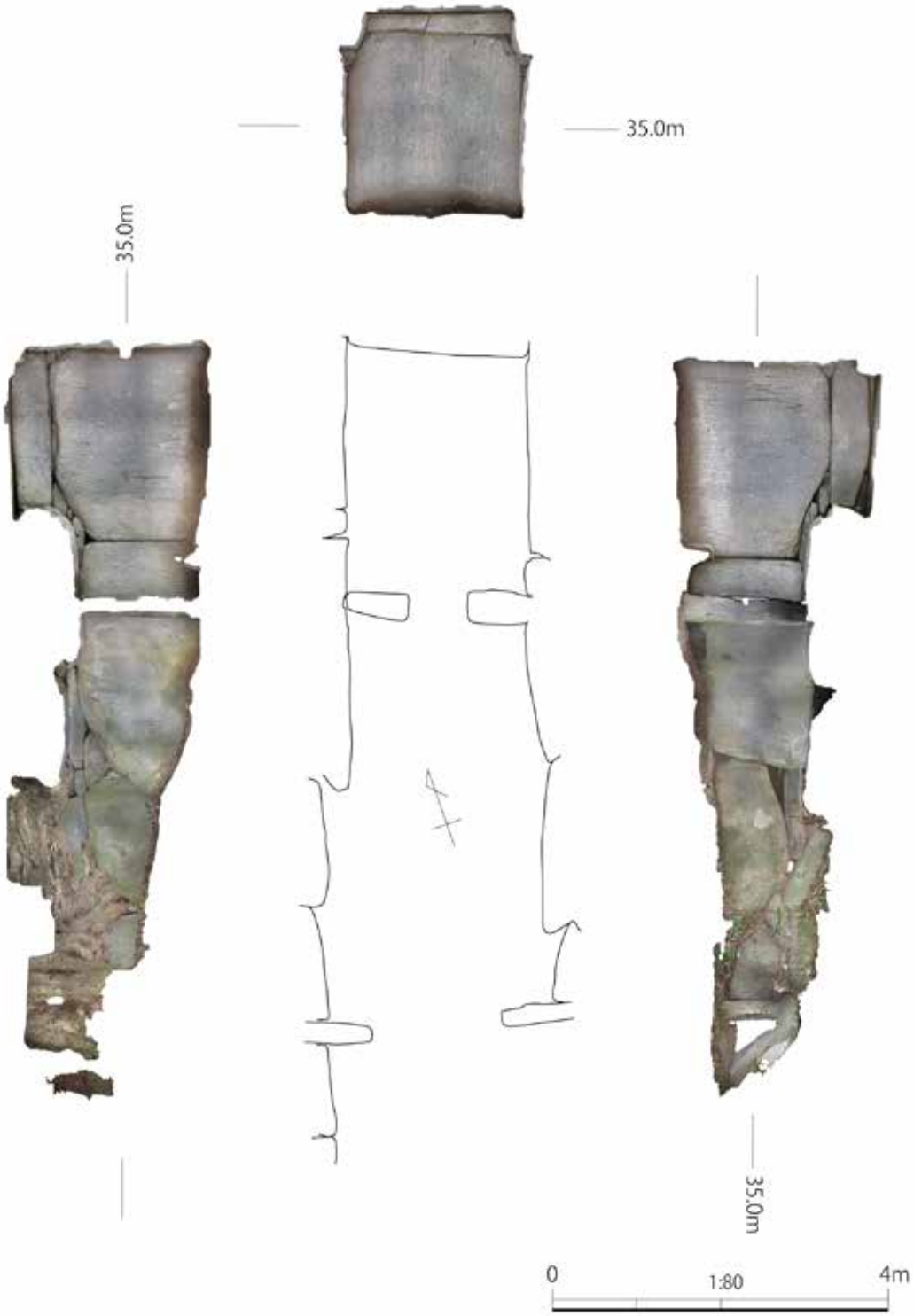
図版6

1. 三明寺古墳玄門方向（THETAによる）

2. 三明寺古墳玄室左側壁方向（THETAによる）

3. 三明寺古墳石室の正面

4. 三明寺古墳羨道部左側壁の石材のずれ



福庭古墳石室実測図（オルソ図）

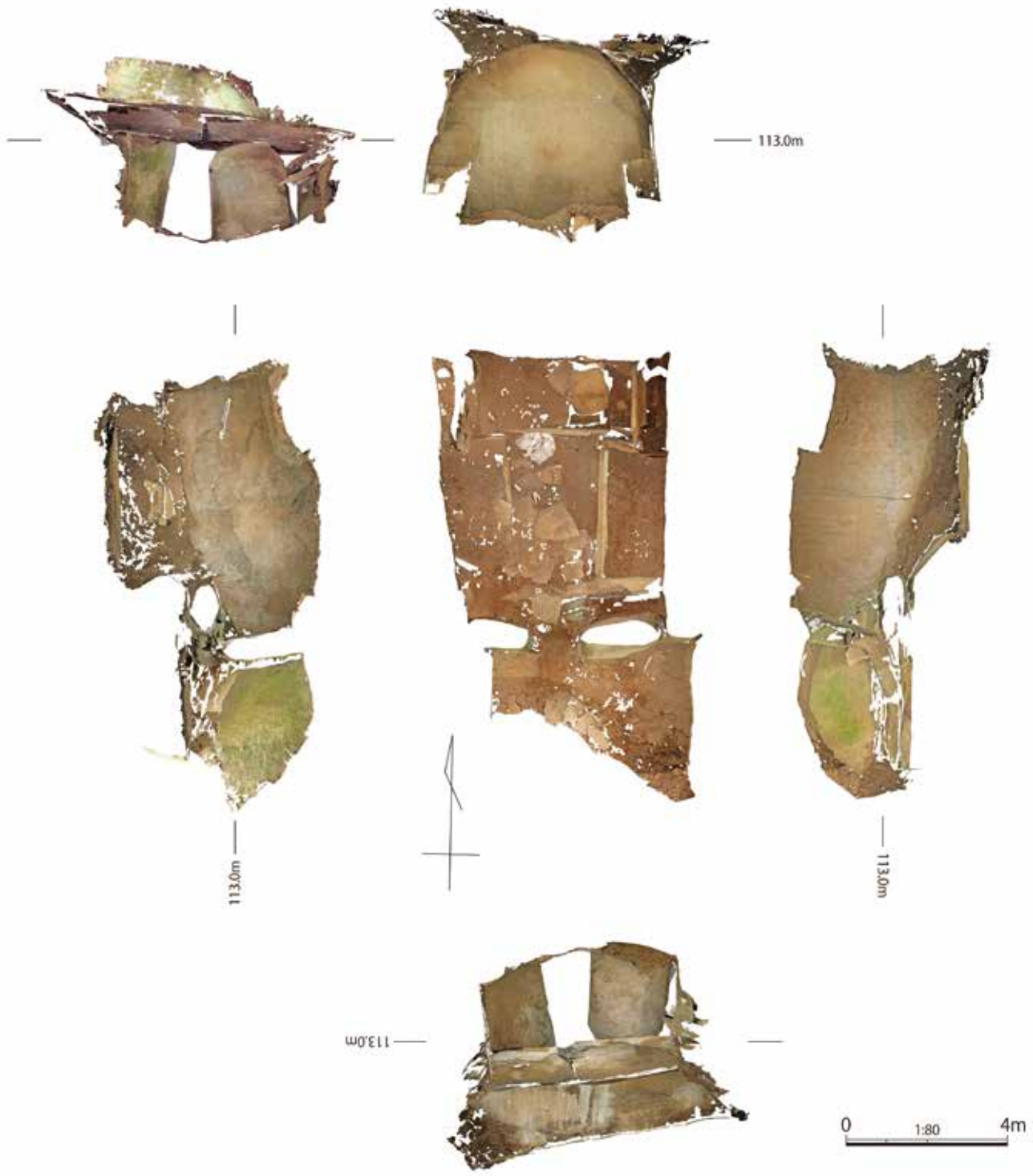
図版8

1. 福庭古墳奥壁方向（THETAによる）

2. 福庭古墳玄門方向（THETAによる）

3. 大宮古墳石室の正面

4. 福庭古墳玄室奥壁の細部



向山6号墳石室３次元レーザー実測図（オルソ図）

図版10

向山6号墳石室の偏差解析図（ヒートマップ）

永昌寺十三重石塔（修復後）

図版12

1. 永昌寺十三重石塔の基壇部

2. 永昌寺十三重石塔とその周辺の状況（修復後）

書　名：平成28（2016）年鳥取県中部地震による石造文化財の被害調査

発行日：2019年3月29日

編　者：高田健一

発　行：鳥取大学地域学部考古学研究室・保存科学研究室

印　刷：勝美印刷株式会社